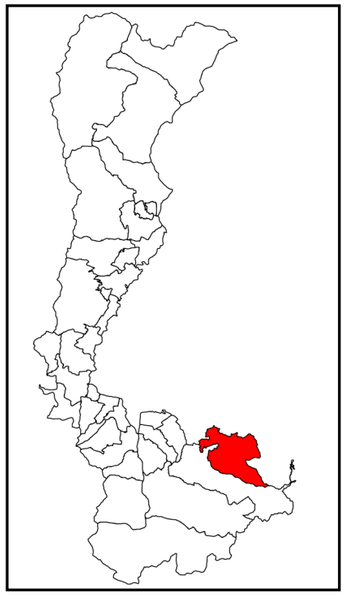
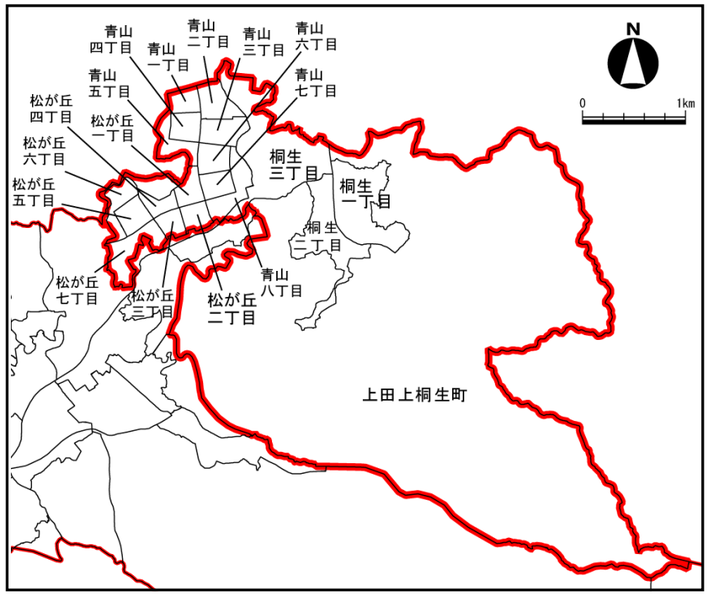
◆ 青山学区

■ 学区の概況





＜町丁名＞

青山一丁目、青山二丁目、青山三丁目、青山四丁目、青山五丁目、青山六丁目、青山七丁目、青山八丁目、松が丘一丁目、松が丘二丁目、松が丘三丁目、松が丘四丁目、松が丘五丁目、松が丘六丁目、松が丘七丁目、上田上桐生町、桐生一丁目、桐生二丁目、桐生三丁目

（注）学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

＜学区の特徴＞

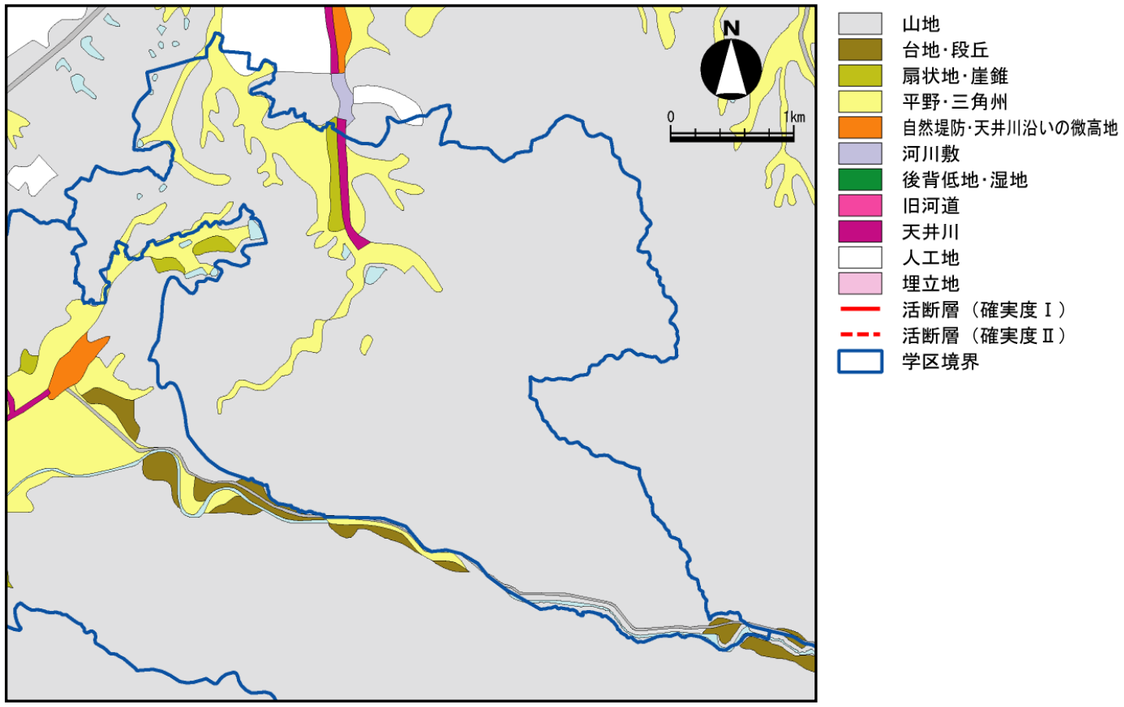
青山学区は、青山・松が丘地域に開発された住宅地が、平成 4 年 4 月に上田上学区から独立したもので、新しい建物、景観、文化が築かれていく地域である。

この学区は、丘陵地と山地からなる自然環境に恵まれた地域であり、とくに草津川源流は自然豊かなキャンプ場や湖南アルプスハイキングコースとして親しまれている。

近年は青山・松が丘地域において大規模な住宅開発が進められ、都市化が急速に進んでいる。

平成 20 年 2 月には、新名神高速道路が開通し、学区内を縦断し信楽方面に至っている。

■ 地形・地質の概要



（注）図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜地形の特徴＞

- 青山学区の地形の大部分は山地であるが、北西部には丘陵地が見られる。丘陵地では、青山・松が丘地域を中心として宅地開発が進んでいる。

＜地質の特徴＞

- 主な山地部は田上花崗岩からなる。田上花崗岩は中生代白亜紀の火成活動により形成されたものである。
- 北東部の鶏冠山付近は、丹波帯からなる。丹波帯は海洋性起源の岩石と陸源性の砕屑岩からなる地層で、近畿地方の北部に広く分布している。
- 北西部の丘陵は瀬田丘陵と呼ばれ、古琵琶湖層群草津累層からなる。草津累層は約 200 万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度（戸/ha）(注1)	不燃領域率（%）(注2)	木造率（%）	旧耐震木造建物/木造建物（%）
青山一丁目	51.7	27.5	92.5	0.0
青山二丁目	44.4	65.2	86.4	0.0
青山三丁目	47.6	62.1	82.0	0.0
青山四丁目	50.0	31.8	96.0	0.0
青山五丁目	51.6	65.1	87.0	0.0
青山六丁目	44.9	58.8	64.0	0.0
青山七丁目	47.7	65.4	50.0	0.0
青山八丁目	50.0	64.1	63.4	0.0
松が丘一丁目	38.7	60.0	58.8	0.0
松が丘二丁目	46.7	64.4	53.3	0.0
松が丘三丁目	49.5	53.5	69.0	0.0
松が丘四丁目	61.0	79.0	71.3	0.0
松が丘五丁目	54.5	55.7	70.3	0.0
松が丘六丁目	－	－	－	－
松が丘七丁目	89.6	95.0	62.9	0.0
上田上桐生町	－	－	－	－
桐生一丁目	37.0	65.8	79.8	67.7
桐生二丁目	－	－	81.0	62.7
桐生三丁目	46.8	97.0	67.4	56.5
学区平均	46.8	94.4	73.3	16.9
出典	1,2	1,2	2	2

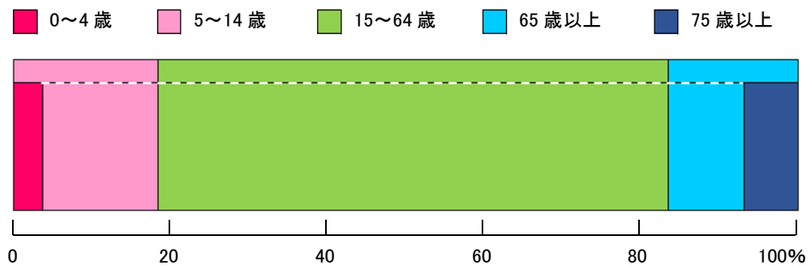
（注）表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
（注 1）市街化区域を対象とした。
（注 2）算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上，市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。
出典　1：大津湖南都市計画基礎調査（H30.2）土地利用現況
　　2：資産税データ（R4.4）

- 住宅密集度の学区平均は 46.8 戸/ha で市平均（全学区の平均）の 59.3 戸/ha より低い。
- 不燃領域率の学区平均は 94.4%で市平均の 93.9%より高い。
- 木造率は、青山四丁目が 96.0%で最も高く、青山七丁目が 50.0%で最も低い。学区平均は 73.3%で市平均 72.7%より高い。
- 旧耐震木造建物割合は、桐生一丁町が 67.7%で最も高く、青山地区と松が丘地区が 0.0%で最も低い。学区平均は 16.9%で市平均 40.3%を大きく下回り、市内で３番目に低い。
- 青山・松が丘地域は、開発された宅地であるため、すべての木造建物が新しい耐震基準で建築されている。

■ 人口の状況

項　　目	人口等	単位	備　　考	割合（%）	出典
学区人口	10,870	人		－	1
年齢別（0～4 歳）	391	人	学区人口に対する割合	3.6	1
年齢別（5～14 歳）	1,608	人	学区人口に対する割合	14.8	1
年齢別（15～64 歳）	7,059	人	学区人口に対する割合	64.9	1
年齢別（65 歳以上）	1,812	人	学区人口に対する割合	16.7	1
年齢別（75 歳以上）	759	人	学区人口に対する割合	7.0	1
世帯数	3,680	世帯		－	2
１世帯当たり人口	3.0	人/世帯		－	2
要介護認定者	269	人	学区人口に対する割合	2.5	3
身体障害者（要配慮者）	91	人	学区人口に対する割合	0.8	4
知的障害者（要配慮者）	25	人	学区人口に対する割合	0.2	4
外国人居住者	83	人	学区人口に対する割合	0.8	5

（注）１世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
出典　1：年齢別・学区別人口統計表（R4.3.31 現在）、2：学区別人口・世帯数の年別推移（R4.3.31 現在）
　　3：学区別要介護認定者（R4.4.30 現在）、4：大津市データ（R4.3.31 現在）
　　5：住民基本台帳情報からの統計（R4.3.31）



＜年齢別人口比率＞

- 人口は学区北部の住宅地（青山・松ヶ丘地域）に集中する。
- 高齢者（65 歳以上）は 1812 人、乳幼児（0～4 歳）は 391 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 16.7%、3.6%である。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均（27.2%）より低く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均（3.9%）より低い。
- 要介護認定者は 269 人（2.5%）、身体障害者（要配慮者）は 91 人（0.8%）、知的障害者（要配慮者）は 25 人（0.2%）である。
- 外国人居住者は 83 人（0.8%）である。

■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 (注1)	21 箇所	1
土石流危険渓流 (注1)	10 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 (注1)(注2)	22 箇所	2
土砂災害警戒区域 (注1)(注2)	27 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） (注1)	1 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） (注1)	0 箇所	3
雪崩危険箇所 (注1)	0 箇所	4
地すべり防止区域 (注1)	0 箇所	5
地すべり危険箇所 (注1)	0 箇所	1
浸水想定区域 (注3)（0.0m～0.5m）	101,639 ㎡	6
（0.5m～1.0m）	48,663 ㎡	6
（1.0m～2.0m）	31,852 ㎡	6
（2.0m～）	67,915 ㎡	6
特に重要な水防区域 (注1)	0 箇所	7
重要水防区域 (注1)	0 箇所	7
防災重点農業用ため池 (注1)	13 箇所	8

（注 1）危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。
（注 2）複数の区域をまとめて１つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。
（注 3）浸水想定区域は、琵琶湖の水位が B.S.L.＋2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。
出典　1：滋賀県砂防課（R3.7.16）　2：滋賀県砂防課（R3.2）
3：滋賀県森林保全課（R3.11）　4：滋賀県砂防課（H24.12）　5：農林振興課、砂防課（H24.12）
6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）
7：琵琶湖河川事務所（R2.6）　8：大津市産業観光部（R3.12）

＜防災上の特性＞

- 人口は青山・松が丘周辺の住宅地に集中している。
- 桐生地区に土石流危険渓流の分布が集中している。これらの渓流は草津川の水系である。豪雨などの場合は土石流危険渓流の危険区域とあわせて草津川についても注意が必要である。
- 学区内には急傾斜地崩壊危険箇所が点在する。豪雨などの場合はもちろんのこと、地震時にもこれらのエリアで崩壊が生じ、２次的に災害が発生する可能性があるため警戒が必要である。

■ 防災関連施設情報

＜指定緊急避難場所・指定避難所＞

種　類	名　称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	青山小学校グラウンド	○	○	○		青山三丁目 16-1
	青山中学校グラウンド	○	○	○		青山八丁目 24-1
	青山幼稚園グラウンド	○	○	○		青山三丁目 16-2
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	青山市民センター	○	○	○		青山五丁目 13-36
	青山小学校体育館	○	○	○		青山三丁目 16-1
	青山中学校体育館	○	○	○		青山八丁目 24-1
	青山幼稚園	○	○	○		青山三丁目 16-2
指定避難所	青山中学校武道場	―				青山八丁目 24-1
	（福）青山児童クラブ	―				青山三丁目 16-3

（注）指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。
指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。
※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

＜市関連機関＞

名　称	所在地	電話番号
大津市役所	**御陵町 3-1**	**523-1234, 528-2616**
青山市民センター	青山五丁目 13-36	549-3663

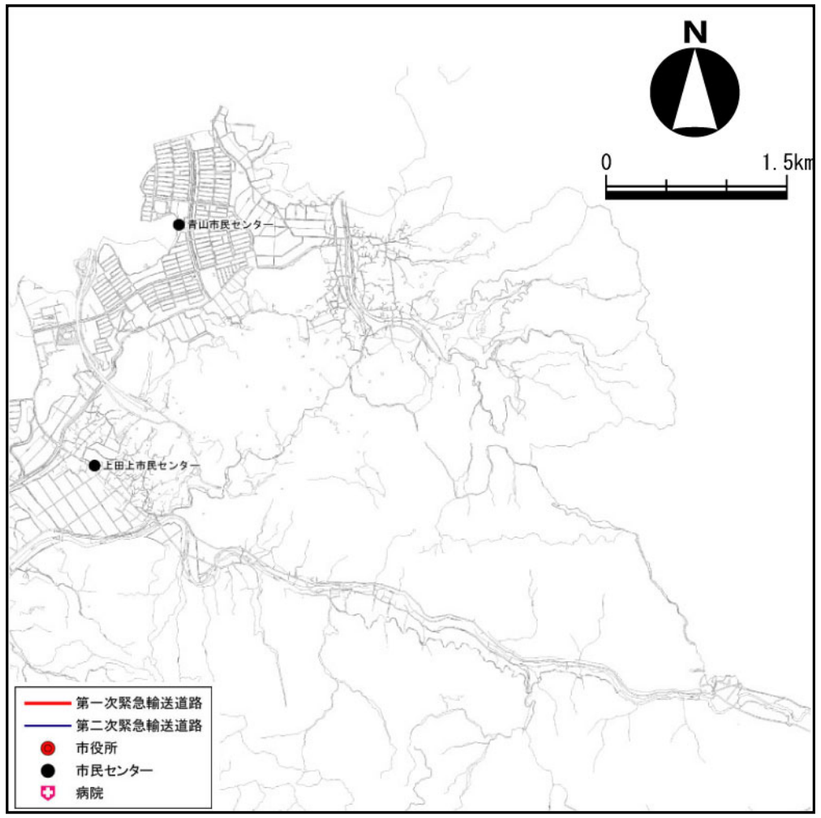
＜警察　110＞

名　称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	**打出浜 1-10**	**522-1231**
大津警察署	**打出浜 12-7**	**522-1234**

＜消防　119＞

名　称	所在地	電話番号
大津市消防局	**御陵町 3-1**	**522-0119**
東消防署	**大江四丁目 18-1**	**543-0119**
青山救急出張所	青山五丁目 13-36	549-3799
青山分団	青山五丁目 13-36	549-0456

＜緊急輸送道路＞



（注）緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

＜医療施設＞

種　別		名　称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35	522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9	522-4607
	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298	594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29	573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1	537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町	548-2111

■ 地震災害危険度予測

＜地震被害想定結果＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震

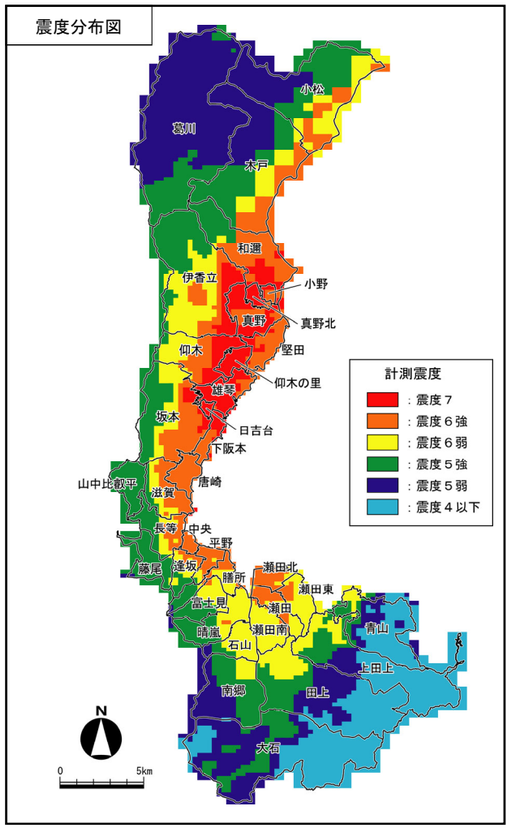
被害想定ケース	建物棟数（注1）	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース１	3,095	6,584	0	108	54	0	1	0	21	73	12	2	7	1
ケース２	3,095	6,584	0	3	1	0	0	0	1	2	0	0	0	0
ケース３	3,095	6,584	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

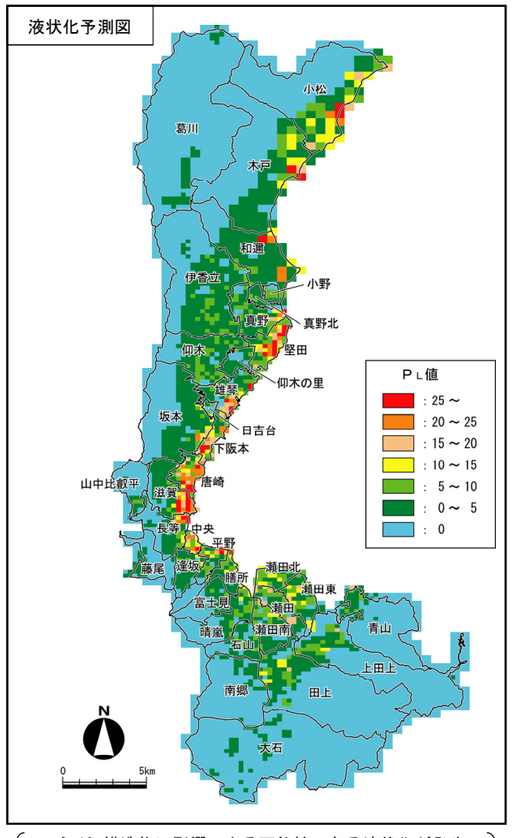
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース１	0	0	0	103
ケース２	0	0	0	3
ケース３	0	0	0	0

（注）表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。
（注 1）建物棟数のみ青山学区と上田上学区の合計である。
出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜震度分布及び液状化予測図＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震（ケース２）



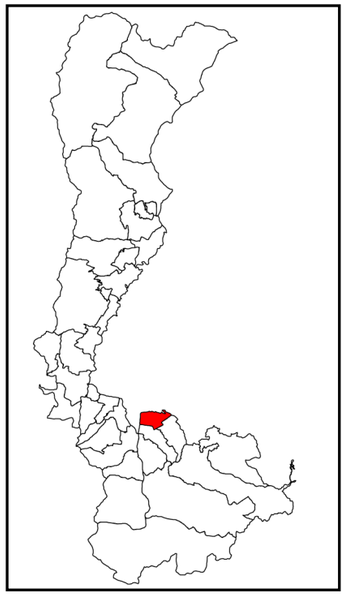


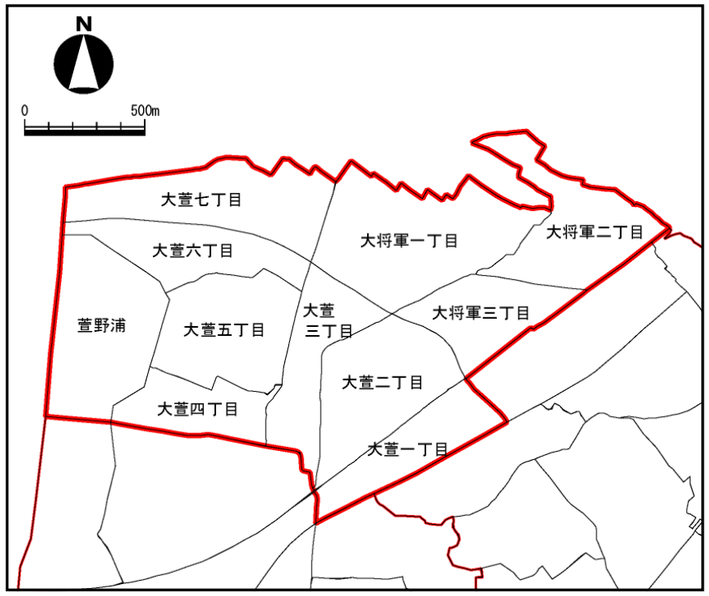
出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）
志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）

（P L≧10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
P L≧20 激しい液状化）

◆ 瀬田北学区

■ 学区の概況





＜町丁名＞

大萱一丁目、大萱二丁目、大萱三丁目、大萱四丁目、大萱五丁目、大萱六丁目、大萱七丁目、萱野浦、大将軍一丁目、大将軍二丁目、大将軍三丁目

（注）学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

＜学区の特徴＞

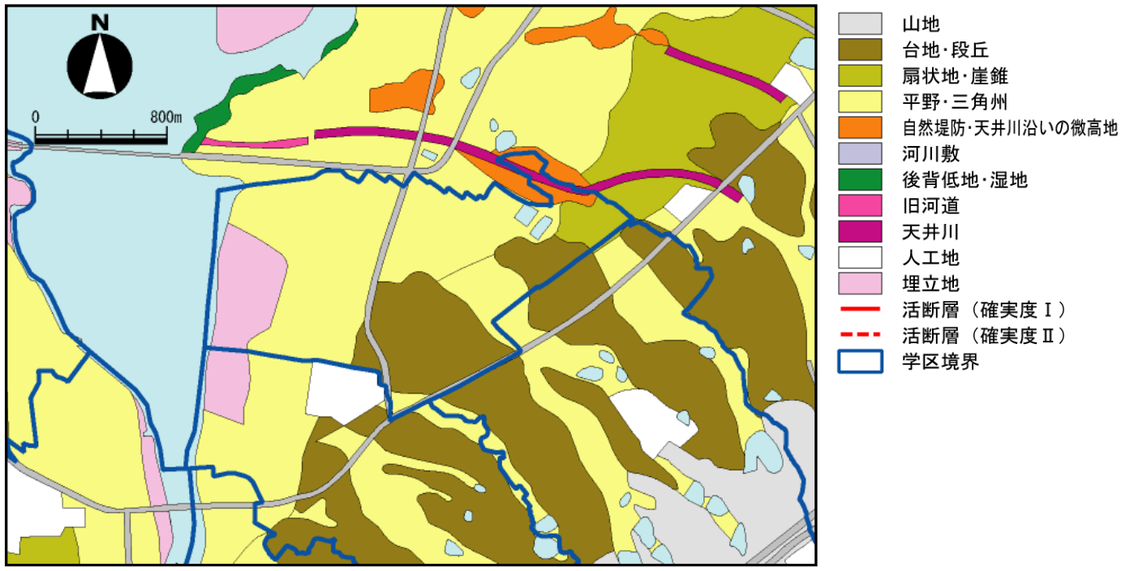
瀬田地域 4 学区制により平成 3 年 4 月に誕生した学区である。

大津市の東部に位置し、琵琶湖南端の東岸に面している。15 世紀中頃から船奉行として湖上の交通を管理した芦浦観音寺（草津市）に至る街道（芦浦街道）沿いに古い町並みが残り、歴史を感じさせる。

また、江戸時代には膳所藩の「米どころ」であり、札場跡や殿田水門、ため池などの施設が残っている。

古くは、農村地帯であったが、JR 琵琶湖線、国道 1 号、浜街道などが通っており、交通至便の環境にあったことから、昭和 30 年代後半から住宅地として開発が進み、人口が急増することとなった。

■ 地形・地質の概要



（注）図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜地形の特徴＞

- 瀬田北地域の地形は台地と低地からなる。低地は台地の間の谷底低地と、琵琶湖に面した三角州に細分される。低地は利水条件が良いため水田として利用されているところが多い。
- 湖岸沿いの瀬田浦地区は昭和 38 年に完成した埋立地である。
- 台地は中位段丘に分類され、市街地はこの付近を中心に広がる。草津市と接する大将軍二丁目付近には天井川が通過しており、その周辺は自然堤防・天井川沿いの微高地になっている。

＜地質の特徴＞

- 瀬田丘陵は、古琵琶湖層群草津累層からなる。草津累層は約 200 万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。

◆ 瀬田北学区

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度（戸/ha）(注1)	不燃領域率（%）(注2)	木造率（%）	旧耐震木造建物/木造建物（%）
大萱一丁目	61.3	98.4	11.4	54.2
大萱二丁目	58.6	46.5	78.7	66.2
大萱三丁目	59.0	46.8	80.1	63.0
大萱四丁目	43.0	80.3	75.2	11.6
大萱五丁目	71.4	63.5	86.6	22.7
大萱六丁目	61.3	71.6	82.1	13.4
大萱七丁目	56.1	78.3	80.7	3.8
萱野浦	59.1	86.7	65.2	0.0
大将軍一丁目	62.2	81.5	75.2	3.1
大将軍二丁目	35.6	93.8	53.7	4.5
大将軍三丁目	54.6	65.0	74.9	8.5
学区平均	58.5	75.3	75.3	29.8
出典	1,2	1,2	2	2

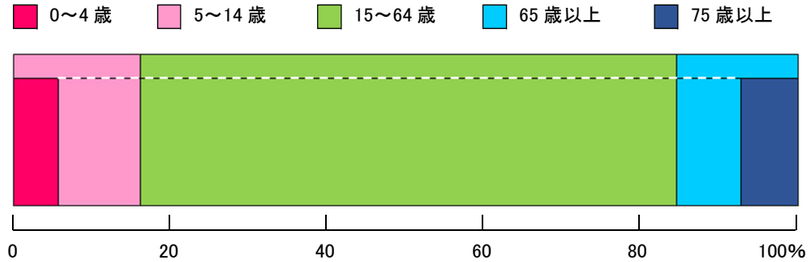
(注) 表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
(注1) 市街化区域を対象とした。
(注2) 算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上，市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。
出典　1：大津湖南都市計画基礎調査（H30.2）土地利用現況
　　2：資産税データ（R4.4）

- 住宅密集度の学区平均は 58.5 戸/ha で市平均（全学区の平均）の 59.3 戸/ha より低い。
- 不燃領域率の学区平均は 75.3%で市平均の 93.9%を下回り、市内で５番目に低い。
- 木造率は、大萱五丁目が 86.6%で最も高く、大萱一丁目が 11.4%で最も低い。学区平均は 75.3%で市平均 72.7%より高い。
- 旧耐震木造建物割合は、大萱二丁目が 66.2%で最も高く、萱野浦が 0.0%で最も低い。学区平均は 29.8%で市平均 40.3%より低い。

■ 人口の状況

項　　目	人口等	単位	備　　考	割合（%）	出典
学区人口	19,114	人		－	1
年齢別（0～4 歳）	1,087	人	学区人口に対する割合	5.7	1
年齢別（5～14 歳）	1,988	人	学区人口に対する割合	10.4	1
年齢別（15～64 歳）	13,066	人	学区人口に対する割合	68.4	1
年齢別（65 歳以上）	2,973	人	学区人口に対する割合	15.6	1
年齢別（75 歳以上）	1,395	人	学区人口に対する割合	7.3	1
世帯数	8,592	世帯		－	2
１世帯当たり人口	2.2	人/世帯		－	2
要介護認定者	596	人	学区人口に対する割合	3.1	3
身体障害者（要配慮者）	130	人	学区人口に対する割合	0.7	4
知的障害者（要配慮者）	23	人	学区人口に対する割合	0.1	4
外国人居住者	352	人	学区人口に対する割合	1.8	5

(注)　１世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
出典　1：年齢別・学区別人口統計表（R4.3.31 現在）、2：学区別人口・世帯数の年別推移（R4.3.31 現在）
　　3：学区別要介護認定者（R4.4.30 現在）、4：大津市データ（R4.3.31 現在）
　　5：住民基本台帳情報からの統計（R4.3.31）



＜年齢別人口比率＞

- 湖岸の低地の一部を除いて学区のほぼ全域が人口集中地区（ＤＩＤ地区）である。
- 学区人口は、市内で最も多い。
- 高齢者（65 歳以上）は 2973 人、乳幼児（0～4 歳）は 1087 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 15.6%、5.7%である。
- 乳幼児の学区人口は、市内で最も多い。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均（27.2%）より低く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均（3.9%）より高い。
- 要介護認定者は 596 人（3.1%）、身体障害者（要配慮者）は 130 人（0.7%）、知的障害者（要配慮者）は 23 人（0.1%）である。
- 外国人居住者は 352 人（1.8%）である。

■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 (注1)	0 箇所	1
土石流危険渓流 (注1)	0 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 (注1)(注2)	0 箇所	2
土砂災害警戒区域 (注1)(注2)	0 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） (注1)	0 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） (注1)	0 箇所	3
雪崩危険箇所 (注1)	0 箇所	4
地すべり防止区域 (注1)	0 箇所	5
地すべり危険箇所 (注1)	0 箇所	1
浸水想定区域 (注3)（0.0m～0.5m）	199,878 ㎡	6
（0.5m～1.0m）	179,786 ㎡	6
（1.0m～2.0m）	305,441 ㎡	6
（2.0m～）	24,181 ㎡	6
特に重要な水防区域 (注1)	0 箇所	7
重要水防区域 (注1)	0 箇所	7
防災重点農業用ため池 (注1)	1 箇所	8

（注 1）危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。
（注 2）複数の区域をまとめて 1 つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。
（注 3）浸水想定区域は、琵琶湖の水位が B.S.L.＋2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。
出典　1：滋賀県砂防課（R3.7.16）　2：滋賀県砂防課（R3.2）
3：滋賀県森林保全課（R3.11）　4：滋賀県砂防課（H24.12）　5：農林振興課、砂防課（H24.12）
6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）
7：琵琶湖河川事務所（R2.6）　8：大津市産業観光部（R3.12）

＜防災上の特性＞

- 瀬田北学区では土砂災害に関する危険箇所がなく、土砂災害などの自然災害の発生する可能性が低い学区であるといえる。
- 湖岸沿いの低地部には、琵琶湖湖面の上昇による浸水想定区域が広く分布するため、琵琶湖からの浸水に注意が必要である。
- 地震時には湖岸・河川沿いで液状化が発生する可能性がある。

■ 防災関連施設情報

＜指定緊急避難場所・指定避難所＞

種　類	名　称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	瀬田北小学校グラウンド	○	○	○		大将軍一丁目 14-5
	瀬田北中学校グラウンド	○	○	○		大将軍一丁目 13-1
	瀬田北幼稚園グラウンド	○	○	○		大将軍一丁目 14-1
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	瀬田北市民センター	○	○	○		大将軍一丁目 14-30
	瀬田北小学校体育館	○	○	○		大将軍一丁目 14-5
	瀬田北中学校体育館	○	○	○		大将軍一丁目 13-1
	瀬田北幼稚園	○	○	○		大将軍一丁目 14-1
指定避難所	瀬田北中学校武道場	—				大将軍一丁目 13-1
	（福）瀬田北児童クラブ	—				大将軍一丁目 14-2
	（福）びわこ共生モール	—				大萱七丁目 6-43

（注）指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。
指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。
※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

＜市関連機関＞

名　称	所在地	電話番号
大津市役所	**御陵町 3-1**	**523-1234，528-2616**
瀬田北市民センター	大将軍一丁目 14-30	544-2020

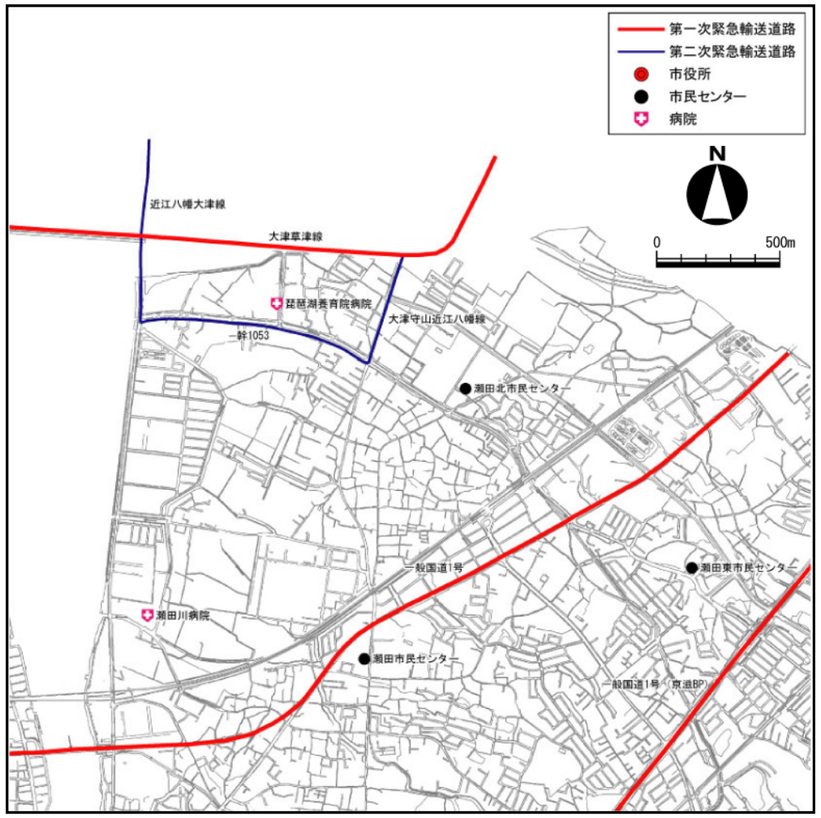
＜警察　110＞

名　称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	**打出浜 1-10**	**522-1231**
大津警察署	**打出浜 12-7**	**522-1234**

＜消防　119＞

名　称	所在地	電話番号
大津市消防局	**御陵町 3-1**	**522-0119**
東消防署	**大江四丁目 18-1**	**543-0119**
瀬田北分団	大将軍一丁目 14-29	544-2067

＜緊急輸送道路＞



（注）緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

＜医療施設＞

種　別		名　称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35	522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9	522-4607
	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298	594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29	573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1	537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町	548-2111
病院		琵琶湖養育院病院	大萱七丁目 7-2	545-9191

■ 地震災害危険度予測

＜地震被害想定結果＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース１	2,385	14,282	854	571	1,140	33	27	25	130	93	98	6	5	5
ケース２	2,385	14,282	998	550	1,273	46	35	34	115	87	86	6	4	4
ケース３	2,385	14,282	611	600	911	18	13	14	178	136	134	9	7	7

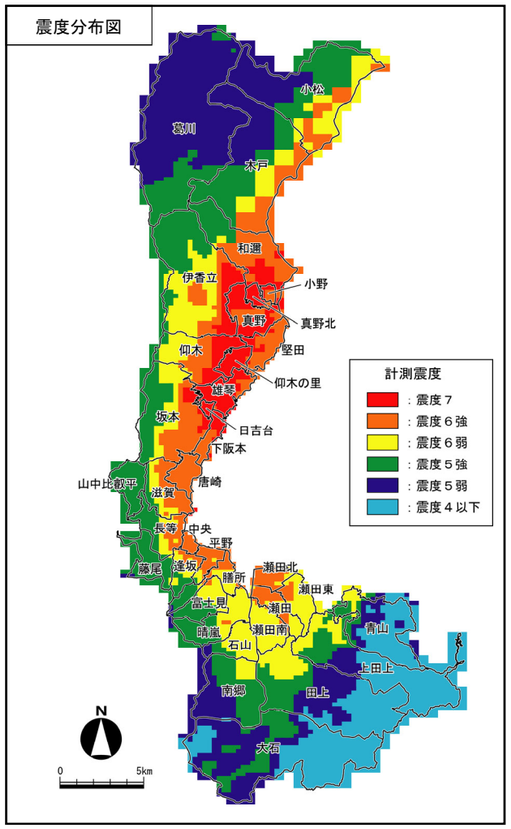
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース１	1	2	3	1,744
ケース２	1	3	4	1,887
ケース３	1	1	2	1,478

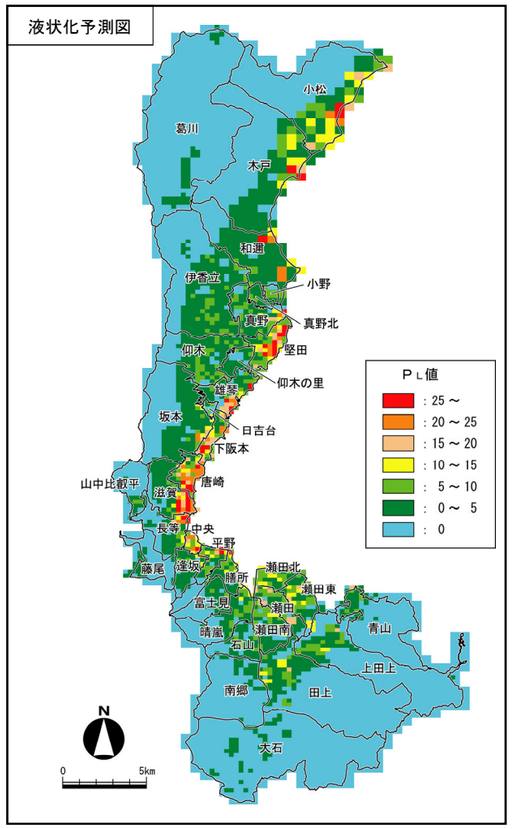
（注）表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜震度分布及び液状化予測図＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震（ケース２）





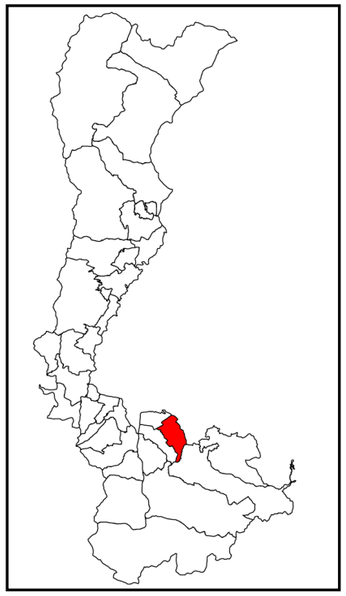
出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

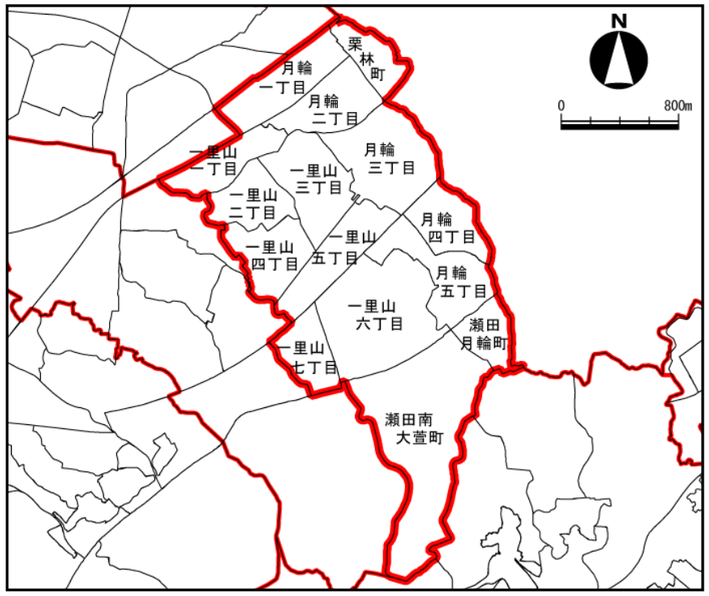
（ＰＬ≧10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
ＰＬ≧20 激しい液状化）

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）

◆ 瀬田東学区

■ 学区の概況





＜町丁名＞

瀬田南大萱町、瀬田月輪町、一里山一丁目、一里山二丁目、一里山三丁目、一里山四丁目、一里山五丁目、一里山六丁目、月輪一丁目、月輪二丁目、月輪三丁目、月輪四丁目、月輪五丁目、栗林町

（注）学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

＜学区の特徴＞

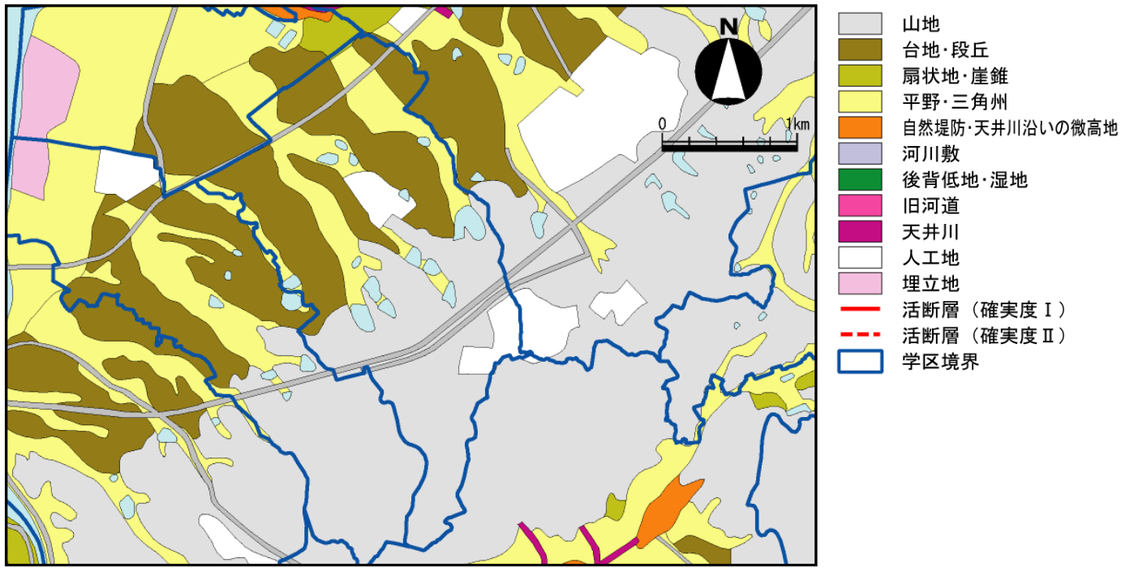
瀬田地域４学区制により平成３年４月に誕生した学区である。

かつては東海道沿いに開けたのどかな農村地帯であり、大津京に多量の製品を供給した山ノ神生産遺跡釜跡をはじめ、東海道一里塚跡などの史跡や街道の雰囲気を残している。

近年、JR 瀬田駅の開設や京滋バイパスの開通などと、交通体系の整備、温暖な気候などの好条件が重なって住宅開発が急激に進み、人口は増加の一途をたどっている。

新しい洋風の家並みに続く山手には池や山林などが多く残っており、このような自然を生かして瀬田公園が整備され、市民の憩いの場となっている。また、丘陵地には大学、高校、近代美術館、県立図書館などの教育・文化施設や公園が整備され、文化ゾーンを形成している。

■ 地形・地質の概要



（注）図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜地形の特徴＞

- 瀬田東地域の地形は低地と台地と丘陵からなる。
- 台地の間には低地が細長く入り込み谷底低地となっている。一般には谷底低地は湧き水が豊富であり、そのほとんどは水田として利用されている。台地は中位段丘と高位段丘に細分される。
- 丘陵は瀬田丘陵と呼ばれ、全体として南側が大戸川に急崖を向け、北側は湖岸へ向かって緩傾斜をなす傾動地塊状の丘陵である。本地域の丘陵斜面は傾斜の緩い北側斜面にあたり、近年人工造成され文化ゾーンとして開発されている。

＜地質の特徴＞

- 瀬田丘陵は、古琵琶湖層群草津累層からなる。草津累層は約 200 万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。

◆ 瀬田東学区

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度（戸/ha）(注1)	不燃領域率（%）(注2)	木造率（%）	旧耐震木造建物/木造建物（%）
瀬田南大萱町	－	－	－	－
瀬田月輪町	－	－	－	－
一里山一丁目	61.8	74.4	67.7	49.4
一里山二丁目	62.0	67.0	70.4	49.0
一里山三丁目	55.1	67.7	76.4	34.8
一里山四丁目	56.4	51.9	76.6	21.8
一里山五丁目	68.5	65.6	66.1	16.5
一里山六丁目	66.1	94.9	83.3	2.4
月輪一丁目	－	－	9.9	50.0
月輪二丁目	58.3	74.9	75.8	33.7
月輪三丁目	57.0	73.2	80.5	14.2
月輪四丁目	60.7	86.5	59.6	0.0
月輪五丁目	63.9	86.7	69.6	0.0
栗林町	115.0	93.9	53.9	43.7
学区平均	62.4	84.2	70.6	25.4
出典	1,2	1,2	2	2

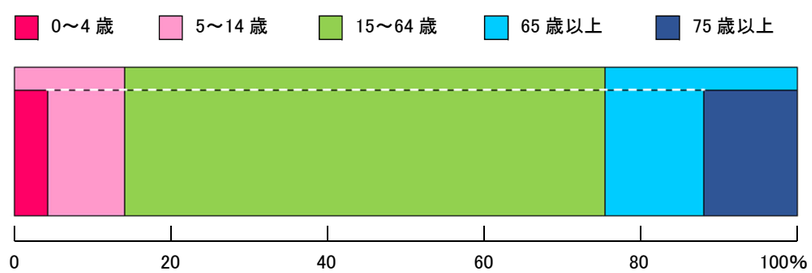
（注）表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
（注 1）市街化区域を対象とした。
（注 2）算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上，市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。
出典　1：大津湖南都市計画基礎調査（H30.2）土地利用現況
　　2：資産税データ（R4.4）

- 住宅密集度の学区平均は 62.4 戸/ha で市平均（全学区の平均）の 59.3 戸/ha より高い。
- 不燃領域率の学区平均は 84.2%で市平均の 93.9%より低い。
- 木造率は、一里山六丁目が 83.3%で最も高く、月輪一丁目が 9.9%で最も低い。学区平均は 70.6%で市平均 72.7%より低い。
- 旧耐震木造建物割合は、月輪一丁目が 50.0%で最も高く、月輪四丁目～五丁目が 0.0%で最も低い。学区平均 25.4%で市平均 40.3%を下回り、市内で４番目に低い。

■ 人口の状況

項　　目	人口等	単位	備　　考	割合（%）	出典
学区人口	15,524	人		－	1
年齢別（0～4 歳）	666	人	学区人口に対する割合	4.3	1
年齢別（5～14 歳）	1,524	人	学区人口に対する割合	9.8	1
年齢別（15～64 歳）	9,510	人	学区人口に対する割合	61.3	1
年齢別（65 歳以上）	3,824	人	学区人口に対する割合	24.6	1
年齢別（75 歳以上）	1,871	人	学区人口に対する割合	12.1	1
世帯数	6,943	世帯		－	2
１世帯当たり人口	2.2	人/世帯		－	2
要介護認定者	636	人	学区人口に対する割合	4.1	3
身体障害者（要配慮者）	189	人	学区人口に対する割合	1.2	4
知的障害者（要配慮者）	31	人	学区人口に対する割合	0.2	4
外国人居住者	360	人	学区人口に対する割合	2.3	5

（注）１世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
出典　1：年齢別・学区別人口統計表（R4.3.31 現在）、2：学区別人口・世帯数の年別推移（R4.3.31 現在）
　　3：学区別要介護認定者（R4.4.30 現在）、4：大津市データ（R4.3.31 現在）
　　5：住民基本台帳情報からの統計（R4.3.31）



＜年齢別人口比率＞

- 学区北部の平野・段丘部は人口集中地区（ＤＩＤ地区）である。
- 高齢者（65 歳以上）は 3824 人、乳幼児（0～4 歳）は 666 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 24.6%、4.3%である。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均（27.2%）より低く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均（3.9%）より高い。
- 要介護認定者は 636 人（4.1%）、身体障害者（要配慮者）は 189 人（1.2%）、知的障害者（要配慮者）は 31 人（0.2%）である。
- 外国人居住者は 360 人（2.3%）である。

■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 (注1)	0 箇所	1
土石流危険渓流 (注1)	2 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 (注1)(注2)	1 箇所	2
土砂災害警戒区域 (注1)(注2)	2 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） (注1)	0 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） (注1)	0 箇所	3
雪崩危険箇所 (注1)	0 箇所	4
地すべり防止区域 (注1)	0 箇所	5
地すべり危険箇所 (注1)	0 箇所	1
浸水想定区域 (注3)（0.0m～0.5m）	0 ㎡	6
（0.5m～1.0m）	0 ㎡	6
（1.0m～2.0m）	0 ㎡	6
（2.0m～）	0 ㎡	6
特に重要な水防区域 (注1)	0 箇所	7
重要水防区域 (注1)	0 箇所	7
防災重点農業用ため池 (注1)	7 箇所	8

（注 1）危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。
（注 2）複数の区域をまとめて１つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。
（注 3）浸水想定区域は、琵琶湖の水位が B.S.L.＋2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。
出典　1：滋賀県砂防課（R3.7.16）　2：滋賀県砂防課（R3.2）
3：滋賀県森林保全課（R3.11）　4：滋賀県砂防課（H24.12）　5：農林振興課、砂防課（H24.12）
6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）
7：琵琶湖河川事務所（R2.6）　8：大津市産業観光部（R3.12）

＜防災上の特性＞

- 瀬田東学区では土石流危険渓流が２箇所しかないため、土砂災害などの自然災害の発生する可能性が低い学区であるといえる。
- 市内でも人口が多い学区の一つであり、人口密度も高いが、避難場所が８箇所あり、十分な広さの避難場所が確保されているといえる。

■ 防災関連施設情報

＜指定緊急避難場所・指定避難所＞

種　類	名　称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	瀬田東小学校グラウンド	○	○	○		一里山二丁目 20-2
	瀬田東幼稚園グラウンド	○	○	○		一里山二丁目 20-1
	滋賀県立東大津高校グラウンド	○	○	○		瀬田南大萱町 1732-2
	月輪自動車教習所	○	○	○		月輪一丁目 6-1
	一里山公園	○	○	○		一里山三丁目 16
	月輪大池公園	○	○	○		月輪四丁目 1
	びわこ文化公園	○	○	○	○	瀬田南大萱町 1740-1
	瀬田公園	○	○	○	○	一里山六丁目 9 他
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	瀬田東市民センター	○	○	○		一里山三丁目 16-1
	瀬田東小学校体育館	○	○	○		一里山二丁目 20-2
	瀬田東幼稚園	○	○	○		一里山二丁目 20-1
	滋賀県立東大津高校体育館	○	○	○		瀬田南大萱町 1732-2
	一里山公園緑のふれあいセンター	○	○	○		一里山三丁目 16-1
	瀬田公園体育館	○	○	○		一里山六丁目 9
指定避難所	滋賀県立東大津高校柔剣道場	―				瀬田南大萱町 1732-2
	（福）瀬田東児童クラブ	―				一里山三丁目 4-1

（注）指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。
指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。
※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

＜市関連機関＞

名　称	所在地	電話番号
大津市役所	**御陵町 3-1**	**523-1234，528-2616**
瀬田東市民センター	一里山三丁目 16-1	545-9001

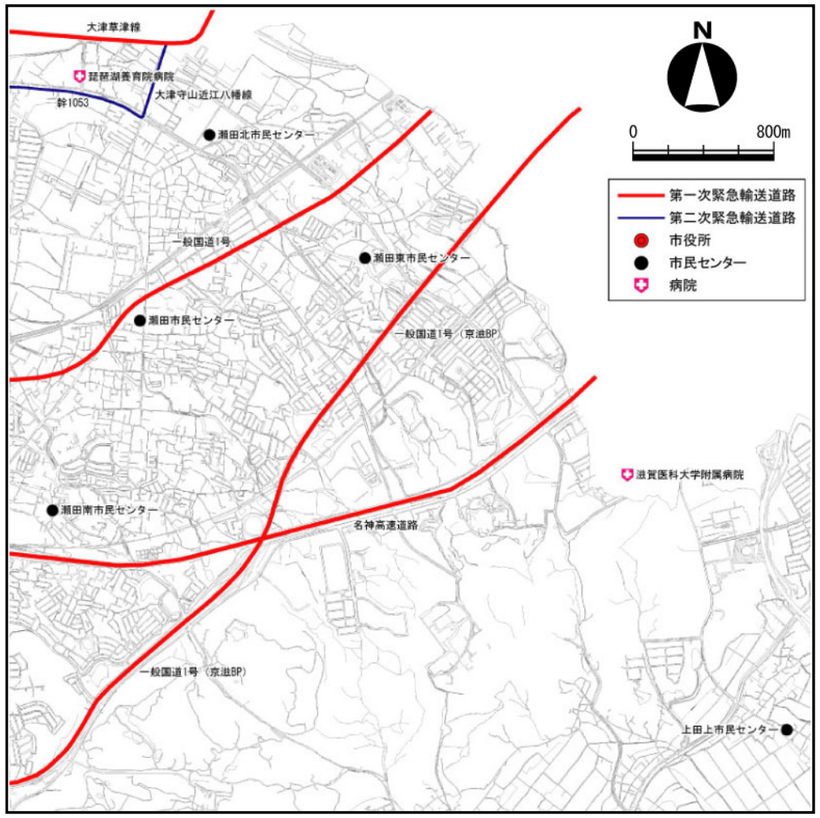
＜警察　110＞

名　称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	**打出浜 1-10**	**522-1231**
大津警察署	**打出浜 12-7**	**522-1234**
瀬田駅前交番	大萱一丁目 11-8	543-2940

＜消防　119＞

名　称	所在地	電話番号
大津市消防局	**御陵町 3-1**	**522-0119**
東消防署	**大江四丁目 18-1**	**543-0119**
瀬田東分団	一里山三丁目 16-1	543-4021

＜緊急輸送道路＞



（注）緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

＜医療施設＞

種　別		名　称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35	522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9	522-4607
	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298	594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29	573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1	537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町	548-2111

■ 地震災害危険度予測

＜地震被害想定結果＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース１	4,230	13,994	1,536	995	2,034	55	34	38	175	123	121	9	6	6
ケース２	4,230	13,994	1,270	1,033	1,786	38	23	26	179	129	124	9	6	6
ケース３	4,230	13,994	602	1,042	1,123	14	9	9	290	174	201	16	10	11

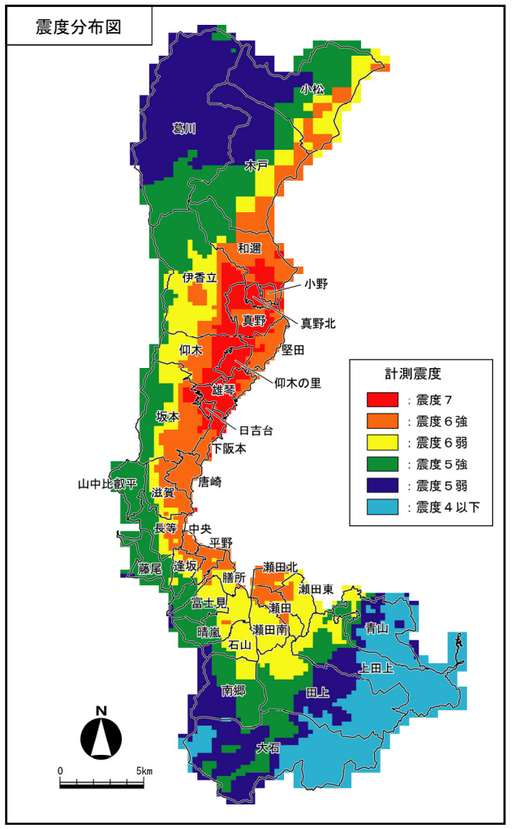
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース１	2	4	5	2,663
ケース２	1	3	4	2,414
ケース３	1	2	2	1,744

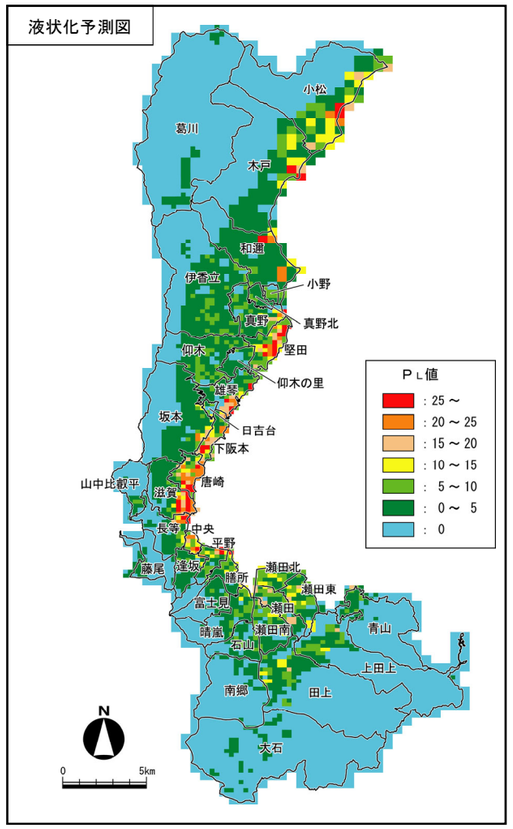
（注）表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜震度分布及び液状化予測図＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震（ケース２）





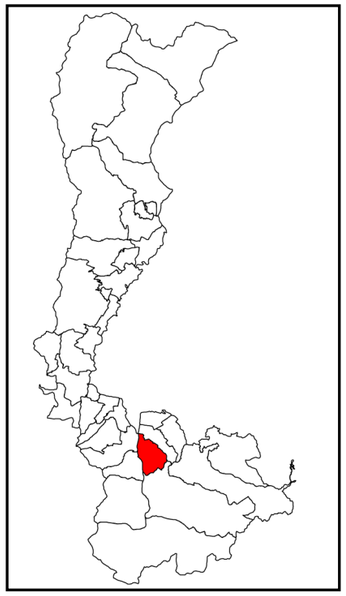
出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

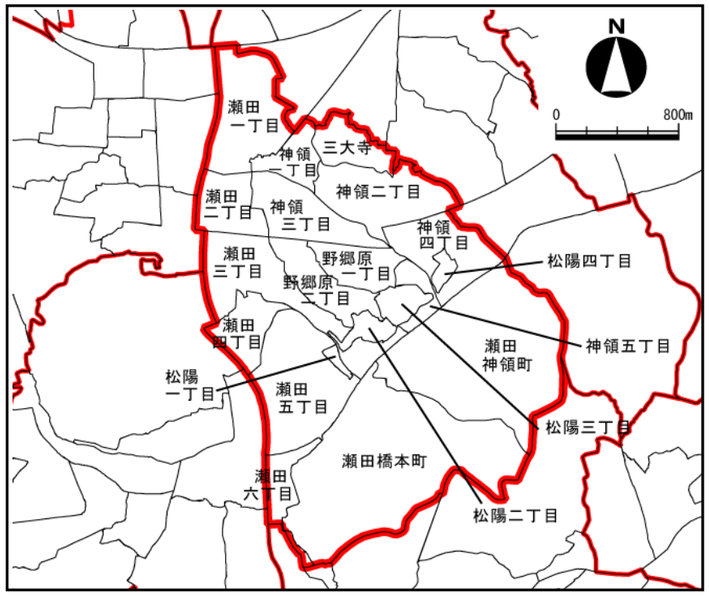
（ＰＬ≧10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
ＰＬ≧20 激しい液状化）

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）

◆ 瀬田南学区

■ 学区の概況





＜町丁名＞

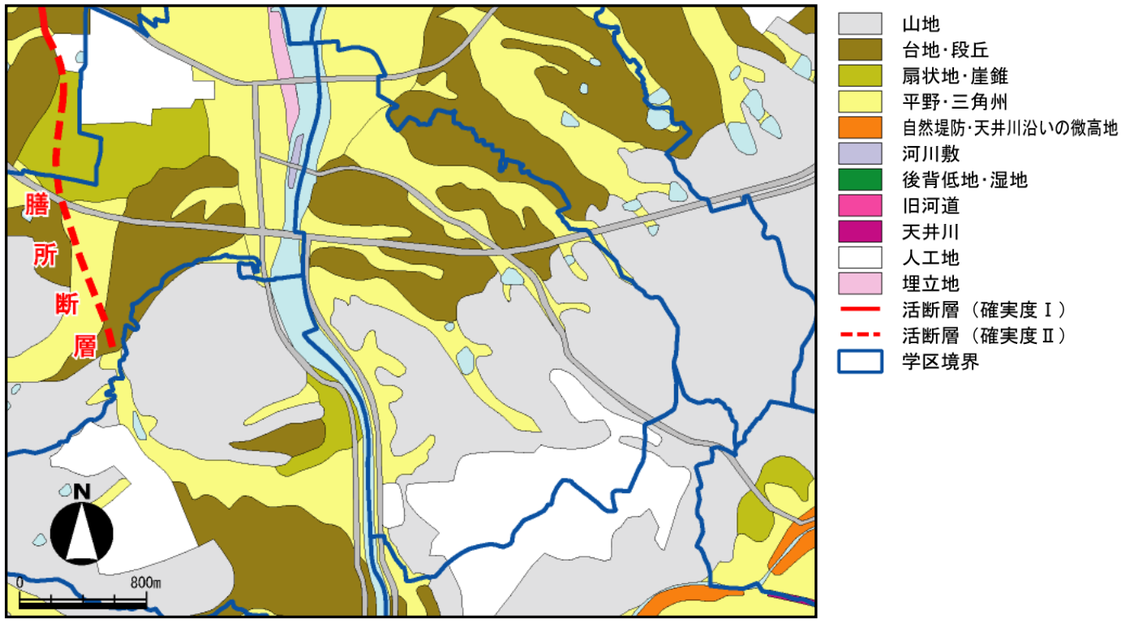
瀬田橋本町、瀬田神領町、瀬田一丁目、瀬田二丁目、瀬田三丁目、瀬田四丁目、瀬田五丁目、瀬田六丁目、神領一丁目、神領二丁目、神領三丁目、神領四丁目、神領五丁目、野郷原一丁目、野郷原二丁目、三大寺、松陽一丁目、松陽二丁目、松陽三丁目、松陽四丁目、大江二丁目の一部、大江三丁目の一部、玉野浦

（注）学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

＜学区の特徴＞

瀬田地域 4 学区制により平成 3 年 4 月に誕生した学区である。瀬田川東部に接しており、魚や蜆などの漁でにぎわっていた。昔から交通の要衝であり、東海道が通過し奈良街道や田上不動道などの分岐点にもあたっていた。また、８世紀当時の県庁にあたる近江国庁跡や瀬田廃寺跡があり、16 世紀には瀬田城が唐橋を守る軍事上の拠点となるなど、政治や軍事の中心であったことがうかがえる。壬申の乱をはじめとして瀬田唐橋を中心に幾多の戦乱の舞台となった。伝統行事として大津三大祭の一つである建部大社古式納涼船幸祭は有名であり、瀬田唐橋には「俵藤太のむかで退治」など多くの伝説がある。

■ 地形・地質の概要



（注）図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜地形の特徴＞

- 瀬田南地域の地形は丘陵・台地と低地からなる。
- 低地は瀬田川に沿って広がる氾濫原性低地と、台地の間に細長く入り込んだ谷底低地と、琵琶湖に面して広がる三角州に細分される。
- 台地は中位段丘と高位段丘に細分される。瀬田丘陵は全体として南側が大戸川に急崖を向け、北側は湖岸へ向かって緩傾斜をなす傾動地塊状の丘陵である。本地域の丘陵斜面は傾斜の緩い北側斜面にあたり、ゴルフ場として開発されている。
- 北部の玉野浦は、埋立地である。

＜地質の特徴＞

- この地域の丘陵は瀬田丘陵と呼ばれ、古琵琶湖層群草津累層からなる。草津累層は約 200 万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度（戸/ha）(注1)	不燃領域率（%）(注2)	木造率（%）	旧耐震木造建物/木造建物（%）
瀬田橋本町	－	－	－	－
瀬田神領町	－	－	－	－
瀬田一丁目	81.9	75.1	82.6	61.3
瀬田二丁目	59.8	68.8	82.9	58.2
瀬田三丁目	64.8	70.8	75.7	26.6
瀬田四丁目	－	－	57.7	－
瀬田五丁目	51.4	81.5	77.0	4.1
瀬田六丁目	71.0	86.6	43.1	29.0
神領一丁目	94.1	62.9	85.5	65.0
神領二丁目	71.7	57.8	82.4	36.4
神領三丁目	72.6	80.8	69.6	50.2
神領四丁目	－	－	－	－
神領五丁目	－	－	－	－
野郷原一丁目	63.2	53.2	82.0	18.0
野郷原二丁目	72.1	55.0	77.0	24.3
三大寺	17.5	89.8	47.6	20.0
玉野浦	59.6	90.1	74.3	6.8
大江二丁目	64.3	65.8	76.2	50.2
大江三丁目	63.6	53.5	78.5	58.2
松陽一丁目	47.0	65.6	75.0	0.0
松陽二丁目	52.6	74.1	62.5	0.0
松陽三丁目	53.4	74.7	52.5	0.0
松陽四丁目	51.2	66.0	83.0	0.0
学区平均	65.4	82.9	77.4	39.1
出典	1,2	1,2	2	2

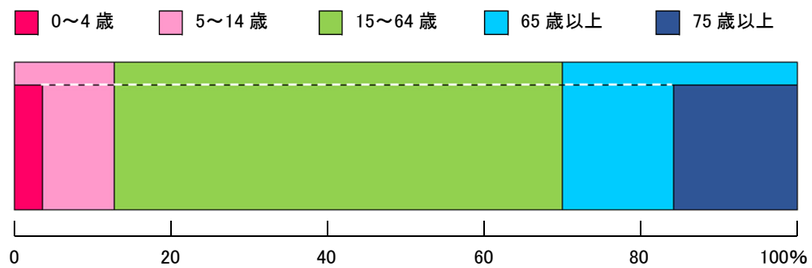
（注）表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
（注1）市街化区域を対象とした。
（注2）算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上，市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。
出典　1：大津湖南都市計画基礎調査（H30.2）土地利用現況
　　2：資産税データ（R4.4）

- 住宅密集度の学区平均は 65.4 戸/ha で市平均（全学区の平均）の 59.3 戸/ha より高い。
- 不燃領域率の学区平均は 82.9%で市平均の 93.9%より低い。
- 木造率は、神領一丁目が 85.5%で最も高く、瀬田六丁目が 43.1%で最も低い。学区平均は 77.4%で市平均 72.7%より高い。
- 旧耐震木造建物割合は、神領一丁町が 65.0%で最も高く、松陽一丁目～四丁目が 0.0%で最も低い。学区平均は 39.1%で市平均 40.3%より低い。

■ 人口の状況

項　　目	人口等	単位	備　　考	割合（%）	出典
学区人口	15,330	人		－	1
年齢別（0～4 歳）	558	人	学区人口に対する割合	3.6	1
年齢別（5～14 歳）	1,386	人	学区人口に対する割合	9.0	1
年齢別（15～64 歳）	8,769	人	学区人口に対する割合	57.2	1
年齢別（65 歳以上）	4,617	人	学区人口に対する割合	30.1	1
年齢別（75 歳以上）	2,431	人	学区人口に対する割合	15.9	1
世帯数	6,899	世帯		－	2
１世帯当たり人口	2.2	人/世帯		－	2
要介護認定者	915	人	学区人口に対する割合	6.0	3
身体障害者（要配慮者）	260	人	学区人口に対する割合	1.7	4
知的障害者（要配慮者）	37	人	学区人口に対する割合	0.2	4
外国人居住者	185	人	学区人口に対する割合	1.2	5

（注）１世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
出典　1：年齢別・学区別人口統計表（R4.3.31 現在）、2：学区別人口・世帯数の年別推移（R4.3.31 現在）
　　3：学区別要介護認定者（R4.4.30 現在）、4：大津市データ（R4.3.31 現在）
　　5：住民基本台帳情報からの統計（R4.3.31）



＜年齢別人口比率＞

- 学区北部の平野・段丘部は人口集中地区（ＤＩＤ地区）である。
- 高齢者（65 歳以上）は 4617 人、乳幼児（0～4 歳）は 558 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 30.1%、3.6%である。
- 高齢者の学区人口は、３番目に多い。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均（27.2%）より高く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均（3.9%）より低い。
- 要介護認定者は 915 人（6.0%）、身体障害者（要配慮者）は 260 人（1.7%）、知的障害者（要配慮者）は 37 人（0.2%）である。
- 外国人居住者は 185 人（1.2%）である。

■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 (注1)	10 箇所	1
土石流危険渓流 (注1)	1 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 (注1)(注2)	12 箇所	2
土砂災害警戒区域 (注1)(注2)	18 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） (注1)	0 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） (注1)	0 箇所	3
雪崩危険箇所 (注1)	0 箇所	4
地すべり防止区域 (注1)	0 箇所	5
地すべり危険箇所 (注1)	0 箇所	1
浸水想定区域 (注3)（0.0m～0.5m）	95,564 ㎡	6
（0.5m～1.0m）	130,413 ㎡	6
（1.0m～2.0m）	74,870 ㎡	6
（2.0m～）	11,261 ㎡	6
特に重要な水防区域 (注1)	0 箇所	7
重要水防区域 (注1)	0 箇所	7
防災重点農業用ため池 (注1)	4 箇所	8

（注 1）危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。
（注 2）複数の区域をまとめて 1 つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。
（注 3）浸水想定区域は、琵琶湖の水位が B.S.L.＋2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。
出典　1：滋賀県砂防課（R3.7.16）　2：滋賀県砂防課（R3.2）
3：滋賀県森林保全課（R3.11）　4：滋賀県砂防課（H24.12）　5：農林振興課、砂防課（H24.12）
6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）
7：琵琶湖河川事務所（R2.6）　8：大津市産業観光部（R3.12）

＜防災上の特性＞

- 瀬田南学区では瀬田川沿いの瀬田５丁目付近で急傾斜地崩壊危険箇所に指定されている地域が集中しているが、市内でも災害危険箇所が少ない学区のひとつである。
- 土石流危険渓流の影響範囲や急傾斜地崩壊危険箇所では、豪雨などの場合はもちろんのこと、地震時にも 2 次的に災害が発生する可能性がある。
- 湖岸沿いの低地部には、琵琶湖湖面の上昇による浸水想定区域があるため、琵琶湖からの浸水に注意が必要である。

■ 防災関連施設情報

＜指定緊急避難場所・指定避難所＞

種　類	名　称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	瀬田南小学校グラウンド	○	○	○		三大寺 1-1
	みなみっこひろば（瀬田南幼稚園・瀬田南保育園）グラウンド	○	○	○		三大寺 1-3
	滋賀県立瀬田工業高校グラウンド	○	○	○		神領三丁目 18-1
	野郷原児童遊園地	○	○	○		野郷原一丁目 2
	唐橋公園	○		○		瀬田一丁目
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	瀬田南市民センター	○	○	○		神領三丁目 8-9
	瀬田南小学校体育館	○	○	○		三大寺 1-1
	みなみっこひろば（瀬田南幼稚園・瀬田南保育園）	○	○	○		三大寺 1-3
	滋賀県立瀬田工業高校体育館	○	○	○		神領三丁目 18-1
指定避難所	（福）瀬田南児童クラブ	―				三大寺 1-11

（注）指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。
指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。
※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

＜市関連機関＞

名　称	所在地	電話番号
大津市役所	**御陵町 3-1**	**523-1234，528-2616**
瀬田南市民センター	神領三丁目 8-9	544-2030

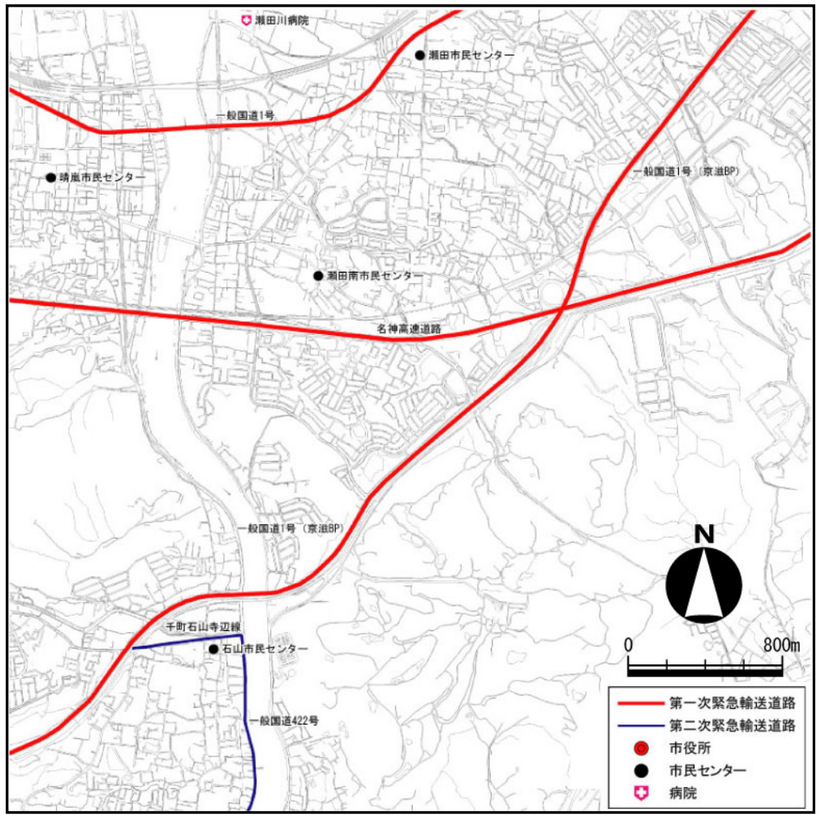
＜警察　110＞

名　称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	**打出浜 1-10**	**522-1231**
大津警察署	**打出浜 12-7**	**522-1234**

＜消防　119＞

名　称	所在地	電話番号
大津市消防局	**御陵町 3-1**	**522-0119**
東消防署	**大江四丁目 18-1**	**543-0119**
瀬田南分団	神領三丁目 8-9	545-7904

＜緊急輸送道路＞



（注）緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

＜医療施設＞

種　別		名　称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35	522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9	522-4607
	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298	594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29	573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1	537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町	548-2111

■ 地震災害危険度予測

＜地震被害想定結果＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース１	5,034	14,181	857	1,290	1,502	17	12	12	244	153	179	14	8	11
ケース２	5,034	14,181	1,193	1,255	1,820	32	23	23	200	125	151	12	7	9
ケース３	5,034	14,181	490	1,289	1,135	7	6	5	298	208	216	18	12	13

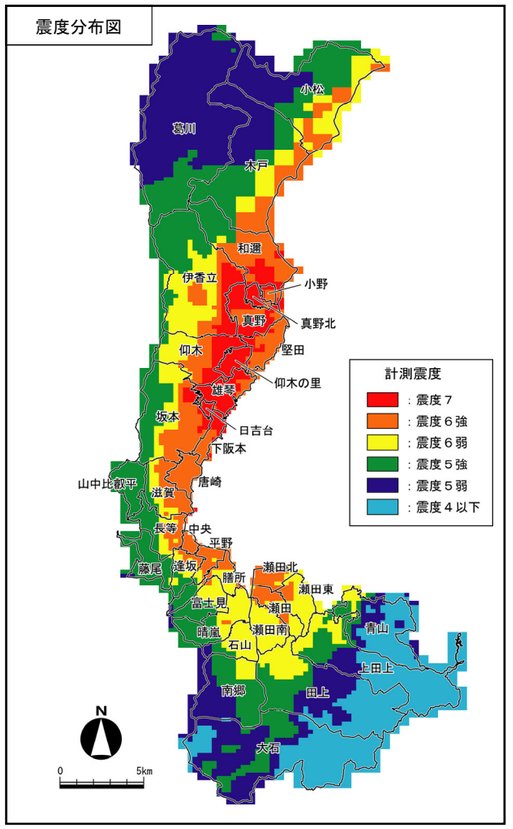
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース１	1	2	2	1,838
ケース２	1	2	3	2,116
ケース３	0	1	1	1,507

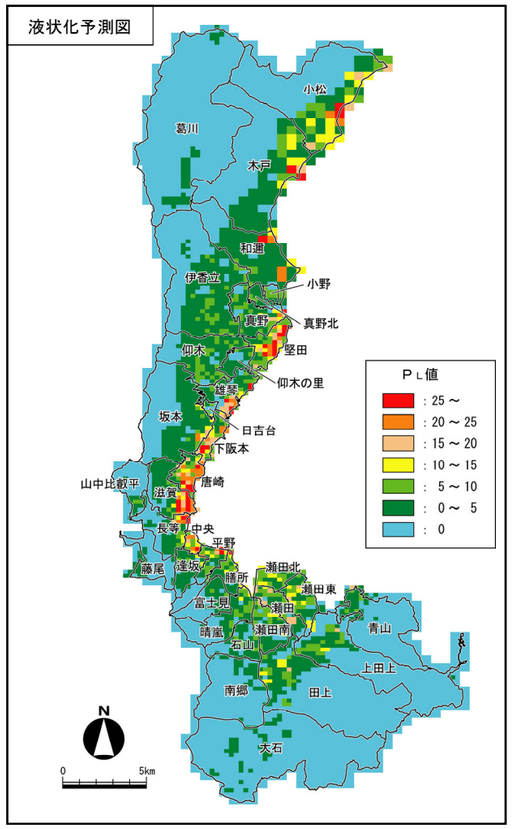
（注）表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜震度分布及び液状化予測図＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震（ケース２）





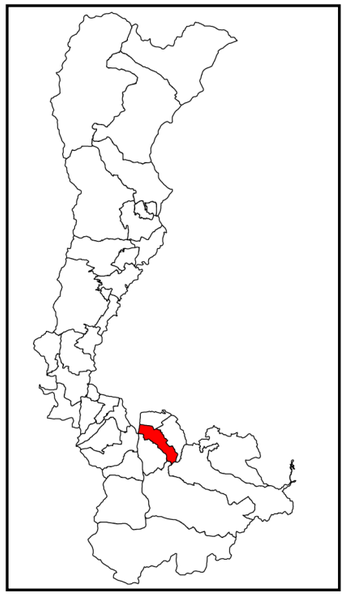
出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

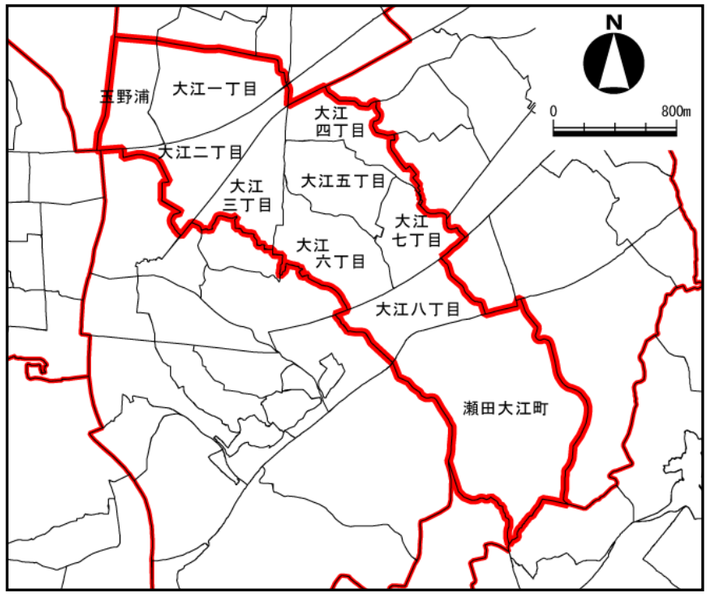
（ＰＬ≧10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
ＰＬ≧20 激しい液状化）

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）

◆ 瀬田学区

■ 学区の概況





＜町丁名＞

瀬田大江町、大江一丁目、大江二丁目の一部、大江三丁目の一部、大江四丁目、大江五丁目、大江六丁目、大江七丁目、大江八丁目、一里山七丁目

（注）学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

＜学区の特徴＞

琵琶湖八景の一つである「夕陽・瀬田・石山の清流」の東南部にあり、瀬田 4 地域のほぼ中央に位置している。人口が急増したことから、平成 3 年 4 月に 4 学区に分割され、新瀬田学区としてスタートした。

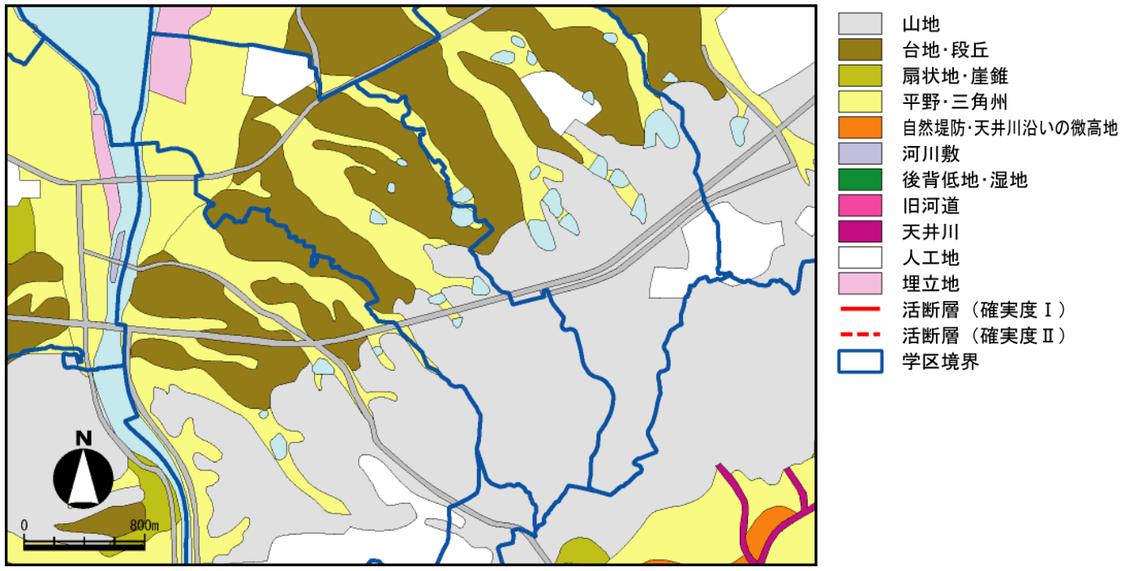
北部は国道 1 号沿いに商業が発達し、南部一帯は住宅開発が進んでいる。山手には大学や卸売市場が設置され、京滋バイパスが通過するなど活性化が一段と進んでいる。

当地には近江国庁跡や窪江城跡などの史跡が多い。また、芦浦街道や東海道が通過していた街道筋には昔からのまち並みの雰囲気や伝説が残っている。

また、久保江浜は古くから農耕を営む人々の生活の場であり、水運などの湖上交通に利用されていた。今は昔の湖岸である石垣がその面影を残している。

山手には灌漑用のため池が多くあり、貴重な自然である。

■ 地形・地質の概要



（注）図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜地形の特徴＞

- 瀬田地域の地形は丘陵・台地と低地からなる。低地は台地の間には低地が細長く入り込んだ谷底低地と、琵琶湖に面して広がる三角州に細分される。一般に低地は水に恵まれており、そのほとんどは水田として利用されているほか工場用地として改変されている。
- 湖岸沿いの瀬田浦地区は昭和 38 年に完成した埋立地である。
- 台地は中位段丘と高位段丘に細分される。この地域の丘陵は瀬田丘陵と呼ばれ、全体として南側が大戸川に急崖を向け、北側は湖岸へ向かって緩傾斜をなす傾動地塊状の丘陵である。北部の人工地は東レ株式会社の瀬田工場である。

＜地質の特徴＞

- 瀬田丘陵は、古琵琶湖層群草津累層からなる。草津累層は約 200 万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度（戸/ha）(注1)	不燃領域率（%）(注2)	木造率（%）	旧耐震木造建物/木造建物（%）
瀬田大江町	－	－	－	－
大江一丁目	70.6	87.3	42.9	5.5
大江二丁目	64.3	65.8	76.2	50.2
大江三丁目	63.6	53.5	78.5	58.2
大江四丁目	60.5	67.0	74.6	38.1
大江五丁目	68.2	58.1	80.5	24.8
大江六丁目	66.2	68.9	85.3	12.5
大江七丁目	56.0	74.2	84.4	8.4
大江八丁目	64.1	91.7	81.9	0.0
一里山七丁目	54.0	100.0	0.0	0.0
学区平均	64.7	83.4	72.6	31.0
出典	1,2	1,2	2	2

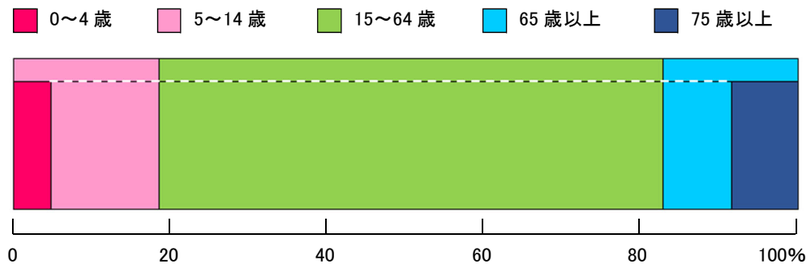
（注）表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
（注1）市街化区域を対象とした。
（注2）算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上，市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。
出典　1：大津湖南都市計画基礎調査（H30.2）土地利用現況
　　2：資産税データ（R4.4）

- 住宅密集度の学区平均は 64.7 戸/ha で市平均（全学区の平均）の 59.3 戸/ha より高い。
- 不燃領域率の学区平均は 83.4%で市平均の 93.9%より低い。
- 木造率は、大江六丁目が 85.3%で最も高く、一里山七丁目が 0.0%で最も低い。学区平均は 72.6%で市平均 72.7%より低い。
- 旧耐震木造建物割合は、大江三丁目が 58.2%で最も高く、大江八丁目、一里山七丁目が 0.0%で最も低い。学区平均は 31.0%で市平均 40.3%より低い。

■ 人口の状況

項　　目	人口等	単位	備　　考	割合（%）	出典
学区人口	14,645	人		－	1
年齢別（0～4 歳）	697	人	学区人口に対する割合	4.8	1
年齢別（5～14 歳）	2,004	人	学区人口に対する割合	13.7	1
年齢別（15～64 歳）	9,405	人	学区人口に対する割合	64.2	1
年齢別（65 歳以上）	2,539	人	学区人口に対する割合	17.3	1
年齢別（75 歳以上）	1,252	人	学区人口に対する割合	8.5	1
世帯数	6,018	世帯		－	2
１世帯当たり人口	2.4	人/世帯		－	2
要介護認定者	513	人	学区人口に対する割合	3.5	3
身体障害者（要配慮者）	170	人	学区人口に対する割合	1.2	4
知的障害者（要配慮者）	28	人	学区人口に対する割合	0.2	4
外国人居住者	201	人	学区人口に対する割合	1.4	5

（注）１世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
出典　1：年齢別・学区別人口統計表（R4.3.31 現在）、2：学区別人口・世帯数の年別推移（R4.3.31 現在）
　　3：学区別要介護認定者（R4.4.30 現在）、4：大津市データ（R4.3.31 現在）
　　5：住民基本台帳情報からの統計（R4.3.31）



＜年齢別人口比率＞

- 学区北西部の平野・段丘部は人口集中地区（ＤＩＤ地区）である。
- 高齢者（65 歳以上）は 2539 人、乳幼児（0～4 歳）は 697 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 17.3%、4.8%である。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均（27.2%）より低く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均（3.9%）より高い。
- 要介護認定者は 513 人（3.5%）、身体障害者（要配慮者）は 170 人（1.2%）、知的障害者（要配慮者）は 28 人（0.2%）である。
- 外国人居住者は 201 人（1.4%）である。

■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 (注1)	0 箇所	1
土石流危険渓流 (注1)	2 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 (注1)(注2)	2 箇所	2
土砂災害警戒区域 (注1)(注2)	5 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） (注1)	0 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） (注1)	0 箇所	3
雪崩危険箇所 (注1)	0 箇所	4
地すべり防止区域 (注1)	0 箇所	5
地すべり危険箇所 (注1)	0 箇所	1
浸水想定区域 (注3)（0.0m～0.5m）	33,698 ㎡	6
（0.5m～1.0m）	61,735 ㎡	6
（1.0m～2.0m）	138,266 ㎡	6
（2.0m～）	8,077 ㎡	6
特に重要な水防区域 (注1)	0 箇所	7
重要水防区域 (注1)	0 箇所	7
防災重点農業用ため池 (注1)	8 箇所	8

（注 1）危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。
（注 2）複数の区域をまとめて１つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。
（注 3）浸水想定区域は、琵琶湖の水位が B.S.L.＋2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。
出典　1：滋賀県砂防課（R3.7.16）　2：滋賀県砂防課（R3.2）
3：滋賀県森林保全課（R3.11）　4：滋賀県砂防課（H24.12）　5：農林振興課、砂防課（H24.12）
6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）
7：琵琶湖河川事務所（R2.6）　8：大津市産業観光部（R3.12）

＜防災上の特性＞

- 瀬田学区では土砂災害に関する災害危険箇所が少なく、土砂災害などの自然災害の発生する可能性が低い学区であるといえる。
- 水防ため池が多く、災害時にはこれらの水防ため池を有効に活用できるような対策が望まれる。
- 湖岸沿いの低地部には、琵琶湖湖面の上昇による浸水想定区域があるため、琵琶湖からの浸水に注意が必要である。

■ 防災関連施設情報

＜指定緊急避難場所・指定避難所＞

種　類	名　称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	瀬田小学校グラウンド	○	○	○		大江四丁目 2-1
	瀬田中学校グラウンド	○	○	○		大江七丁目 1-1
	瀬田幼稚園グラウンド	○	○	○		大江四丁目 3-6
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	瀬田市民センター	○	○	○		大江三丁目 2-1
	瀬田小学校体育館	○	○	○		大江四丁目 2-1
	瀬田中学校体育館	○	○	○		大江七丁目 1-1
	瀬田幼稚園	○	○	○		大江四丁目 3-6
指定避難所	瀬田中学校武道場	―				大江七丁目 1-1
	（福）東老人福祉センター	―				玉野浦 6-33
	（福）瀬田児童クラブ	―				大江四丁目 2-60

（注）指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。
指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。
※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

＜市関連機関＞

名　称	所在地	電話番号
大津市役所	**御陵町 3-1**	**523-1234，528-2616**
瀬田市民センター	大江三丁目 2-1	545-2480

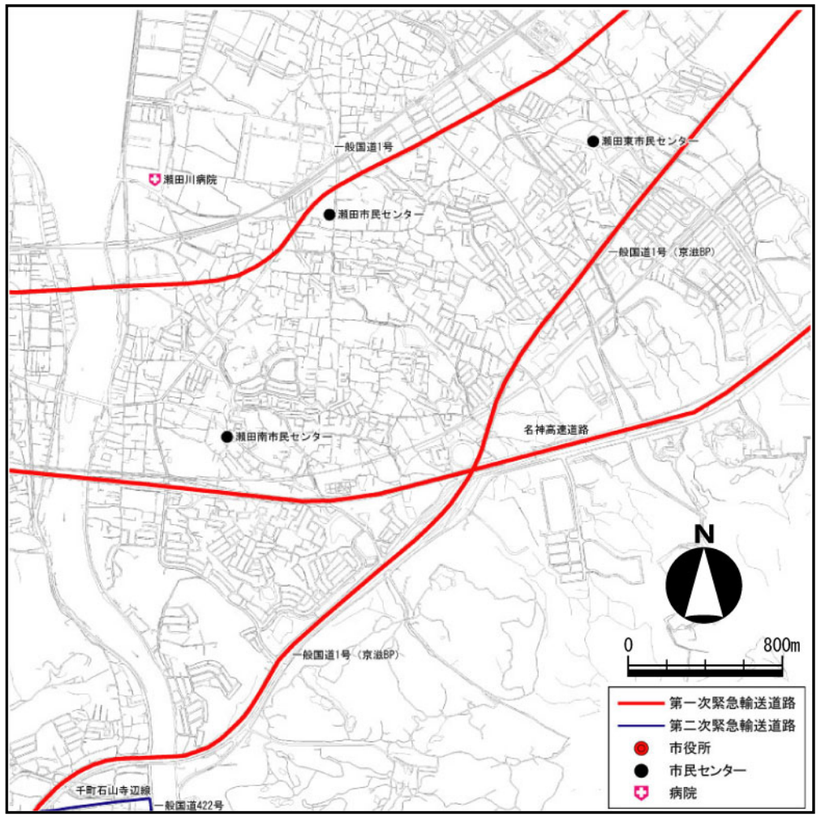
＜警察　110＞

名　称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	**打出浜 1-10**	**522-1231**
大津警察署	**打出浜 12-7**	**522-1234**
瀬田交番	大江三丁目 2-25	545-3153

＜消防　119＞

名　称	所在地	電話番号
大津市消防局	**御陵町 3-1**	**522-0119**
東消防署	**大江四丁目 18-1**	**543-0119**
瀬田分団	大江四丁目 18-1	543-6643

＜緊急輸送道路＞



（注）緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

＜医療施設＞

種　別		名　称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35	522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9	522-4607
	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298	594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29	573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1	537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町	548-2111
病院		瀬田川病院	玉野浦 4-21	543-1441

■ 地震災害危険度予測

＜地震被害想定結果＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース１	3,418	11,100	1,244	823	1,655	42	30	30	131	100	108	7	5	5
ケース２	3,418	11,100	1,512	792	1,908	62	45	45	130	97	105	6	5	5
ケース３	3,418	11,100	831	896	1,279	22	15	16	195	125	146	10	7	8

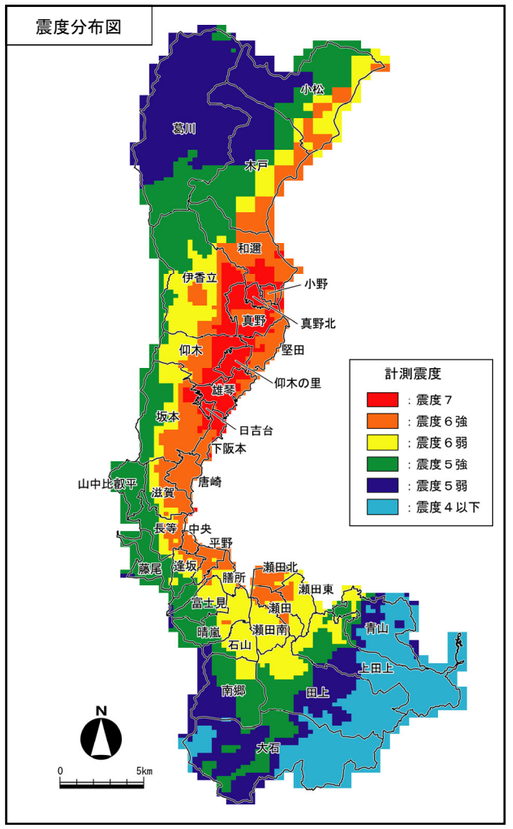
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース１	1	3	4	2,129
ケース２	2	4	5	2,360
ケース３	1	2	2	1,775

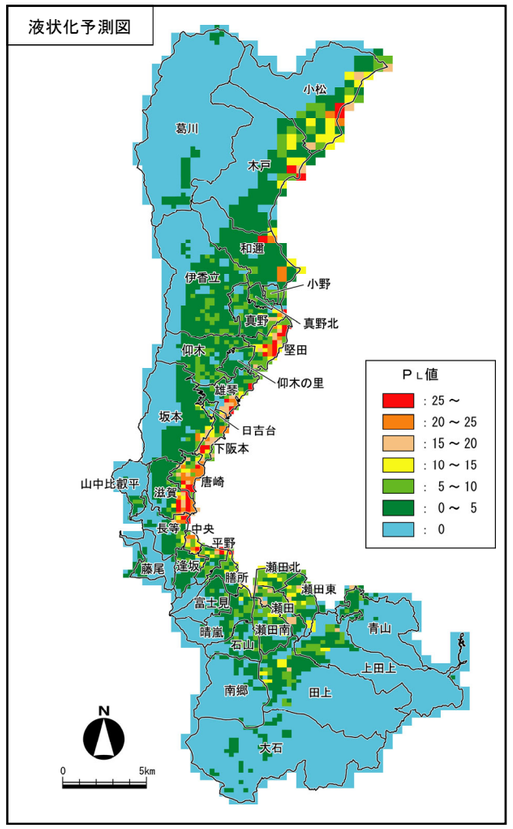
（注）表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜震度分布及び液状化予測図＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震（ケース２）





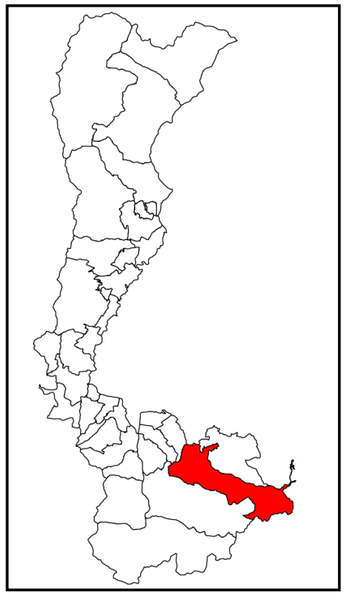
出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

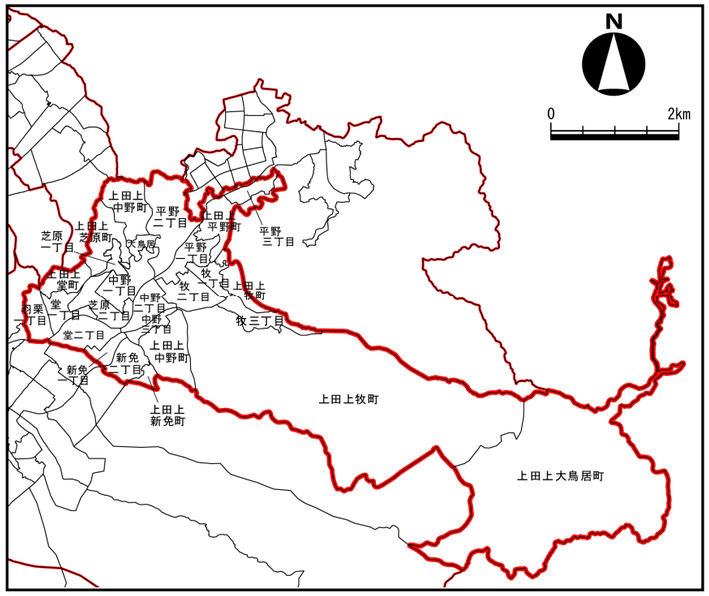
（Ｐｌ≧10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
Ｐｌ≧20 激しい液状化）

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）

◆ 上田上学区

■ 学区の概況





＜町丁名＞

羽栗一丁目、牧一丁目、牧二丁目、牧三丁目、平野一丁目、平野二丁目、平野三丁目、中野一丁目、中野二丁目、中野三丁目、芝原一丁目、芝原二丁目、堂一丁目、堂二丁目、新免一丁目、新免二丁目、大鳥居、上田上大鳥居町、上田上牧町、上田上平野町、上田上中野町、上田上芝原町、上田上堂町、上田上新免町

（注）学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

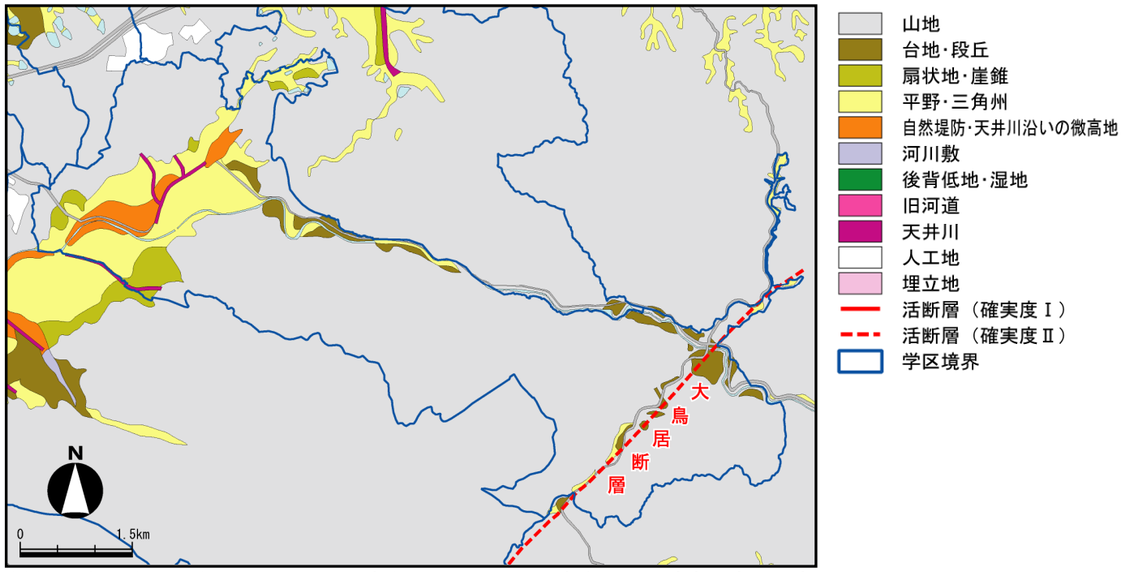
＜学区の特徴＞

背後を田上山系の山々に囲まれ、四季折々の姿を見せる。特に上田上大鳥居町から上田上牧町に至る渓谷から平野部を常に清水を湛えた大戸川が流れ、自然環境に恵まれた町である。この大戸川の豊かな水を資源とした「米どころ」である。

学区内には縄文時代からの遺跡もあり、万葉集にも地名の記述がみられるなど、古い歴史を持っている。

平成 20 年 2 月に新名神高速道路が開通し、学区の北縁をかすめて信楽方面に至っている。

■ 地形・地質の概要



（注）図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜地形の特徴＞

- 上田上学区の地形の大部分は山地である。地域の北西部には、大戸川に沿った比較的広い低地が広がっており、山地との境界には低位段丘と扇状地が分布している。
- 田上山から流れ出る河川は水と共に多量の土砂を運搬し河床に堆積するため、低地部では天井川となっている。上田上学区と田上学区との間を流れる宮川は、川の下にトンネルを掘って道路が通っている。

＜地質の特徴＞

- 山地部は田上花崗岩からなる。田上花崗岩は中生代白亜紀の火成活動により形成されたものである。田上山は古代の都造営のための森林伐採の影響ではげ山化し、風化した花崗岩が表面に現れ崩壊が数多く発生することで知られている。
- 北西部の丘陵は瀬田丘陵と呼ばれ、古琵琶湖層群草津累層からなる。草津累層は約 200 万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。

＜活断層の特徴＞

- この地域の南東部には、大鳥居断層が通過している。大鳥居断層は、湖南市三雲から大津市の太神山東方までのびる、長さ約 12.5km の活断層である。

◆ 上田上学区

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度（戸/ha）(注1)	不燃領域率（%）(注2)	木造率（%）	旧耐震木造建物/木造建物（%）
羽栗一丁目	64.0	97.3	40.7	50.0
上田上大鳥居町	－	－	－	－
上田上牧町	－	－	－	－
上田上平野町	－	－	－	－
上田上中野町	－	100.0	83.3	100.0
上田上芝原町	－	－	－	－
上田上堂町	－	－	－	－
上田上新免町	－	－	－	－
牧一丁目	46.6	62.1	84.0	66.0
牧二丁目	51.4	98.7	63.6	67.9
牧三丁目	33.5	99.6	11.5	100.0
平野一丁目	55.4	80.2	84.6	72.7
平野二丁目	40.0	99.3	55.2	62.5
平野三丁目	－	－	－	－
中野一丁目	51.7	87.5	76.7	70.4
中野二丁目	73.5	97.4	34.0	41.2
中野三丁目	49.0	89.6	64.8	42.9
芝原一丁目	40.0	68.9	83.3	74.7
芝原二丁目	－	－	－	－
堂一丁目	38.9	82.1	74.3	68.7
堂二丁目	49.7	97.8	60.0	69.2
新免一丁目	48.6	96.3	67.7	28.6
新免二丁目	51.9	87.4	76.5	58.7
大鳥居	27.0	65.7	68.7	0.0
学区平均	47.1	98.5	73.1	64.0
出典	1,2	1,2	2	2

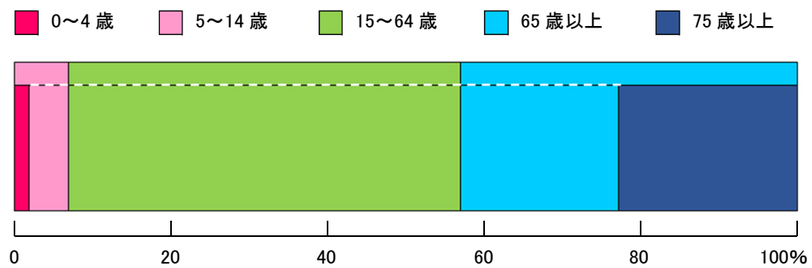
（注）表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
（注 1）市街化区域を対象とした。
（注 2）算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上，市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。
出典　1：大津湖南都市計画基礎調査（H30.2）土地利用現況
　　2：資産税データ（R4.4）

- 住宅密集度の学区平均は 47.1 戸/ha で市平均（全学区の平均）の 59.3 戸/ha より低い。
- 不燃領域率の学区平均は 98.5%で市平均の 93.9%を上回り、市内で２番目に高い。
- 木造率は、平野一丁目が 84.6%で最も高く、牧三丁目が 11.5%で最も低い。学区平均は 73.1%で市平均 72.7%と同程度である。
- 旧耐震木造建物割合は、上田上中野町、牧三丁目が 100.0%で最も高く、大鳥居が 0.0%で最も低い。学区平均は 64.0%で市平均 40.3%より高い。

■ 人口の状況

項　　目	人口等	単位	備　　考	割合（%）	出典
学区人口	1,902	人		－	1
年齢別（0～4 歳）	36	人	学区人口に対する割合	1.9	1
年齢別（5～14 歳）	95	人	学区人口に対する割合	5.0	1
年齢別（15～64 歳）	951	人	学区人口に対する割合	50.0	1
年齢別（65 歳以上）	820	人	学区人口に対する割合	43.1	1
年齢別（75 歳以上）	435	人	学区人口に対する割合	22.9	1
世帯数	819	世帯		－	2
１世帯当たり人口	2.3	人/世帯		－	2
要介護認定者	176	人	学区人口に対する割合	9.3	3
身体障害者（要配慮者）	33	人	学区人口に対する割合	1.7	4
知的障害者（要配慮者）	2	人	学区人口に対する割合	0.1	4
外国人居住者	15	人	学区人口に対する割合	0.8	5

（注）１世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
出典　1：年齢別・学区別人口統計表（R4.3.31 現在）、2：学区別人口・世帯数の年別推移（R4.3.31 現在）
　　3：学区別要介護認定者（R4.4.30 現在）、4：大津市データ（R4.3.31 現在）
　　5：住民基本台帳情報からの統計（R4.3.31）



＜年齢別人口比率＞

- 人口は中～西部の大戸川・萱尾川周辺に点在している。
- 学区人口は、市内で２番目に少ない。
- 高齢者（65 歳以上）は 820 人、乳幼児（0～4 歳）は 36 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 43.1%、1.9%である。
- 高齢者の学区人口は、市内で３番目に少ない。
- 乳幼児の学区人口は、市内で３番目に少ない。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均（27.2%）より高く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均（3.9%）より低い。
- 要介護認定者は 176 人（9.3%）、身体障害者（要配慮者）は 33 人（1.7%）、知的障害者（要配慮者）は 2 人（0.1%）である。
- 外国人居住者は 15 人（0.8%）である。

■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 (注1)	25 箇所	1
土石流危険渓流 (注1)	40 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 (注1)(注2)	53 箇所	2
土砂災害警戒区域 (注1)(注2)	71 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） (注1)	4 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） (注1)	3 箇所	3
雪崩危険箇所 (注1)	0 箇所	4
地すべり防止区域 (注1)	0 箇所	5
地すべり危険箇所 (注1)	0 箇所	1
浸水想定区域 (注3)（0.0m～0.5m）	84,367 ㎡	6
（0.5m～1.0m）	109,652 ㎡	6
（1.0m～2.0m）	306,397 ㎡	6
（2.0m～）	1,763,783 ㎡	6
特に重要な水防区域 (注1)	0 箇所	7
重要水防区域 (注1)	0 箇所	7
防災重点農業用ため池 (注1)	23 箇所	8

（注 1）危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。
（注 2）複数の区域をまとめて 1 つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。
（注 3）浸水想定区域は、琵琶湖の水位が B.S.L.＋2.6mまで上昇した場合を想定しており、大戸川浸水想定区域は、概ね 100 年に 1 回程度の大雨（黒津地点上流域の 9 時間雨量 157mm）の場合を想定しているため、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。
出典　1：滋賀県砂防課（R3.7.16）　2：滋賀県砂防課（R3.2）
3：滋賀県森林保全課（R3.11）　4：滋賀県砂防課（H24.12）　5：農林振興課、砂防課（H24.12）
6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）
7：琵琶湖河川事務所（R2.6）　8：大津市産業観光部（R3.12）

＜防災上の特性＞

- 上田上学区の東南部はほとんど山地で、災害危険箇所に指定されている地域は少ないが、東南端に大鳥居断層が北東―南西方向に分布している。
- 人口は上田上小学校・市民センター周辺の集落に分布している。
- 大戸川については、豪雨などの場合は外水氾濫に注意が必要である。
- 土石流危険渓流の影響範囲や急傾斜地崩壊危険箇所が点在し、豪雨などの場合はもちろんのこと、地震時にもこれらのエリアで崩壊が生じ、２次的に災害が発生する可能性があるため警戒が必要である。

■ 防災関連施設情報

＜指定緊急避難場所・指定避難所＞

種　類	名　称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	上田上小学校グラウンド	○		○		平野一丁目 18-5
	田上中学校グラウンド	○		○		新免一丁目 1-12
	上田上幼稚園グラウンド	○		○		平野一丁目 18-20
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	上田上市民センター	○	○	○		牧一丁目 1-24
	上田上小学校体育館	○		○		平野一丁目 18-5
	田上中学校体育館	○		○		新免一丁目 1-12
	上田上幼稚園	○		○		平野一丁目 18-20
指定避難所	田上中学校武道場	―				新免一丁目 1-12

（注）指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。
指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。
※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

＜市関連機関＞

名　称	所在地	電話番号
大津市役所	**御陵町 3-1**	**523-1234, 528-2616**
上田上市民センター	牧一丁目 1-24	549-0003

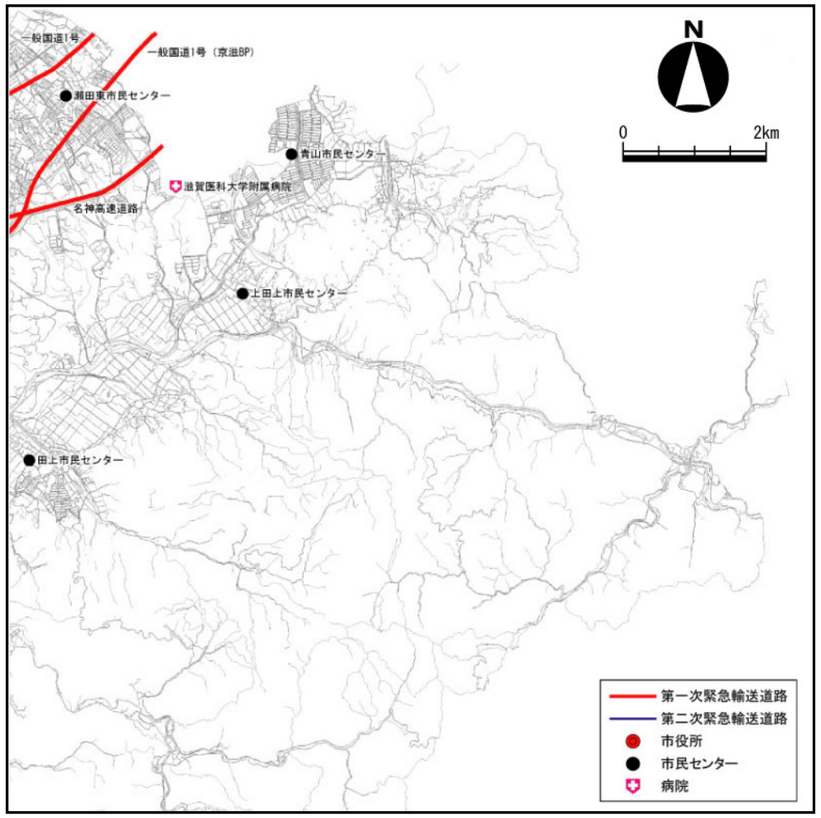
＜警察　110＞

名　称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	**打出浜 1-10**	**522-1231**
大津警察署	**打出浜 12-7**	**522-1234**
上田上駐在所	平野一丁目 18-1	549-0250

＜消防　119＞

名　称	所在地	電話番号
大津市消防局	**御陵町 3-1**	**522-0119**
東消防署	**大江四丁目 18-1**	**543-0119**
青山救急出張所	青山五丁目 13-36	549-3799
上田上分団	牧一丁目 1-24	549-0131

＜緊急輸送道路＞



（注）緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

＜医療施設＞

種　別		名　称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35	522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9	522-4607
	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298	594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29	573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1	537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町	548-2111

■ 地震災害危険度予測

＜地震被害想定結果＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震

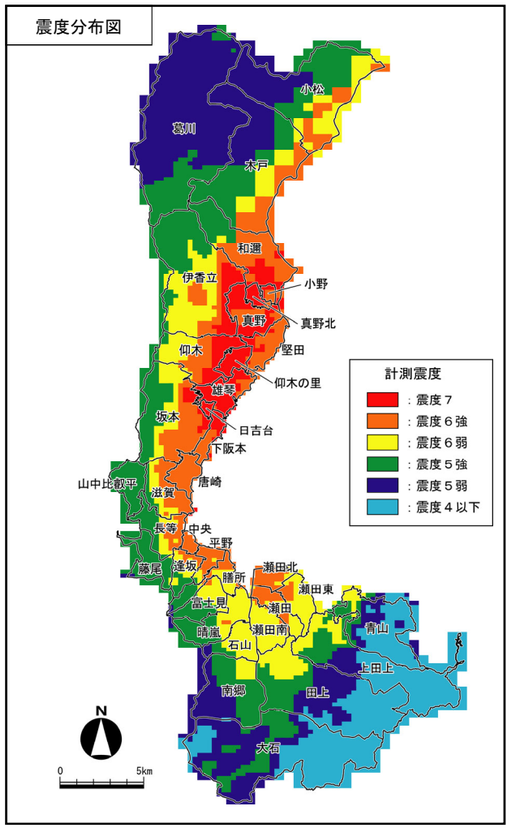
被害想定ケース	建物棟数（注1）	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース１	3,095	2,522	16	206	119	0	0	0	33	18	23	3	2	2
ケース２	3,095	2,522	25	230	140	0	0	0	39	26	27	3	2	2
ケース３	3,095	2,522	4	82	45	0	0	0	12	8	8	1	1	1

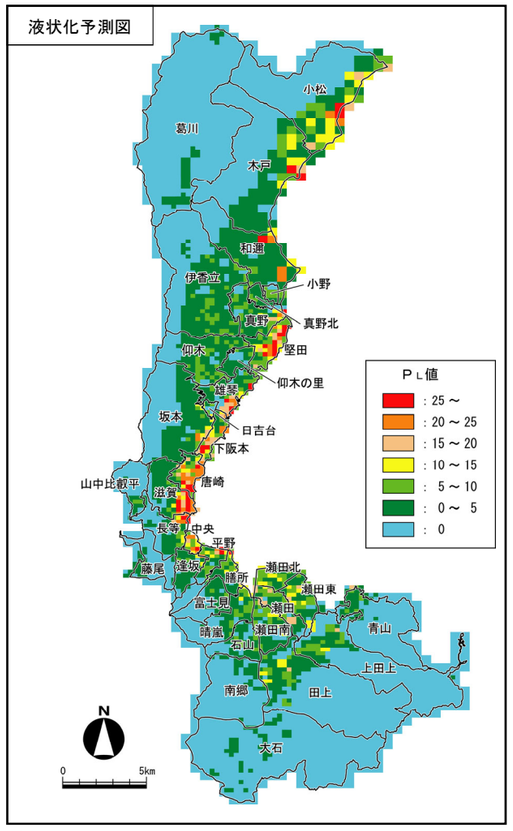
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース１	0	0	0	147
ケース２	0	0	0	169
ケース３	0	0	0	57

（注）表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。
（注1）建物棟数のみ上田上学区と青山学区の合計である。
出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜震度分布及び液状化予測図＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震（ケース２）



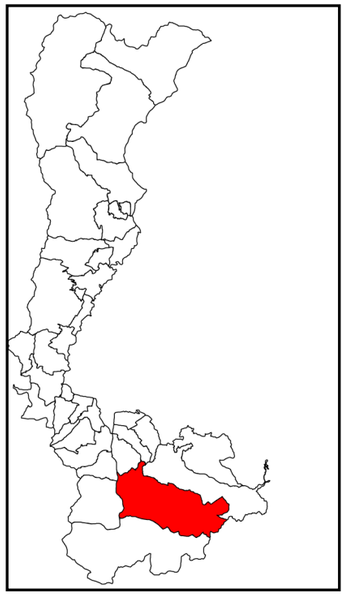


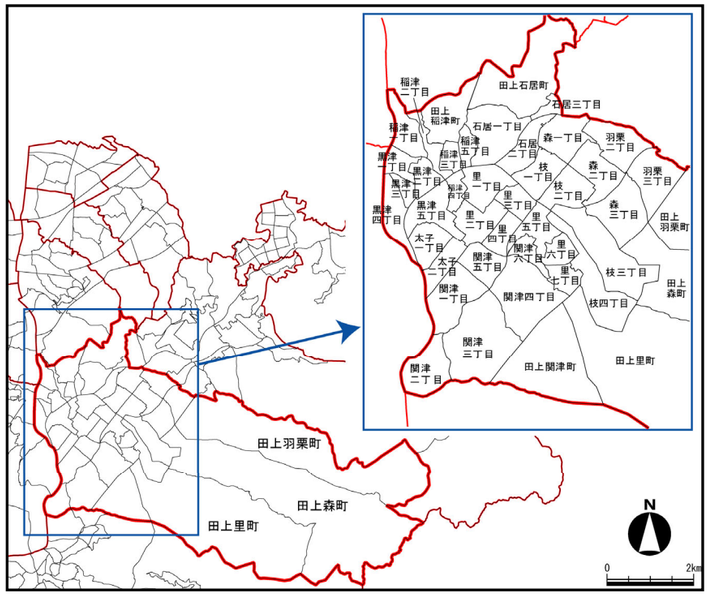
出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）
志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）

（Ｐｌ≧10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
Ｐｌ≧20 激しい液状化）

◆ 田上学区

■ 学区の概況





＜町丁名＞

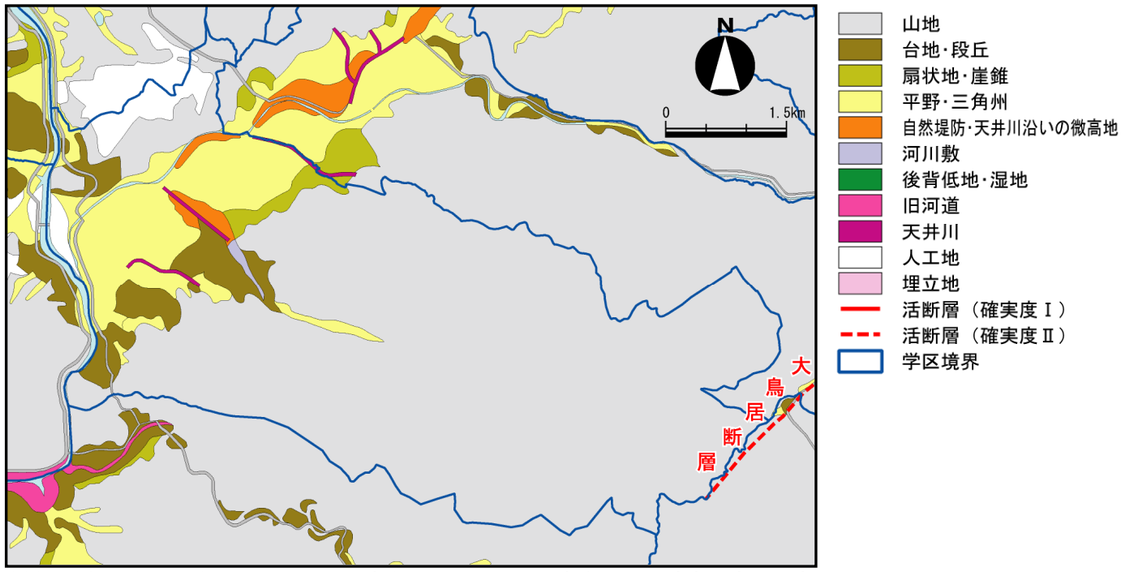
田上石居町、羽栗二丁目、羽栗三丁目、森一丁目、森二丁目、森三丁目、枝一丁目、枝二丁目、枝三丁目、枝四丁目、里一丁目、里二丁目、里三丁目、里四丁目、里五丁目、里六丁目、里七丁目、石居一丁目、石居二丁目、石居三丁目、稲津一丁目、稲津二丁目、稲津三丁目、稲津四丁目、稲津五丁目、黒津一丁目、黒津二丁目、黒津三丁目、黒津四丁目、黒津五丁目、太子一丁目、太子二丁目、関津一丁目、関津二丁目、関津三丁目、関津四丁目、関津五丁目、関津六丁目、田上羽栗町、田上森町、田上里町、田上稲津町、田上関津町

（注）学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

＜学区の特徴＞

南の太神山や堂山などの田上山地と、北の瀬田丘陵に挟まれた地区で、大戸川や天神川流域の平地には、これらの河川の水資源を利用した水田が広がっている。水と緑の自薦豊かな景勝の地である。日本三大鉱物産地のひとつとして有名な田上山は、古代の都造営のための森林伐採の影響ではげ山化したが、明治以降、国内外の技術者の努力によって砂防工事が進められている。中でもオランダ人技師デ・レーケは、山から川へ土砂が流れないように石積みの堰堤などを建設したほか、荒廃した田上山に植樹を行い、治山治水の両方向から砂防工事を行い、砂防事業発祥の地と言われている。近年、天神川流域で大規模な住宅開発が進み、人口が増加してきている。

■ 地形・地質の概要



（注）図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜地形の特徴＞

- 田上学区の地形は大部分が山地であり、太神山や堂山などが含まれている。
- 西部には大戸川に沿った比較的広い低地が広がっており山地との境界には丘陵と低位段丘、または山地の間の谷から扇状地が広がっている。
- 北部の瀬田丘陵は傾動地塊であり、大戸川に面した南側斜面は急斜面となっている。
- 田上山は古代の都造営のための森林伐採の影響ではげ山化し、風化した花崗岩が表面に現れ崩壊が数多く発生することで知られている。田上山から流れ出る河川は水と共に多量の土砂を運搬し河床に堆積するため、低地部では天井川となっている。
- 田上学区と上田上学区との間に流れる宮川は、川の下にトンネルを掘って道路が通っている。
- 北西部の田上石居町・田上稲津町付近の人工地はゴルフ場である。また瀬田川沿いの人工地は南郷洗堰など公共施設からなる。

＜地質の特徴＞

- この地域の山地は田上花崗岩からなる。田上花崗岩は中生代白亜紀の火成活動により形成されたものである。
- 山地の前面の丘陵や瀬田丘陵は、古琵琶湖層群草津累層からなる。草津累層は約 200 万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。

＜活断層の特徴＞

- この地域の南東部には、大鳥居断層が通過している。大鳥居断層は、湖南市三雲から大津市の太神山東方までのびる、長さ約 12.5km の活断層である。

◆ 田上学区

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度（戸/ha）(注1)	不燃領域率（%）(注2)	木造率（%）	旧耐震木造建物/木造建物（%）
田上羽栗町	－	－	－	－
田上森町	－	－	－	－
田上里町	－	－	－	－
田上石居町	－	－	－	－
田上稲津町	－	－	－	－
田上関津町	－	－	－	－
羽栗二丁目	31.4	97.0	59.0	26.1
羽栗三丁目	55.0	83.0	77.5	72.2
森一丁目	31.2	97.9	61.5	75.0
森二丁目	43.9	92.9	76.2	51.6
森三丁目	55.0	91.3	84.3	63.4
枝一丁目	51.3	91.6	80.6	71.3
枝二丁目	40.8	89.5	71.4	66.3
枝三丁目	53.2	92.8	82.7	29.7
枝四丁目	53.8	89.0	83.5	12.6
里一丁目	58.6	92.9	79.5	37.6
里二丁目	81.6	99.5	50.0	33.3
里三丁目	58.9	45.4	83.6	42.1
里四丁目	54.1	99.3	40.0	75.0
里五丁目	65.5	72.8	82.3	18.5
里六丁目	56.8	50.1	79.7	9.3
里七丁目	57.1	68.8	71.3	0.0
石居一丁目	62.9	95.3	60.8	63.5
石居二丁目	－	100.0	0.0	0.0
石居三丁目	59.3	67.8	76.1	8.6
稲津一丁目	65.8	68.2	78.7	53.9
稲津二丁目	72.4	59.9	88.3	58.3
稲津三丁目	61.7	59.0	62.8	38.1
稲津四丁目	41.5	98.5	40.0	50.0
稲津五丁目	－	0.0	－	－
黒津一丁目	59.7	79.0	78.9	45.9
黒津二丁目	63.8	57.6	72.7	28.3
黒津三丁目	59.7	46.4	90.0	11.6
黒津四丁目	－	－	31.3	100.0
黒津五丁目	－	－	46.2	8.3
太子一丁目	51.0	93.4	63.2	63.6
太子二丁目	38.9	94.4	66.0	63.6
関津一丁目	51.1	89.6	76.9	63.3
関津二丁目	38.6	95.5	75.0	64.1
関津三丁目	51.9	91.3	77.9	50.0
関津四丁目	－	－	42.2	10.3
関津五丁目	44.6	96.6	76.3	44.8
関津六丁目	77.7	52.6	91.4	3.3
学区平均	59.1	96.3	77.3	36.7
出典	1,2	1,2	2	2

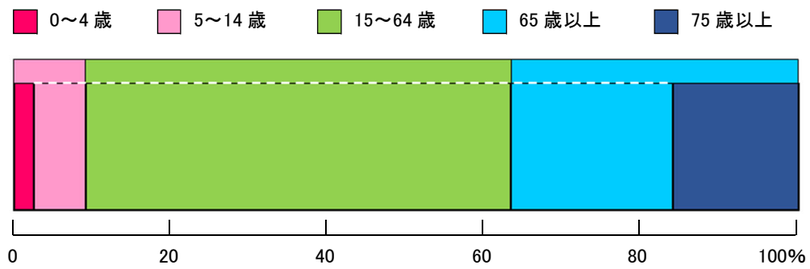
（注）表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
（注1）市街化区域を対象とした。
（注2）算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上，市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。
出典　1：大津湖南都市計画基礎調査（H30.2）土地利用現況
　　2：資産税データ（R4.4）

- 住宅密集度の学区平均は59.1戸/haで市平均（全学区の平均）の59.3戸/haと同程度である。
- 不燃領域率の学区平均は96.3%で市平均の93.9%より高い。
- 木造率の学区平均は77.3%で市平均72.7%より高い。
- 旧耐震木造建物割合の学区平均は36.7%で市平均40.3%より低い。

■ 人口の状況

項　　目	人口等	単位	備　　考	割合（%）	出典
学区人口	9,873	人		－	1
年齢別（0～4歳）	246	人	学区人口に対する割合	2.5	1
年齢別（5～14歳）	656	人	学区人口に対する割合	6.6	1
年齢別（15～64歳）	5,351	人	学区人口に対する割合	54.2	1
年齢別（65歳以上）	3,620	人	学区人口に対する割合	36.7	1
年齢別（75歳以上）	1,585	人	学区人口に対する割合	16.1	1
世帯数	4,401	世帯		－	2
１世帯当たり人口	2.2	人/世帯		－	2
要介護認定者	603	人	学区人口に対する割合	6.1	3
身体障害者（要配慮者）	163	人	学区人口に対する割合	1.7	4
知的障害者（要配慮者）	24	人	学区人口に対する割合	0.2	4
外国人居住者	104	人	学区人口に対する割合	1.1	5

（注）１世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
出典　1：年齢別・学区別人口統計表（R4.3.31現在）、2：学区別人口・世帯数の年別推移（R4.3.31現在）
　　3：学区別要介護認定者（R4.4.30現在）、4：大津市データ（R4.3.31現在）
　　5：住民基本台帳情報からの統計（R4.3.31）



＜年齢別人口比率＞

- 人口は学区西部の平野・扇状地・段丘部に集中している。
- 高齢者（65歳以上）は3620人、乳幼児（0～4歳）は246人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ36.7%、2.5%である。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均（27.2%）より高く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均（3.9%）より低い。
- 要介護認定者は603人（6.1%）、身体障害者（要配慮者）は163人（1.7%）、知的障害者（要配慮者）は24人（0.2%）である。
- 外国人居住者は104人（1.1%）である。

■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 (注1)	27 箇所	1
土石流危険渓流 (注1)	45 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 (注1)(注2)	45 箇所	2
土砂災害警戒区域 (注1)(注2)	72 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） (注1)	5 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） (注1)	3 箇所	3
雪崩危険箇所 (注1)	0 箇所	4
地すべり防止区域 (注1)	0 箇所	5
地すべり危険箇所 (注1)	0 箇所	1
浸水想定区域 (注3)（0.0m～0.5m）	135,075 ㎡	6
（0.5m～1.0m）	138,752 ㎡	6
（1.0m～2.0m）	463,420 ㎡	6
（2.0m～）	2,405,846 ㎡	6
特に重要な水防区域 (注1)	0 箇所	7
重要水防区域 (注1)	0 箇所	7
防災重点農業用ため池 (注1)	17 箇所	8

（注 1）危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。
（注 2）複数の区域をまとめて 1 つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。
（注 3）琵琶湖浸水想定区域は、琵琶湖の水位が B.S.L.＋2.6m まで上昇した場合を想定しており、大戸川浸水想定区域は、概ね 100 年に 1 回程度の大雨（黒津地点上流域の 9 時間雨量 157mm）の場合を想定しているため、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。
出典　1：滋賀県砂防課（R3.7.16）　2：滋賀県砂防課（R3.2）
3：滋賀県森林保全課（R3.11）　4：滋賀県砂防課（H24.12）　5：農林振興課、砂防課（H24.12）
6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）
7：琵琶湖河川事務所（R2.6）　8：大津市産業観光部（R3.12）

＜防災上の特性＞

- 東南部は山地で、災害危険箇所に指定されているエリアは少ないが、その山地と大戸川の流れにより形成された平野部の境界は、土石流危険渓流の影響範囲や急傾斜地崩壊危険箇所に指定されている。
- 豪雨などの場合はもちろんのこと、地震時にもこれらのエリアで崩壊が生じ、２次的に災害が発生する可能性がある。
- 大戸川については、豪雨などの場合は外水氾濫に注意が必要である。

■ 防災関連施設情報

＜指定緊急避難場所・指定避難所＞

種　類	名　称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	田上小学校グラウンド	○	○	○		里五丁目 8-1
	田上幼稚園グラウンド	○	○	○		関津六丁目 19-8
	湖南台地東児童公園		○	○		稲津三丁目 6
	稲津南児童公園	○	○	○		稲津一丁目 14
	湖南台地西児童公園	○	○	○		稲津三丁目 18
	田上公園多目的グラウンド	○	○	○		枝三丁目 1
	南郷水産センター駐車場	○		○		黒津四丁目 3
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	田上市民センター	○		○		里三丁目 9-1
	田上小学校体育館	○	○	○		里五丁目 8-1
	田上幼稚園	○	○	○		関津六丁目 19-8
	田上児童館	○	○	○		稲津一丁目 14-30
	南ふれあいセンター	○	○			稲津一丁目 10-20
	田上市民体育館	○	○			稲津一丁目 10-18
指定避難所	（福）田上児童クラブ	―				関津六丁目 19-1
	（福）水のめぐみ館	―				黒津四丁目 2-2

（注）指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。
指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。
※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

＜市関連機関＞

名　称	所在地	電話番号
大津市役所	**御陵町 3-1**	**523-1234, 528-2616**
田上市民センター	里三丁目 9-1	546-0001

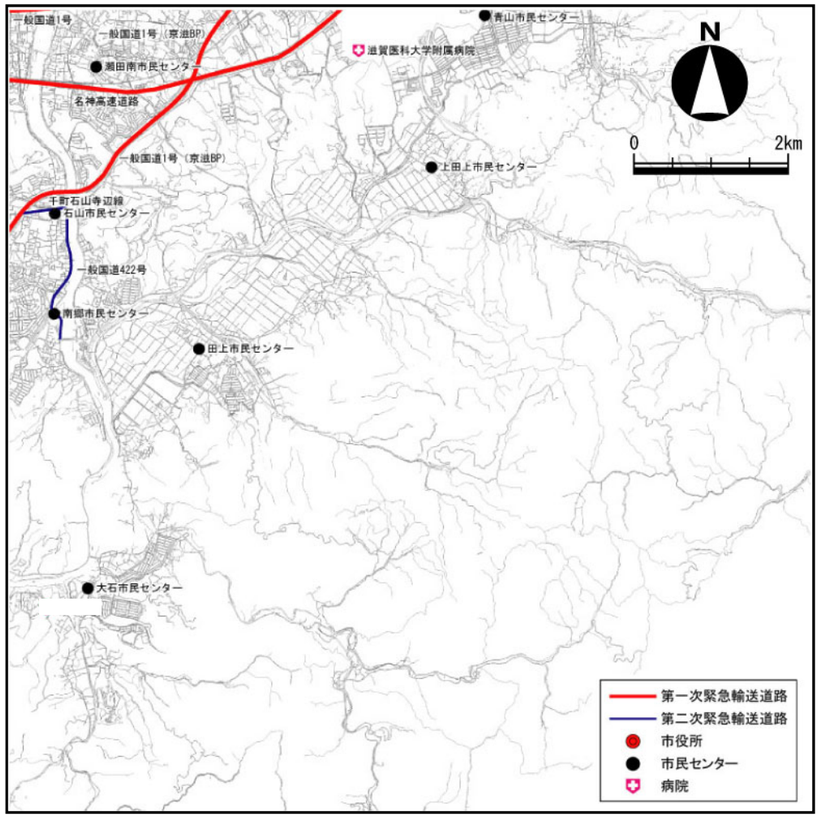
＜警察　110＞

名　称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	**打出浜 1-10**	**522-1231**
大津警察署	**打出浜 12-7**	**522-1234**
田上駐在所	里五丁目 7-7	546-0075

＜消防　119＞

名　称	所在地	電話番号
大津市消防局	**御陵町 3-1**	**522-0119**
東消防署	**大江四丁目 18-1**	**543-0119**
田上分団	里五丁目 7-50	546-2146

＜緊急輸送道路＞



（注）緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

＜医療施設＞

種　別		名　称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35	522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9	522-4607
	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298	594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29	573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1	537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町	548-2111

■ 地震災害危険度予測

＜地震被害想定結果＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース１	4,367	12,160	6	171	91	0	0	0	29	19	16	3	2	2
ケース２	4,367	12,160	17	522	278	1	0	0	89	51	50	9	5	5
ケース３	4,367	12,160	6	325	169	0	0	0	52	30	30	5	3	3

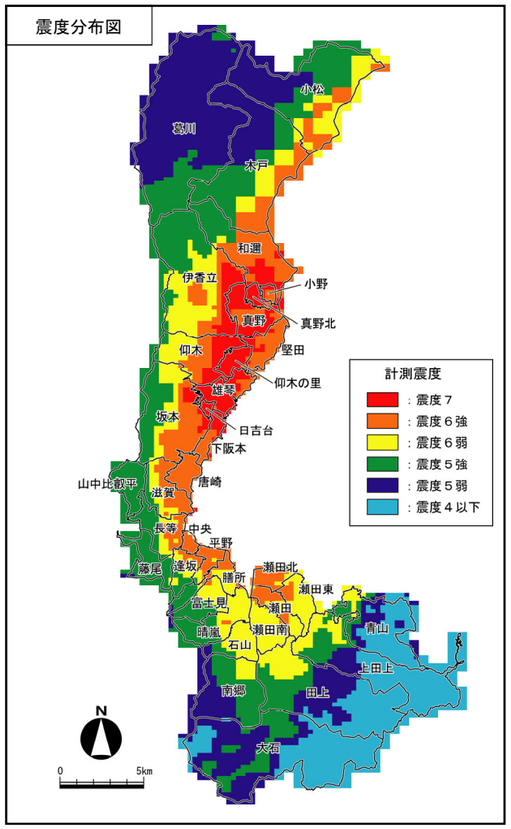
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース１	0	0	0	136
ケース２	0	0	0	415
ケース３	0	0	0	249

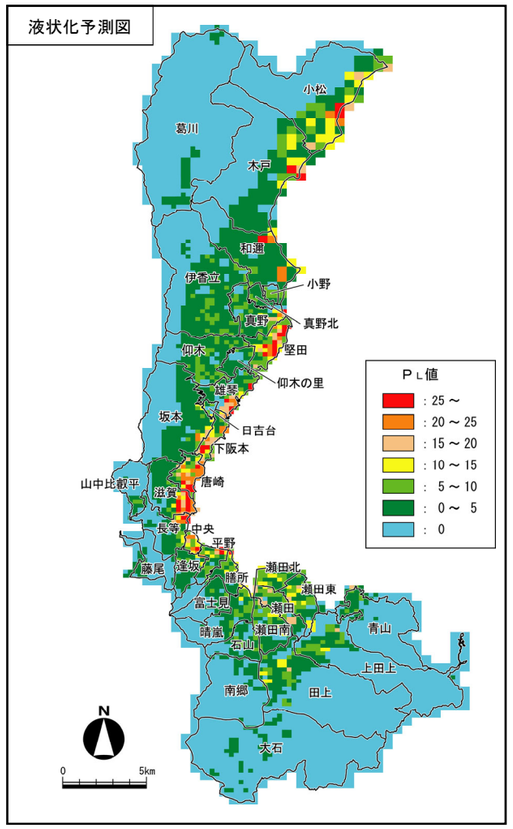
（注）表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜震度分布及び液状化予測図＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震（ケース２）



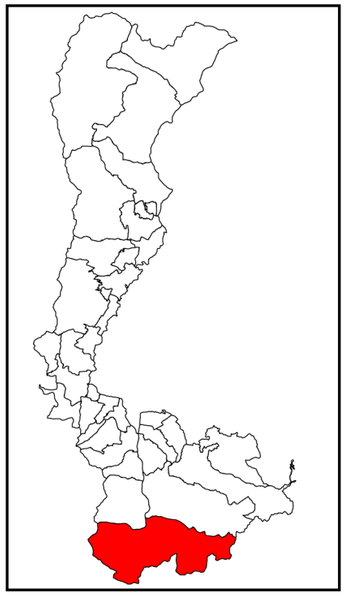


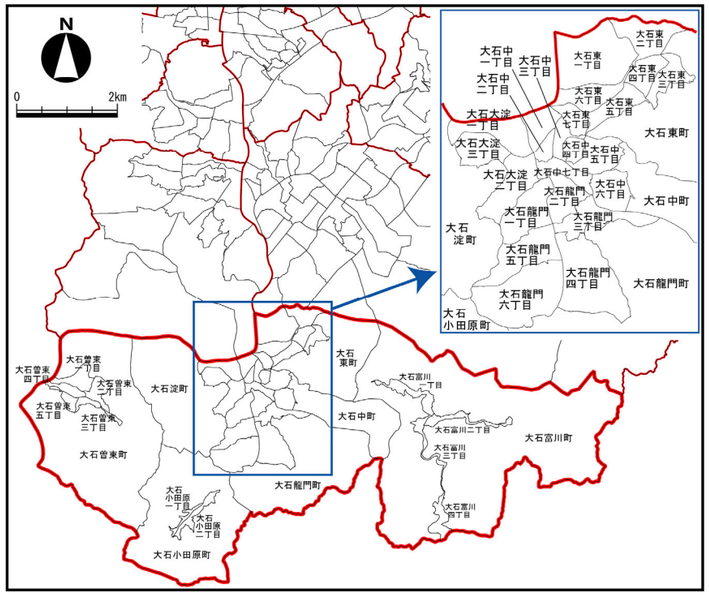
出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）
志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）

（ＰＬ≧10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
ＰＬ≧20 激しい液状化）

◆ 大石学区

■ 学区の概況





＜町丁名＞

大石曽東町、大石富川町、大石曽東一丁目、大石曽東二丁目、大石曽東三丁目、大石曽東四丁目、大石曽東五丁目、大石小田原一丁目、大石小田原二丁目、大石龍門一丁目、大石龍門二丁目、大石龍門三丁目、大石龍門四丁目、大石龍門五丁目、大石龍門六丁目、大石淀一丁目、大石淀二丁目、大石淀三丁目、大石中一丁目、大石中二丁目、大石中三丁目、大石中四丁目、大石中五丁目、大石中六丁目、大石中七丁目、大石東一丁目、大石東二丁目、大石東三丁目、大石東四丁目、大石東五丁目、大石東六丁目、大石東七丁目、大石富川一丁目、大石富川二丁目、大石富川三丁目、大石富川四丁目、大石小田原町、大石龍門町、大石淀町、大石中町、大石東町

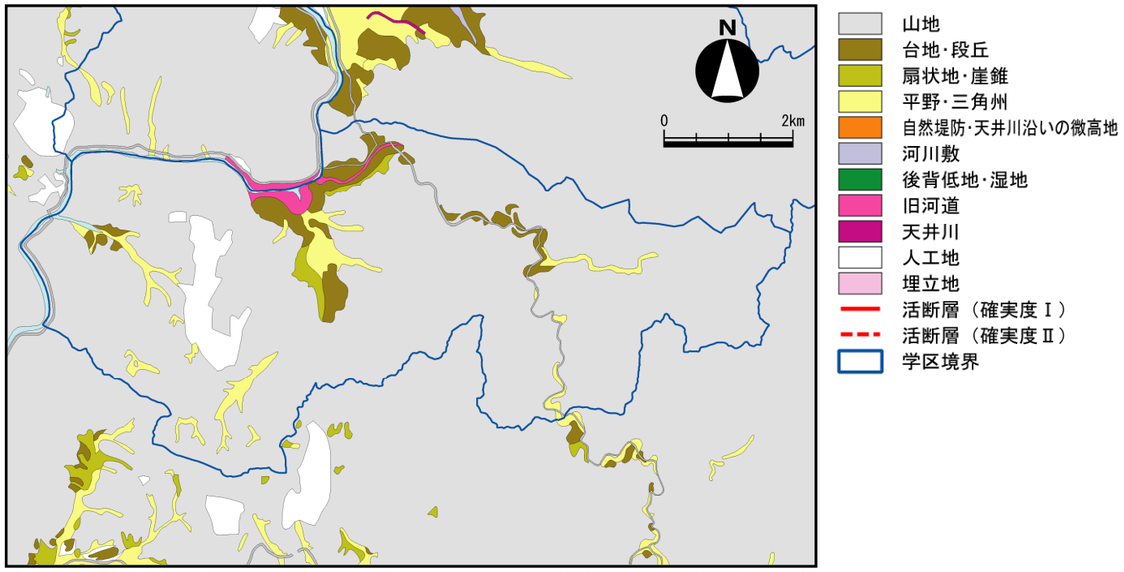
（注）学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

＜学区の特徴＞

大津市の最南端部に位置し、瀬田川に沿い、山と丘陵に囲まれた地域を大石川と信楽川の清流が流れる、水と緑の自然豊かな景勝の地である。後に赤穂藩家老大石良雄を出す大石氏の本貫地として知られる。

近年、信楽川と瀬田川が合流する地域で大規模な住宅開発が進み、人口が増加してきている。また、天ヶ瀬ダムによる河川敷や地域の自然、歴史環境などを活かして「大石スポーツ公園」や「サイクリングターミナル」が整備され、新たな街づくりが進んでいる。

■ 地形・地質の概要



（注）図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜地形の特徴＞

- 大石地域の地形の大部分は山地であり、大石淀や大石富川付近では河川沿いに丘陵・台地や平野などの低地が分布する。
- 大石曽東付近の人工地はゴルフ場である。
- 本学区付近の瀬田川は先行谷を形成している。とくに鹿跳付近では河幅が狭く渓谷（鹿跳渓谷）になっているが、これは周辺の山地が隆起する速さよりも川が谷を削る速さが大きく、川の流路が変わらなかったためである。

＜地質の特徴＞

- この地域の山地は主に丹波帯とよばれる中古生代の地層と、田上花崗岩からなる。丹波帯は海洋性起源の岩石と陸源性の砕屑岩からなる地層で、近畿地方の北部に広く分布している。田上花崗岩は中生代白亜紀の火成活動により形成されたものである。
- 大石淀付近の丘陵は古琵琶湖層群草津累層からなる。草津累層は約 200 万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。大石小田原付近でも第三紀鮮新世の堆積物が分布している。
- 鹿跳付近の瀬田川河床は田上花崗岩が露出した岩盤河床であり、所々にポットホールと呼ばれる丸い穴が空いている。ポットホールは石が穴に入り込み、その石が水流によって回転し岩盤を丸く削り込んで作られたものである。

◆ 大石学区

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度（戸/ha）(注1)	不燃領域率（%）(注2)	木造率（%）	旧耐震木造建物/木造建物（%）
大石曽東町	－	－	－	－
大石小田原町	－	－	41.7	100.0
大石龍門町	－	－	100.0	100.0
大石淀町	－	－	37.0	90.0
大石中町	－	－	－	－
大石東町	－	－	－	－
大石富川町	－	－	－	－
大石曽東一丁目	38.0	98.1	88.2	66.7
大石曽東二丁目	35.5	85.3	78.4	68.8
大石曽東三丁目	26.6	93.0	53.3	75.0
大石曽東四丁目	－	－	－	－
大石曽東五丁目	82.3	97.2	75.0	60.0
大石小田原一丁目	33.7	61.0	76.1	77.1
大石小田原二丁目	33.0	92.8	65.1	78.6
大石龍門一丁目	29.6	90.5	77.3	60.3
大石龍門二丁目	29.1	91.6	91.4	53.1
大石龍門三丁目	39.4	90.3	77.6	48.5
大石龍門四丁目	117.9	99.8	52.2	0.0
大石龍門五丁目	36.6	95.4	70.4	31.6
大石龍門六丁目	38.4	98.0	62.9	45.5
大石淀一丁目	32.1	96.5	70.4	10.5
大石淀二丁目	17.6	91.5	73.2	36.7
大石淀三丁目	43.0	90.8	68.9	60.6
大石中一丁目	48.9	95.7	51.0	46.2
大石中二丁目	49.0	74.9	68.9	45.2
大石中三丁目	48.3	78.7	78.2	39.3
大石中四丁目	58.9	51.7	92.1	0.0
大石中五丁目	59.2	67.7	91.4	0.0
大石中六丁目	－	－	7.1	0.0
大石中七丁目	60.4	88.5	86.7	27.7
大石東一丁目	34.8	94.5	77.3	50.6
大石東二丁目	39.5	93.2	72.5	64.0
大石東三丁目	44.9	84.0	65.8	20.0
大石東四丁目	59.9	66.0	73.2	3.8
大石東五丁目	65.8	60.5	78.7	0.0
大石東六丁目	－	－	－	－
大石東七丁目	69.0	98.7	59.3	50.0
大石富川一丁目	24.1	90.9	78.9	60.0
大石富川二丁目	26.7	89.6	68.0	82.4
大石富川三丁目	41.9	92.9	79.6	87.2
大石富川四丁目	20.8	93.2	69.7	82.6
学区平均	45.7	98.7	75.8	30.6
出典	1,2	1,2	2	2

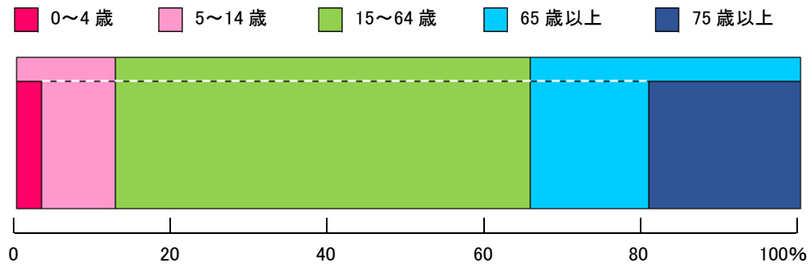
（注）表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
（注1）市街化区域を対象とした。
（注2）算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上，市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。
出典　1：大津湖南都市計画基礎調査（H30.2）土地利用現況
　　2：資産税データ（R4.4）

- 住宅密集度の学区平均は45.7戸/haで市平均（全学区の平均）の59.3戸/haより低い。
- 不燃領域率の学区平均は98.7%で市平均の93.9%を上回り、市内で最も高い。
- 木造率は、大石龍門町が100.0%で最も高く、大石中六丁目が7.1%で最も低い。学区平均は75.8%で市平均72.7%より高い。
- 旧耐震木造建物割合は、大石小田原町、大石龍門町が100.0%で最も高く、大石龍門四丁目、大石中四丁目～六丁目、大石東五丁目が0.0%で最も低い。学区平均は30.6%で市平均40.3%より低い。

■ 人口の状況

項　　目	人口等	単位	備　　考	割合（%）	出典
学区人口	4,703	人		－	1
年齢別（0～4歳）	105	人	学区人口に対する割合	2.2	1
年齢別（5～14歳）	378	人	学区人口に対する割合	8.0	1
年齢別（15～64歳）	2,858	人	学区人口に対する割合	60.8	1
年齢別（65歳以上）	1,362	人	学区人口に対する割合	29.0	1
年齢別（75歳以上）	595	人	学区人口に対する割合	12.7	1
世帯数	1,971	世帯		－	2
１世帯当たり人口	2.4	人/世帯		－	2
要介護認定者	254	人	学区人口に対する割合	5.4	3
身体障害者（要配慮者）	68	人	学区人口に対する割合	1.5	4
知的障害者（要配慮者）	10	人	学区人口に対する割合	0.2	4
外国人居住者	55	人	学区人口に対する割合	1.2	5

（注）１世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
出典　1：年齢別・学区別人口統計表（R4.3.31現在）、2：学区別人口・世帯数の年別推移（R4.3.31現在）
　　3：学区別要介護認定者（R4.4.30現在）、4：大津市データ（R4.3.31現在）
　　5：住民基本台帳情報からの統計（R4.3.31）



＜年齢別人口比率＞

- 人口は学区中部の平野・扇状地・段丘部に集中している。
- 高齢者（65歳以上）は1362人、乳幼児（0～4歳）は105人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ29.0%、2.2%である。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均（27.2%）より高く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均（3.9%）より低い。
- 要介護認定者は254人（5.4%）、身体障害者（要配慮者）は68人（1.5%）、知的障害者（要配慮者）は10人（0.2%）である。
- 外国人居住者は55人（1.2%）である。

■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 (注1)	67 箇所	1
土石流危険渓流 (注1)	101 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 (注1)(注2)	150 箇所	2
土砂災害警戒区域 (注1)(注2)	187 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） (注1)	18 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） (注1)	18 箇所	3
雪崩危険箇所 (注1)	0 箇所	4
地すべり防止区域 (注1)	0 箇所	5
地すべり危険箇所 (注1)	1 箇所	1
浸水想定区域 (注3)（0.0m～0.5m）	0 ㎡	6
（0.5m～1.0m）	0 ㎡	6
（1.0m～2.0m）	0 ㎡	6
（2.0m～）	0 ㎡	6
特に重要な水防区域 (注1)	0 箇所	7
重要水防区域 (注1)	0 箇所	7
防災重点農業用ため池 (注1)	13 箇所	8

（注 1）危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。
（注 2）複数の区域をまとめて１つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。
（注 3）浸水想定区域は、琵琶湖の水位が B.S.L.＋2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。
出典　1：滋賀県砂防課（R3.7.16）　2：滋賀県砂防課（R3.2）
3：滋賀県森林保全課（R3.11）　4：滋賀県砂防課（H24.12）　5：農林振興課、砂防課（H24.12）
6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）
7：琵琶湖河川事務所（R2.6）　8：大津市産業観光部（R3.12）

＜防災上の特性＞

- 大石学区のほとんどのエリアは山地からなり、山地斜面や谷筋の多くが急傾斜地崩壊危険箇所、山地災害危険箇所、土石流危険渓流の影響範囲に指定されている。
- 学区内に土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定されている箇所がある。
- 大石富川町は地すべり危険箇所に指定されている。豪雨などの場合はもちろんのこと、地震時にもこれらのエリアで崩壊が生じ、２次的に災害が発生する可能性があるため警戒が必要である。
- 大石学区内の主要道路は、県道 782 号、主要地方道 3 号、国道 422 号等であるが、これらの道路沿いの多くが上記の自然災害危険箇所に指定されているため、道路が寸断された際の物資の運搬などの対策が必要である。

■ 防災関連施設情報

＜指定緊急避難場所・指定避難所＞

種　類	名　称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	大石小学校グラウンド	○	○	○		大石東七丁目 4-1
	大石幼稚園グラウンド	○	○	○		大石中一丁目 5-9
	大石緑地グラウンド	○	○	○		大石淀一丁目
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	大石市民センター	○	○	○		大石中一丁目 7-4
	大石小学校体育館	○	○	○		大石東七丁目 4-1
	大石幼稚園	○	○	○		大石中一丁目 5-9

（注）指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。
指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。
※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

＜市関連機関＞

名　称	所在地	電話番号
大津市役所	**御陵町 3-1**	**523-1234，528-2616**
大石市民センター	大石中一丁目 7-4	546-1002

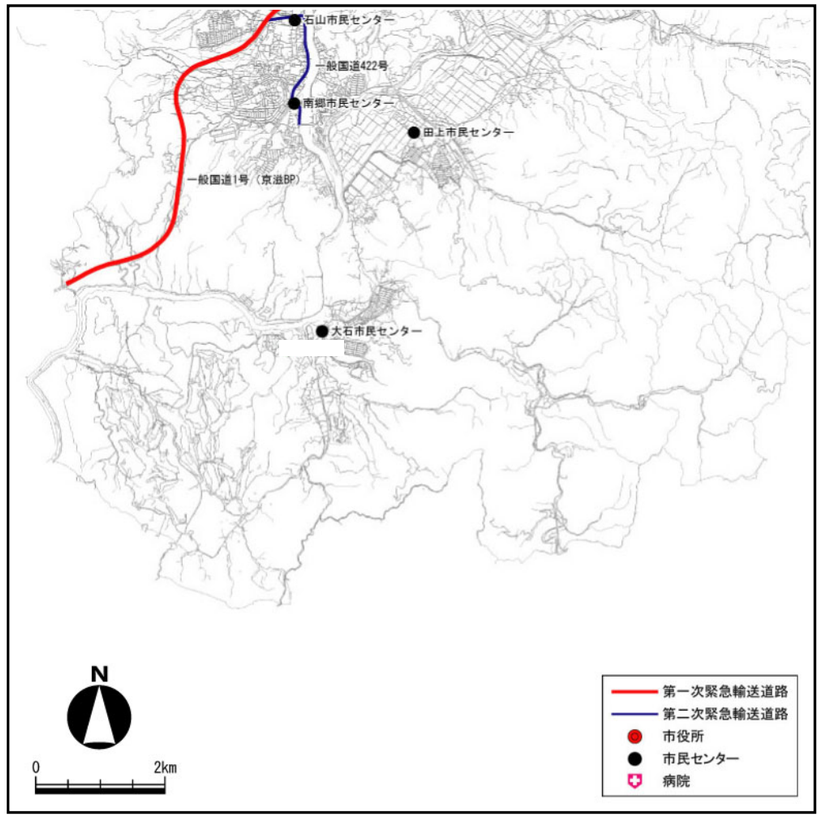
＜警察　110＞

名　称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	**打出浜 1-10**	**522-1231**
大津警察署	**打出浜 12-7**	**522-1234**
大石駐在所	大石中三丁目 1-21	546-0073

＜消防　119＞

名　称	所在地	電話番号
大津市消防局	**御陵町 3-1**	**522-0119**
南消防署	**光が丘町 5-7**	**533-0119**
南郷出張所	南郷一丁目 11-1	537-0119
大石分団	大石中一丁目 7-7	546-0507

＜緊急輸送道路＞



（注）緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

＜医療施設＞

種　別		名　称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35	522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9	522-4607
	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298	594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29	573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1	537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町	548-2111

■ 地震災害危険度予測

＜地震被害想定結果＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース１	1,878	5,460	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ケース２	1,878	5,460	0	6	3	0	0	0	1	0	1	0	0	0
ケース３	1,878	5,460	0	37	19	0	0	0	6	4	4	1	0	0

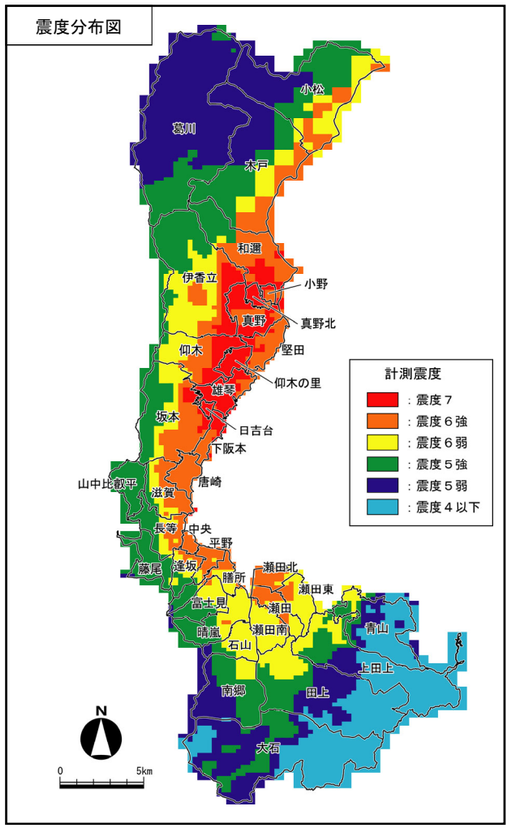
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース１	0	0	0	0
ケース２	0	0	0	4
ケース３	0	0	0	28

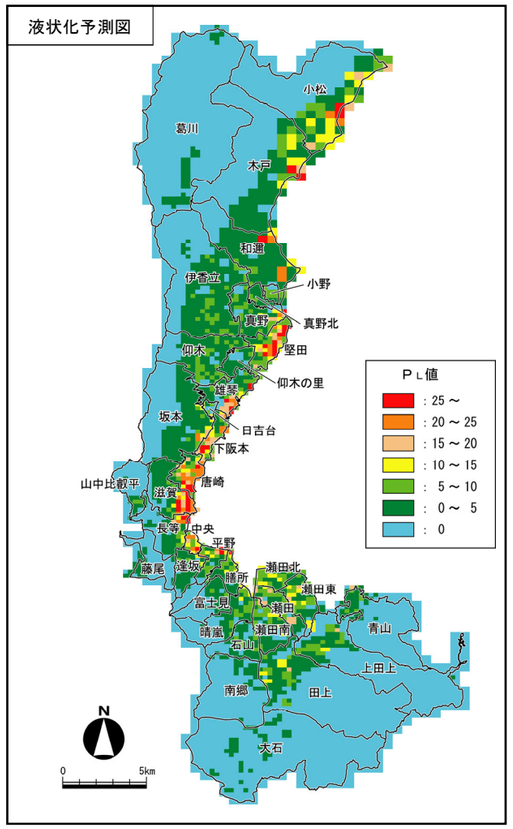
（注）表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜震度分布及び液状化予測図＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震（ケース２）





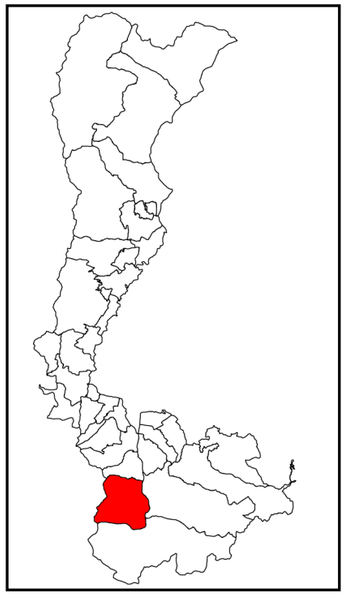
出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

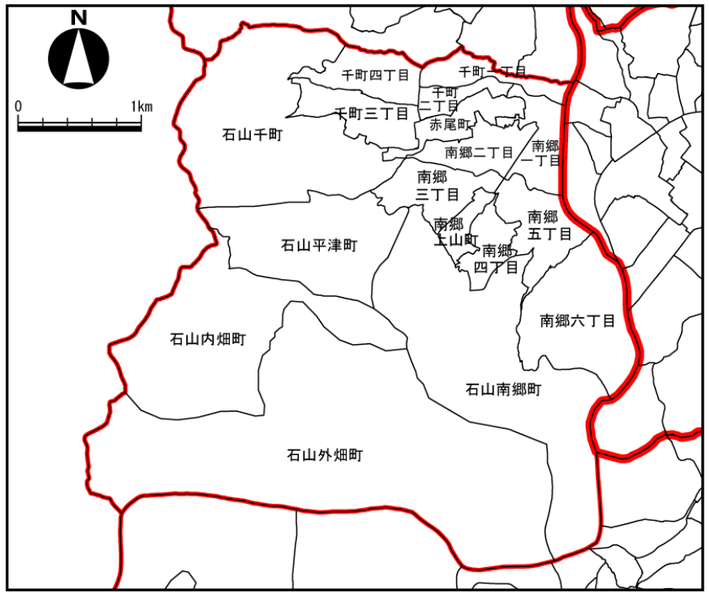
志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）

（ＰＬ≧10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
ＰＬ≧20 激しい液状化）

◆ 南郷学区

■ 学区の概況





＜町丁名＞

赤尾町、石山千町、石山南郷町、石山内畑町、石山外畑町、千町一丁目、千町二丁目、千町三丁目、千町四丁目、南郷一丁目、南郷二丁目、南郷三丁目、南郷四丁目、南郷五丁目、南郷六丁目、南郷上山町、石山平津町

（注）学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

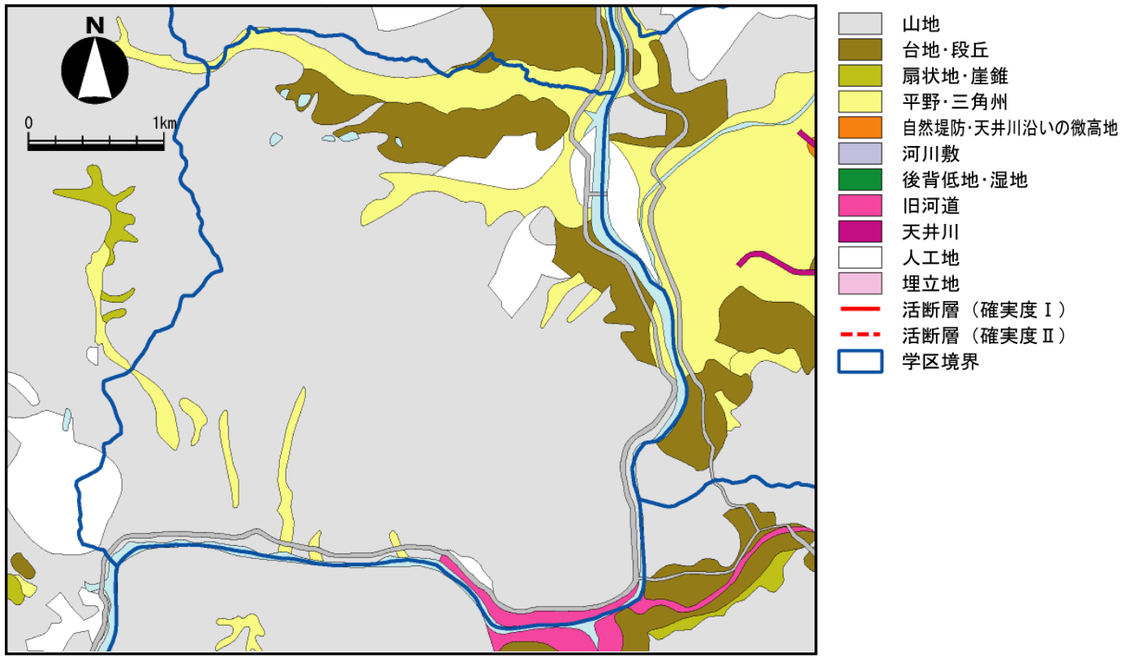
＜学区の特徴＞

瀬田川と醍醐山地に囲まれた自然豊かな地域である。

南には立木観音、西には岩間寺を仰ぎ、室町時代から観音巡礼が庶民の間に広がると、近江、山城、大和周辺地域の中でも有名な観音信仰の地域となった。

昭和 58 年に人口が増加した石山学区から独立し、その後も急激に住宅開発が進んだ。人口の 9 割は新興住宅地に居住している。地区の中央付近を京滋バイパスが通過し、石山インターチェンジや南郷インターチェンジの建設によって、京阪地域へのアクセスも便利になっている。

■ 地形・地質の概要



（注）図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜地形の特徴＞

- 南郷地区の地形は大部分が山地からなり、北東部に丘陵・台地や平野などの低地が分布する。
- 低地は瀬田川及びその支流の千丈川、国分川に沿って分布する。
- 台地は中位段丘と高位段丘に分けられ、中位段丘は低地沿いに、高位段丘はその上流部に分布する。瀬田川はこの付近では先行谷となっており、特に鹿跳付近では河幅が狭く渓谷（鹿跳渓谷）になっており、南郷洗堰及び天瀬ダム建設以前は早瀬となっていた。これは周辺の山地が隆起する速さよりも川が谷を削る速さが大きく、川の流路が変わらなかったためである。
- 南郷二丁目、四丁目には大きな宅地開発地があり、人工地になっている。また、地域の南西部の人工地は、採石場である。

＜地質の特徴＞

- 南郷地域の山地は、主に丹波帯とよばれる中古生代の地層と、田上花崗岩からなる。丹波帯は海洋性起源の岩石と陸源性の砕屑岩からなる地層で、近畿地方の北部に広く分布している。田上花崗岩は中生代白亜紀の火成活動により形成されたものである。
- 鹿跳付近の瀬田川河床は田上花崗岩が露出した岩盤河床であり、所々にポットホールと呼ばれる丸い穴が空いている。ポットホールは石が穴に入り込み、その石が水流によって回転し岩盤を丸く削り込んで作られたものである。

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度（戸/ha）(注1)	不燃領域率（%）(注2)	木造率（%）	旧耐震木造建物/木造建物（%）
石山平津町	－	－	－	－
赤尾町	61.2	63.9	74.6	33.8
石山千町	62.6	99.5	39.5	60.0
石山南郷町	－	－	－	－
石山内畑町	48.8	99.5	77.2	72.7
石山外畑町	43.9	98.0	88.0	69.1
千町一丁目	60.9	53.0	87.4	32.6
千町二丁目	62.1	49.4	83.8	44.2
千町三丁目	43.9	91.0	71.7	53.2
千町四丁目	57.2	97.6	71.4	44.0
南郷上山町	84.8	79.4	83.1	0.0
南郷一丁目	55.4	82.9	74.6	44.7
南郷二丁目	66.5	59.1	62.1	48.0
南郷三丁目	55.4	98.1	61.1	52.3
南郷四丁目	67.7	57.0	68.7	33.7
南郷五丁目	55.1	80.4	81.2	41.7
南郷六丁目	50.5	97.3	60.0	19.0
学区平均	60.9	94.8	73.7	39.4
出典	1,2	1,2	2	2

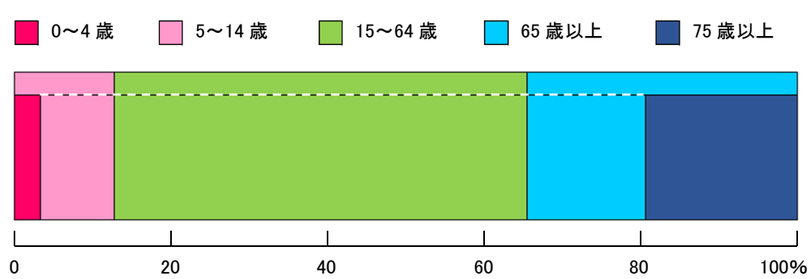
（注）表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
（注1）市街化区域を対象とした。
（注2）算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上，市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。
出典　1：大津湖南都市計画基礎調査（H30.2）土地利用現況
　　2：資産税データ（R4.4）

- 住宅密集度の学区平均は 60.9 戸/ha で市平均（全学区の平均）の 59.3 戸/ha より高い。
- 不燃領域率の学区平均は 94.8%で市平均の 93.9%より高い。
- 木造率は、石山外畑町が 88.0%で最も高く、石山千町が 39.5%で最も低い。学区平均は 73.7%で市平均 72.7%より高い。
-
- 旧耐震木造建物割合は、石山内畑町が 72.7%で最も高く、南郷上山町が 0.0%で最も低い。学区平均は 39.4%で市平均 40.3%より低い。

■ 人口の状況

項　　目	人口等	単位	備　　考	割合（%）	出典
学区人口	9,555	人		－	1
年齢別（0～4 歳）	314	人	学区人口に対する割合	3.3	1
年齢別（5～14 歳）	897	人	学区人口に対する割合	9.4	1
年齢別（15～64 歳）	5,044	人	学区人口に対する割合	52.8	1
年齢別（65 歳以上）	3,300	人	学区人口に対する割合	34.5	1
年齢別（75 歳以上）	1,852	人	学区人口に対する割合	19.4	1
世帯数	4,203	世帯		－	2
１世帯当たり人口	2.3	人/世帯		－	2
要介護認定者	639	人	学区人口に対する割合	6.7	3
身体障害者（要配慮者）	128	人	学区人口に対する割合	1.3	4
知的障害者（要配慮者）	66	人	学区人口に対する割合	0.7	4
外国人居住者	54	人	学区人口に対する割合	0.6	5

（注）１世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
出典　1：年齢別・学区別人口統計表（R4.3.31 現在）、2：学区別人口・世帯数の年別推移（R4.3.31 現在）
　　3：学区別要介護認定者（R4.4.30 現在）、4：大津市データ（R4.3.31 現在）
　　5：住民基本台帳情報からの統計（R4.3.31）



＜年齢別人口比率＞

- 学区北東部の平野・段丘部は人口集中地区（ＤＩＤ地区）である。
- 高齢者（65 歳以上）は 3300 人、乳幼児（0～4 歳）は 314 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 34.5%、3.3%である。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均（27.2%）より高く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均（3.9%）より低い。
- 要介護認定者は 639 人（6.7%）、身体障害者（要配慮者）は 128 人（1.3%）、知的障害者（要配慮者）は 66 人（0.7%）である。
- 外国人居住者は 54 人（0.6%）である。

■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 (注1)	31 箇所	1
土石流危険渓流 (注1)	65 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 (注1)(注2)	54 箇所	2
土砂災害警戒区域 (注1)(注2)	76 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） (注1)	20 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） (注1)	16 箇所	3
雪崩危険箇所 (注1)	0 箇所	4
地すべり防止区域 (注1)	0 箇所	5
地すべり危険箇所 (注1)	0 箇所	1
浸水想定区域 (注3)（0.0m～0.5m）	32,992 ㎡	6
（0.5m～1.0m）	25,734 ㎡	6
（1.0m～2.0m）	38,932 ㎡	6
（2.0m～）	2,640 ㎡	6
特に重要な水防区域 (注1)	0 箇所	7
重要水防区域 (注1)	0 箇所	7
防災重点農業用ため池 (注1)	18 箇所	8

（注1）危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。
（注2）複数の区域をまとめて１つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。
（注3）浸水想定区域は、琵琶湖の水位がB.S.L.＋2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。
出典　1：滋賀県砂防課（R3.7.16）　2：滋賀県砂防課（R3.2）
3：滋賀県森林保全課（R3.11）　4：滋賀県砂防課（H24.12）　5：農林振興課、砂防課（H24.12）
6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）
7：琵琶湖河川事務所（R2.6）　8：大津市産業観光部（R3.12）

＜防災上の特性＞

- 南郷学区では北東部の谷筋の多くが土石流危険渓流の影響範囲に指定されており、急傾斜地崩壊危険箇所も点在する。
- 学区内に土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定されている箇所がある。
- 豪雨などの場合には、この土石流危険渓流及び急傾斜地崩壊危険場所部分に警戒が必要である。
- 湖岸（瀬田川）沿いの低地部の一部には、琵琶湖湖面の上昇による浸水想定区域があるため、琵琶湖（瀬田川）からの浸水にも注意が必要である。
- 地震時には、山地部で崩壊が生じ、２次的に災害が発生する可能性がある。

■ 防災関連施設情報

＜指定緊急避難場所・指定避難所＞

種　類	名　称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	南郷小学校グラウンド	○	○	○		南郷一丁目 15-9
	南郷中学校グラウンド	○	○	○		赤尾町 57-1
	南郷幼稚園グラウンド		○	○		南郷三丁目 15-1
	南郷公園	○		○		南郷一丁目 17
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	南郷市民センター	○	○	○		南郷一丁目 12-13
	南郷小学校体育館	○	○	○		南郷一丁目 15-9
	南郷中学校体育館	○	○	○		赤尾町 57-1
	南郷幼稚園	○	○	○		南郷三丁目 15-1
指定避難所	南郷中学校武道場	―				赤尾町 57-1
	（福）南老人福祉センター	―				南郷一丁目 14-30

（注）指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。
指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。
※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

＜市関連機関＞

名　称	所在地	電話番号
大津市役所	**御陵町 3-1**	**523-1234，528-2616**
南郷市民センター	南郷一丁目 12-13	537-2326

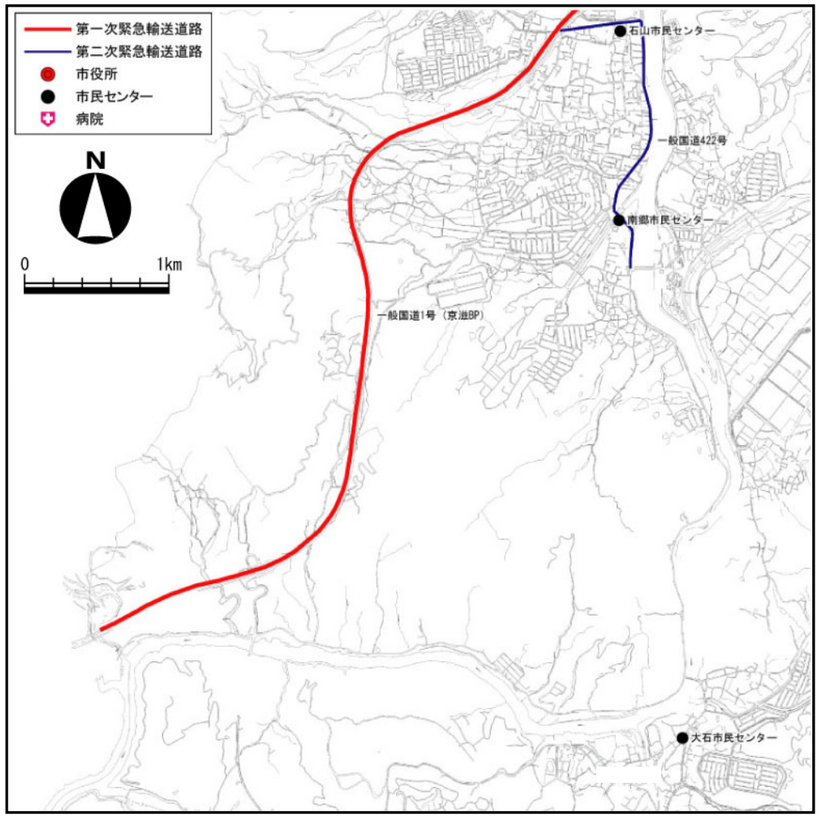
＜警察　110＞

名　称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	**打出浜 1-10**	**522-1231**
大津警察署	**打出浜 12-7**	**522-1234**

＜消防　119＞

名　称	所在地	電話番号
大津市消防局	**御陵町 3-1**	**522-0119**
南消防署	**光が丘町 5-7**	**533-0119**
南郷出張所	南郷一丁目 11-1	537-0119
南郷分団	南郷一丁目 11-1	534-2539

＜緊急輸送道路＞



（注）緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

＜医療施設＞

種　別		名　称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35	522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9	522-4607
	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298	594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29	573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1	537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町	548-2111

■ 地震災害危険度予測

＜地震被害想定結果＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース１	3,519	10,124	2	444	223	1	0	0	76	35	42	8	3	4
ケース２	3,519	10,124	0	285	143	0	0	0	51	23	28	5	2	3
ケース３	3,519	10,124	5	358	184	0	0	0	64	32	35	6	3	4

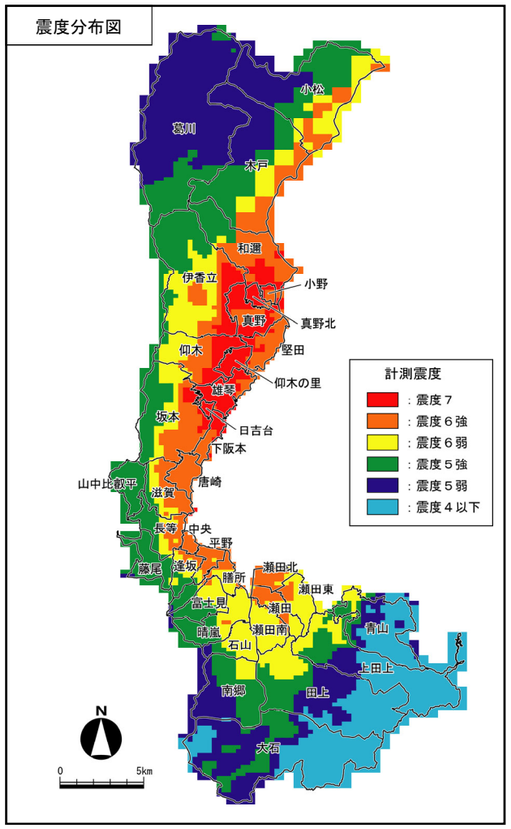
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース１	0	0	0	366
ケース２	0	0	0	244
ケース３	0	0	0	306

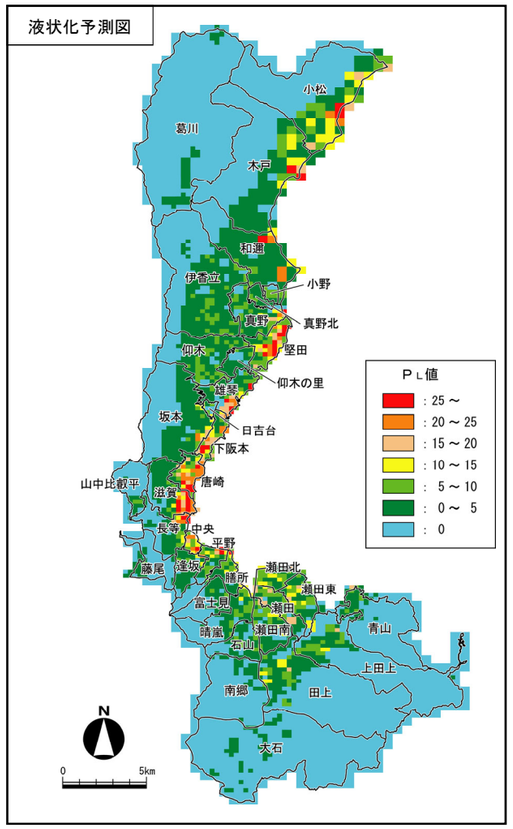
（注）表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜震度分布及び液状化予測図＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震（ケース２）



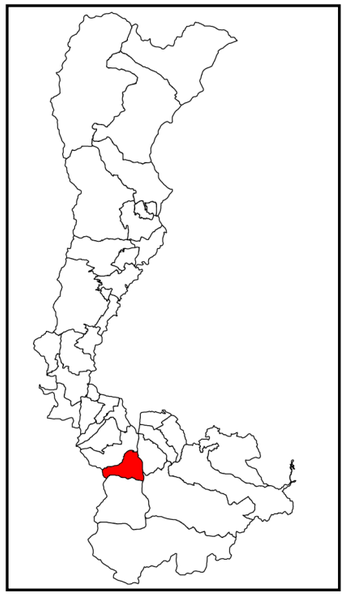


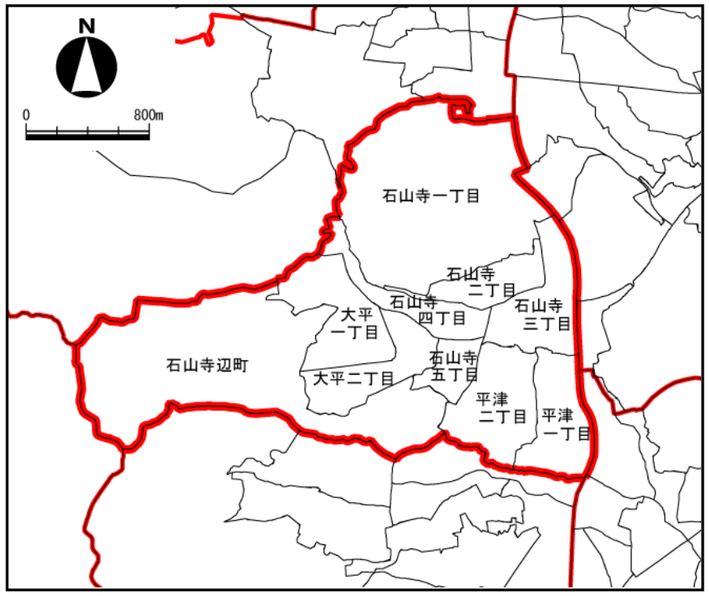
出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）
志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）

（ＰＬ≧10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
ＰＬ≧20 激しい液状化）

◆ 石山学区

■ 学区の概況





＜町丁名＞

石山寺辺町、大平一丁目、大平二丁目、石山寺一丁目、石山寺二丁目、石山寺三丁目、石山寺四丁目、石山寺五丁目、平津一丁目、平津二丁目

（注）学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

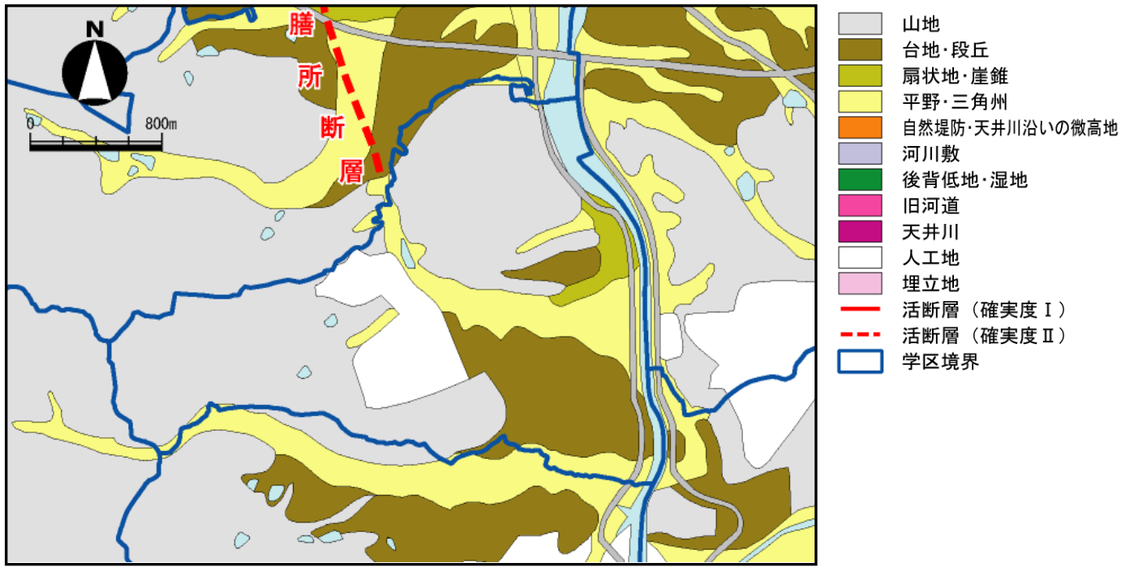
＜学区の特徴＞

縄文時代早期～前期の石山貝塚や蛍谷貝塚という市内で最も古い人々の定住遺跡があり、早くから拓けた地域であると言える。北部は伽藍山で晴嵐地域と境界をなし、西は大平山で京都市と境を接しており、そこから流れる多羅川が地域を横断する。この川に沿って緑道が整備され、散策路や通学路として親しまれている。

伽藍山にある石山寺は、７世紀後半に僧良弁によって開かれ、湖南における最大の寺院として人々の信仰を集めてきた。紫式部が源氏物語を書き上げたという伝説がある。また珪灰岩は天然記念物に指定されている。

昭和 40 年～50 年代にかけての石山団地の開発で人口が急増した地域である。

■ 地形・地質の概要



（注）図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜地形の特徴＞

- 石山地域の地形は、北部と西部が山地、東南部が丘陵・台地や平野などの低地である。
- 石山寺一丁目付近ではやや傾斜を持つ扇状地、多羅川に沿った地区は低平な谷底低地に細分される。
- 平津地区の台地は、低位段丘と中位段丘に分けられる。石山地域で最も面積を占める丘陵地の大部分は宅地化により人工改変を受けている。

＜地質の特徴＞

- 西部の山地部は主に丹波帯とよばれる中古生代の地層からなる。丹波帯は海洋性起源の岩石と陸源性の砕屑岩からなる地層で、近畿地方の北部に広く分布している。
- 北部の伽藍山を中心とした山地部は、中古生代の砂岩・頁岩・チャートからなる。このほか、石灰岩が花崗岩の貫入によって変成を受けた珪灰石などが産出し、石山寺の珪灰石は国の天然記念物に指定されている。
- 丘陵地は古琵琶湖層群草津累層からなる。草津累層は約 200 万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度（戸/ha）(注1)	不燃領域率（%）(注2)	木造率（%）	旧耐震木造建物/木造建物（%）
石山寺辺町	－	－	72.7	－
大平一丁目	44.4	77.7	72.4	55.8
大平二丁目	47.8	69.0	61.7	32.2
石山寺一丁目	97.5	99.2	71.1	68.5
石山寺二丁目	71.1	63.9	60.4	42.3
石山寺三丁目	53.8	80.8	75.9	31.0
石山寺四丁目	89.9	80.7	77.9	6.4
石山寺五丁目	58.9	74.0	82.6	18.8
平津一丁目	50.2	68.3	77.2	27.5
平津二丁目	50.1	81.3	77.8	43.4
学区平均	54.3	88.9	71.4	35.3
出典	1,2	1,2	2	2

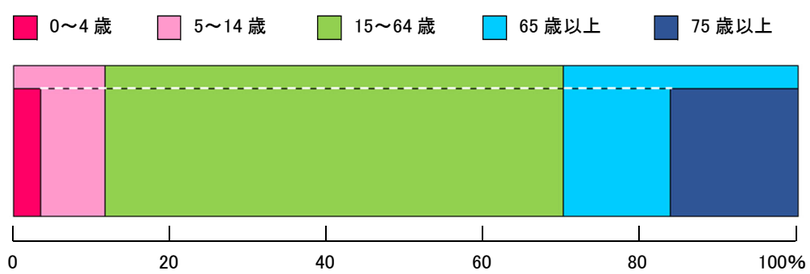
（注）表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
（注1）市街化区域を対象とした。
（注2）算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上，市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。
出典　1：大津湖南都市計画基礎調査（H30.2）土地利用現況
　　2：資産税データ（R4.4）

- 住宅密集度の学区平均は54.3戸/haで市平均（全学区の平均）の59.3戸/haより低い。
- 不燃領域率の学区平均は88.9%で市平均の93.9%より低い。
- 木造率は、石山寺五丁目が82.6%で最も高く、石山寺二丁目が60.4%で最も低い。学区平均は71.4%で市平均72.7%より低い。
- 旧耐震木造建物割合は、石山寺一丁目が68.5%で最も高く、石山寺四丁目が6.4%で最も低い。学区平均は35.3%で市平均40.3%より低い。

■ 人口の状況

項　　目	人口等	単位	備　　考	割合（%）	出典
学区人口	10,147	人		－	1
年齢別（0～4歳）	345	人	学区人口に対する割合	3.4	1
年齢別（5～14歳）	836	人	学区人口に対する割合	8.2	1
年齢別（15～64歳）	5,928	人	学区人口に対する割合	58.4	1
年齢別（65歳以上）	3,038	人	学区人口に対する割合	29.9	1
年齢別（75歳以上）	1,655	人	学区人口に対する割合	16.3	1
世帯数	4,861	世帯		－	2
１世帯当たり人口	2.1	人/世帯		－	2
要介護認定者	629	人	学区人口に対する割合	6.2	3
身体障害者（要配慮者）	150	人	学区人口に対する割合	1.5	4
知的障害者（要配慮者）	31	人	学区人口に対する割合	0.3	4
外国人居住者	172	人	学区人口に対する割合	1.7	5

（注）１世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
出典　1：年齢別・学区別人口統計表（R4.3.31現在）、2：学区別人口・世帯数の年別推移（R4.3.31現在）
　　3：学区別要介護認定者（R4.4.30現在）、4：大津市データ（R4.3.31現在）
　　5：住民基本台帳情報からの統計（R4.3.31）



＜年齢別人口比率＞

- 学区南東部の平野・扇状地・段丘部と中央部の人工地は人口集中地区（ＤＩＤ地区）である。
- 高齢者（65歳以上）は3038人、乳幼児（0～4歳）は345人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ29.9%、3.4%である。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均（27.2%）より高く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均（3.9%）より低い。
- 要介護認定者は629人（6.2%）、身体障害者（要配慮者）は150人（1.5%）、知的障害者（要配慮者）は31人（0.3%）である。
- 外国人居住者は172人（1.7%）である。

■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 (注1)	16 箇所	1
土石流危険渓流 (注1)	7 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 (注1)(注2)	28 箇所	2
土砂災害警戒区域 (注1)(注2)	42 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） (注1)	2 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） (注1)	3 箇所	3
雪崩危険箇所 (注1)	0 箇所	4
地すべり防止区域 (注1)	0 箇所	5
地すべり危険箇所 (注1)	0 箇所	1
浸水想定区域 (注3)（0.0m～0.5m）	17,453 ㎡	6
（0.5m～1.0m）	2,404 ㎡	6
（1.0m～2.0m）	2,280 ㎡	6
（2.0m～）	2,282 ㎡	6
特に重要な水防区域 (注1)	0 箇所	7
重要水防区域 (注1)	0 箇所	7
防災重点農業用ため池 (注1)	6 箇所	8

（注 1）危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。
（注 2）複数の区域をまとめて１つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。
（注 3）浸水想定区域は、琵琶湖の水位が B.S.L.＋2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。
出典　1：滋賀県砂防課（R3.7.16）　2：滋賀県砂防課（R3.2）
3：滋賀県森林保全課（R3.11）　4：滋賀県砂防課（H24.12）　5：農林振興課、砂防課（H24.12）
6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）
7：琵琶湖河川事務所（R2.6）　8：大津市産業観光部（R3.12）

＜防災上の特性＞

- 石山学区では東南部の市街地部には防災上注意の必要な危険箇所の指定部は少ないが、北部や西部の山地の谷筋沿いは土石流危険渓流の影響範囲に指定されているところもある。
- 急傾斜地崩壊危険箇所も点在し、特に北東部の瀬田川沿いの斜面は広範囲にわたって急傾斜地崩壊危険箇所に指定されている。豪雨などの場合には、この土石流危険渓流及び急傾斜地崩壊危険場所部分に警戒が必要である。
- 学区内に土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定されている箇所がある。
- 湖岸（瀬田川）沿いの低地部の一部には、琵琶湖湖面の上昇による浸水想定区域があるため、琵琶湖（瀬田川）からの浸水に注意が必要である。
- 地震時には、山地部で崩壊が生じ、２次的に災害が発生する可能性があることにも留意する必要がある。

■ 防災関連施設情報

＜指定緊急避難場所・指定避難所＞

種　類	名　称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	石山小学校グラウンド	○	○	○		石山寺三丁目 11-20
	石山中学校グラウンド	○	○	○		平津一丁目 23-1
	石山幼稚園グラウンド	○	○	○		石山寺三丁目 17-8
	大平保育園グラウンド	○	○	○		大平二丁目 33-22
	滋賀県立大津清陵高校グラウンド	○	○	○		大平一丁目 14-1
	石山公園（石山寺駐車場含む）	○	○	○		石山寺三丁目 2
	滋賀大学教育学部	○	○	○	○	平津二丁目 5-1 他
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	石山市民センター	○	○	○		石山寺三丁目 15-15
	石山小学校体育館	○	○	○		石山寺三丁目 11-20
	石山中学校体育館	○	○	○		平津一丁目 23-1
	石山幼稚園	○	○			石山寺三丁目 17-8
	石山市民体育館	○	○	○		石山寺三丁目 10-35
	滋賀県立大津清陵高校体育館	○	○	○		大平一丁目 14-1
指定避難所	石山中学校武道場	―				平津一丁目 23-1
	（福）大平保育園	―				大平二丁目 33-22

（注）指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。
指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。
※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

＜市関連機関＞

名　称	所在地	電話番号
大津市役所	**御陵町 3-1**	**523-1234，528-2616**
石山市民センター	石山寺三丁目 15-15	537-0001

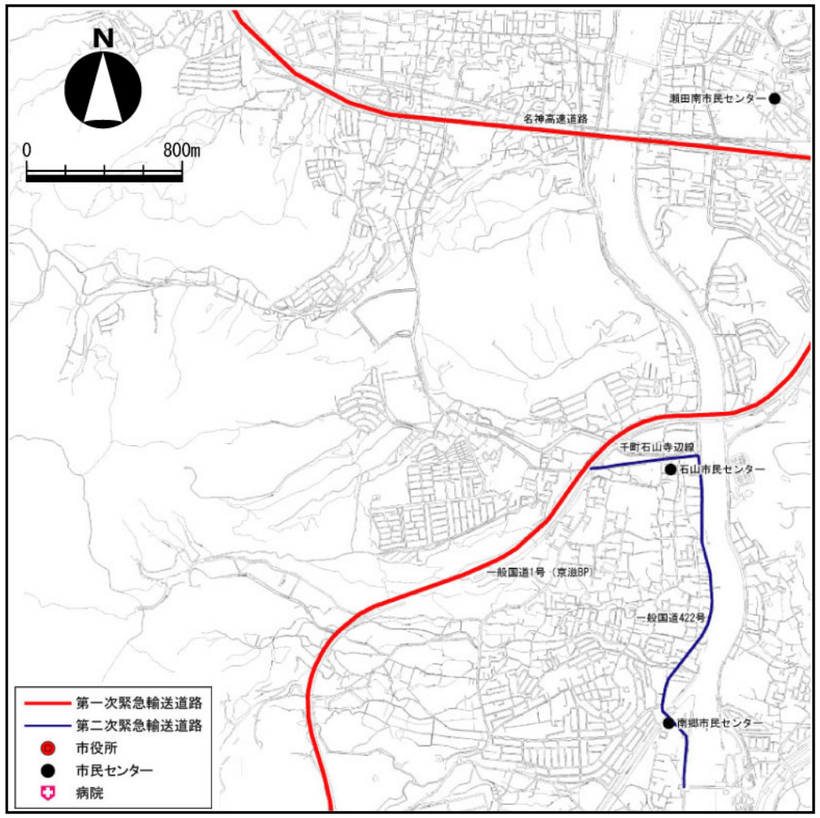
＜警察　110＞

名　称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	**打出浜 1-10**	**522-1231**
大津警察署	**打出浜 12-7**	**522-1234**
石山南郷交番	石山寺三丁目 21-1	537-4120

＜消防　119＞

名　称	所在地	電話番号
大津市消防局	**御陵町 3-1**	**522-0119**
南消防署	光が丘町 5-7	533-0119
石山分団	石山寺三丁目 544-4	534-3856

＜緊急輸送道路＞



（注）緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

＜医療施設＞

種　別		名　称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35	522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9	522-4607
	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298	594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29	573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1	537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町	548-2111

■ 地震災害危険度予測

＜地震被害想定結果＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース１	2,704	11,300	3	290	148	1	0	0	76	39	49	8	4	5
ケース２	2,704	11,300	4	324	166	1	0	0	73	42	48	7	4	5
ケース３	2,704	11,300	1	242	122	0	0	0	61	33	40	6	3	4

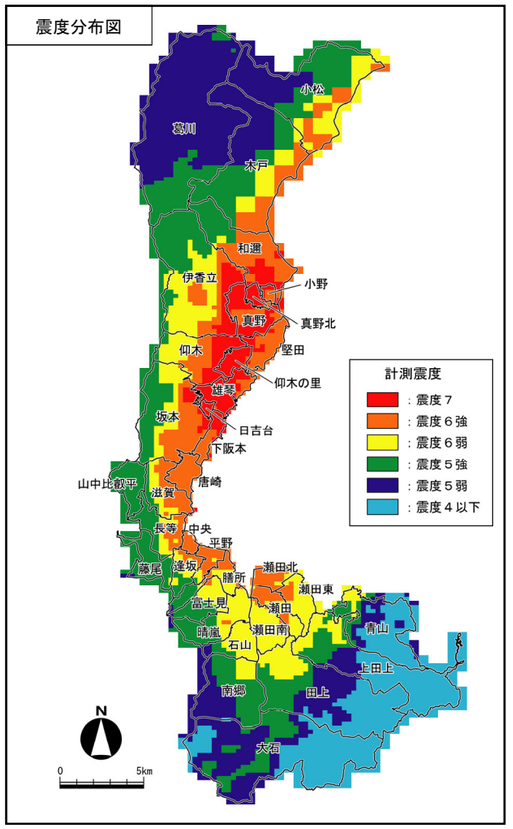
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース１	0	0	0	363
ケース２	0	0	0	351
ケース３	0	0	0	293

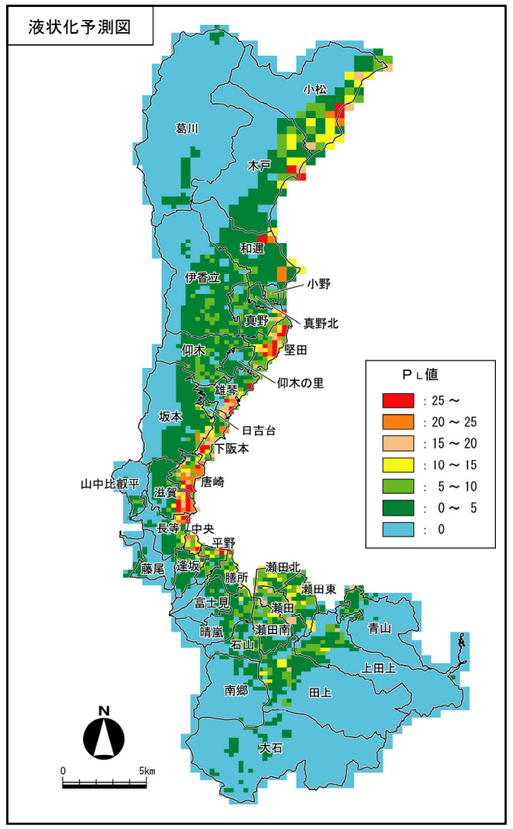
（注）表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜震度分布及び液状化予測図＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震（ケース２）





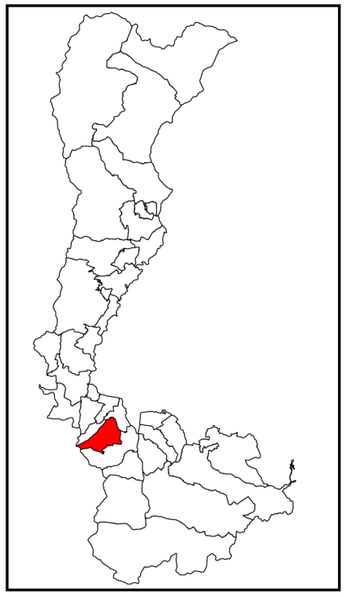
出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

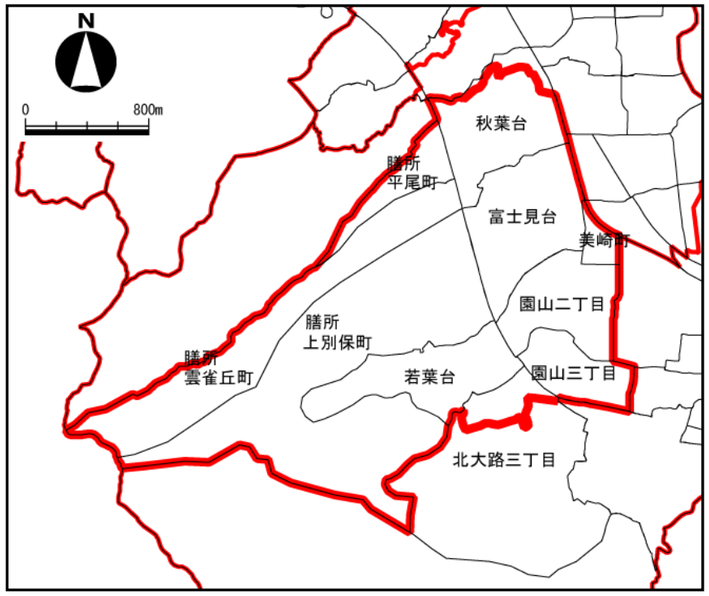
（ＰＬ≧10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
ＰＬ≧20 激しい液状化）

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）

◆ 富士見学区

■ 学区の概況





＜町丁名＞

秋葉台の一部、富士見台、膳所平尾町、若葉台、園山二丁目、園山三丁目、美崎町、北大路三丁目の一部、膳所雲雀丘町、膳所上別保町

（注）学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

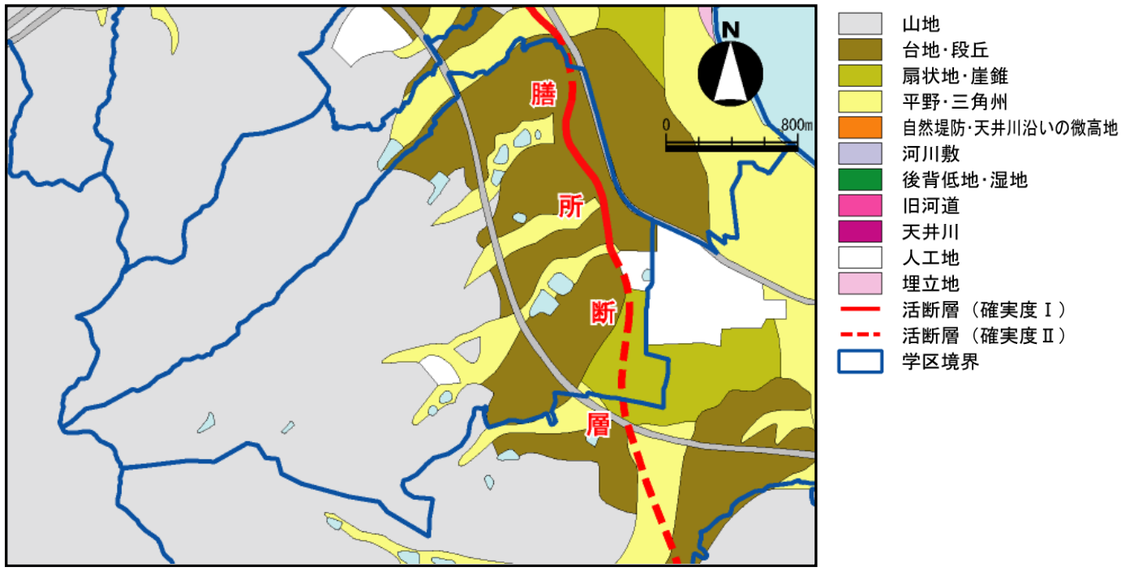
＜学区の特徴＞

住宅開発による人口増加に伴い富士見小学校が新設されたのを機に、昭和 49 年 4 月に膳所、晴嵐学区から分かれて新学区として発足した。

音羽山系及び大平山から東に延びる斜面上で国道 1 号の山手側に開かれ、豊かな水と自然をもって、人々の生活をささえてきた。

茶臼山を西に、園山を東に配した由緒ある古墳群と、壬申の乱での悲話伝説や膳所藩時代に作られた灌漑用のため池などの歴史遺産を、今日でも目にすることができる。また、国道沿いは自動車関連事業所をはじめとする商業ゾーン、音羽山系を背景とした山手は琵琶湖を眼下に緑豊かな丘陵に広がる住宅地として発展してきた。

■ 地形・地質の概要



（注）図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜地形の特徴＞

- 富士見地域の地形は、西部の山地と東部の丘陵・段丘に区分される。台地は低位、中位、高位の段丘に区分される。茶臼山古墳、小茶臼山古墳は中、高位の段丘上に位置し、自然地形を利用して作られていることが分かる。丘陵の間に入り込んでいる谷は低位段丘であり、多くのため池が作られている。
- 市街地の大部分は丘陵地を宅地開発して作られた新しい町であり、丘陵地の面影は失われてきている。

＜地質の特徴＞

- 山地部は、主に丹波帯とよばれる中古生代の地層からなる。丹波帯は海洋性起源の岩石と陸源性の砕屑岩からなる地層で、近畿地方の北部に広く分布している。
- 丘陵地は古琵琶湖層群草津累層からなる。草津累層は約 200 万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。

＜活断層の特徴＞

- 学区東部には、膳所断層の南部が通過している。膳所断層は、馬場から国分付近まで延びる、長さ約 4.5km の活断層で、断層を挟んで相対的に西側が隆起する、縦ずれ断層である。

◆ 富士見学区

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度（戸/ha）(注1)	不燃領域率（%）(注2)	木造率（%）	旧耐震木造建物/木造建物（%）
秋葉台	70.9	73.7	79.7	26.8
富士見台	83.4	70.8	76.8	40.8
膳所平尾町	50.0	97.0	61.7	41.4
膳所雲雀丘町	－	－	－	－
膳所上別保町	－	－	－	－
若葉台	57.5	78.9	79.7	26.0
園山二丁目	45.1	89.6	68.9	2.3
園山三丁目	－	－	－	－
美崎町	80.0	81.2	69.9	19.0
北大路三丁目	64.4	95.5	63.9	39.0
学区平均	70.2	90.6	74.5	32.1
出典	1,2	1,2	2	2

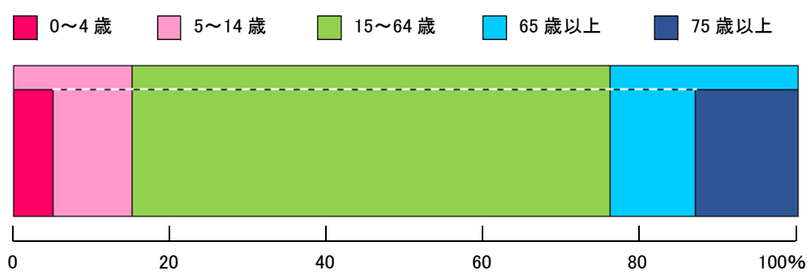
（注）表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
（注1）市街化区域を対象とした。
（注2）算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上，市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。
出典　1：大津湖南都市計画基礎調査（H30.2）土地利用現況
　　2：資産税データ（R4.4）

- 住宅密集度の学区平均は 70.2 戸/ha で市平均（全学区の平均）の 59.3 戸/ha より高い。
- 不燃領域率の学区平均は 90.6%で市平均の 93.9%より低い。
- 木造率は、秋葉台、若葉台が 79.7%で最も高く、膳所平尾町が 61.7%で最も低い。学区平均は 74.5%で市平均 72.7%より高い。
- 旧耐震木造建物割合は、膳所平尾町が 41.4%で最も高く、園山二丁目が 2.3%で最も低い。学区平均は 32.1%で市平均 40.3%より低い。

■ 人口の状況

項　　目	人口等	単位	備　　考	割合（%）	出典
学区人口	9,138	人		－	1
年齢別（0～4 歳）	458	人	学区人口に対する割合	5.0	1
年齢別（5～14 歳）	910	人	学区人口に対する割合	10.0	1
年齢別（15～64 歳）	5,574	人	学区人口に対する割合	61.0	1
年齢別（65 歳以上）	2,196	人	学区人口に対する割合	24.0	1
年齢別（75 歳以上）	1,204	人	学区人口に対する割合	13.2	1
世帯数	3,892	世帯		－	2
１世帯当たり人口	2.3	人/世帯		－	2
要介護認定者	440	人	学区人口に対する割合	4.8	3
身体障害者（要配慮者）	96	人	学区人口に対する割合	1.1	4
知的障害者（要配慮者）	23	人	学区人口に対する割合	0.3	4
外国人居住者	147	人	学区人口に対する割合	1.6	5

（注）１世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
出典　1：年齢別・学区別人口統計表（R4.3.31 現在）、2：学区別人口・世帯数の年別推移（R4.3.31 現在）
　　3：学区別要介護認定者（R4.4.30 現在）、4：大津市データ（R4.3.31 現在）
　　5：住民基本台帳情報からの統計（R4.3.31）



＜年齢別人口比率＞

- 学区東部の平野・扇状地・段丘部は人口集中地区（ＤＩＤ地区）である。
- 高齢者（65 歳以上）は 2196 人、乳幼児（0～4 歳）は 458 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 24.0%、5.0%である。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均（27.2%）より低く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均（3.9%）より高い。
- 要介護認定者は 440 人（4.8%）、身体障害者（要配慮者）は 96 人（1.1%）、知的障害者（要配慮者）は 23 人（0.3%）である。
- 外国人居住者は 147 人（1.6%）である。

■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 (注1)	18 箇所	1
土石流危険渓流 (注1)	12 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 (注1)(注2)	23 箇所	2
土砂災害警戒区域 (注1)(注2)	44 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） (注1)	4 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） (注1)	1 箇所	3
雪崩危険箇所 (注1)	0 箇所	4
地すべり防止区域 (注1)	0 箇所	5
地すべり危険箇所 (注1)	0 箇所	1
浸水想定区域 (注3)（0.0m～0.5m）	0 ㎡	6
（0.5m～1.0m）	0 ㎡	6
（1.0m～2.0m）	0 ㎡	6
（2.0m～）	0 ㎡	6
特に重要な水防区域 (注1)	0 箇所	7
重要水防区域 (注1)	0 箇所	7
防災重点農業用ため池 (注1)	16 箇所	8

（注 1）危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。
（注 2）複数の区域をまとめて 1 つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。
（注 3）浸水想定区域は、琵琶湖の水位が B.S.L.＋2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。
出典　1：滋賀県砂防課（R3.7.16）　2：滋賀県砂防課（R3.2）
3：滋賀県森林保全課（R3.11）　4：滋賀県砂防課（H24.12）　5：農林振興課、砂防課（H24.12）
6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）
7：琵琶湖河川事務所（R2.6）　8：大津市産業観光部（R3.12）

＜防災上の特性＞

- 山地と台地・段丘の境界付近に土石流危険渓流の指定地域や急傾斜地崩壊危険箇所が多い。豪雨などの場合には、この土石流危険渓流および急傾斜地崩壊危険場所部分に警戒が必要である。
- 学区内に土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定されている箇所がある。
- 学区の東端付近には膳所断層が南北に通過する。
- 地震時には、山地部で崩壊が生じ、２次的に災害が発生する可能性があることにも留意する必要がある。また、膳所断層が直接活動した場合は断層の周辺部に大きな地表変位が生じる可能性があるが、直接活動しない場合においても、地震動（地震の揺れ）によって、断層通過部付近では、揺れが増幅して周辺より被害が大きくなる可能性がある（このような現象は兵庫県南部地震時にも見られている）。

■ 防災関連施設情報

＜指定緊急避難場所・指定避難所＞

種　類	名　称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	富士見小学校グラウンド	○	○	○		富士見台 42-16
	富士見幼稚園グラウンド	○	○	○		富士見台 45-5
	富士見台一区防災広場	○	○	○		富士見台 3-30
	茶臼山公園	○	○	○	○	秋葉台 34
	園山公園	○	○	○	○	園山二丁目 11
	若葉台公園	○	○	○	○	若葉台 28
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	富士見市民センター	○	○	○		園山二丁目 15-33
	富士見小学校体育館		○	○		富士見台 42-16
	富士見幼稚園	○	○	○		富士見台 45-5

（注）指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。
指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。
※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

＜市関連機関＞

名　称	所在地	電話番号
大津市役所	**御陵町 3-1**	**523-1234，528-2616**
富士見市民センター	園山二丁目 15-33	534-8122

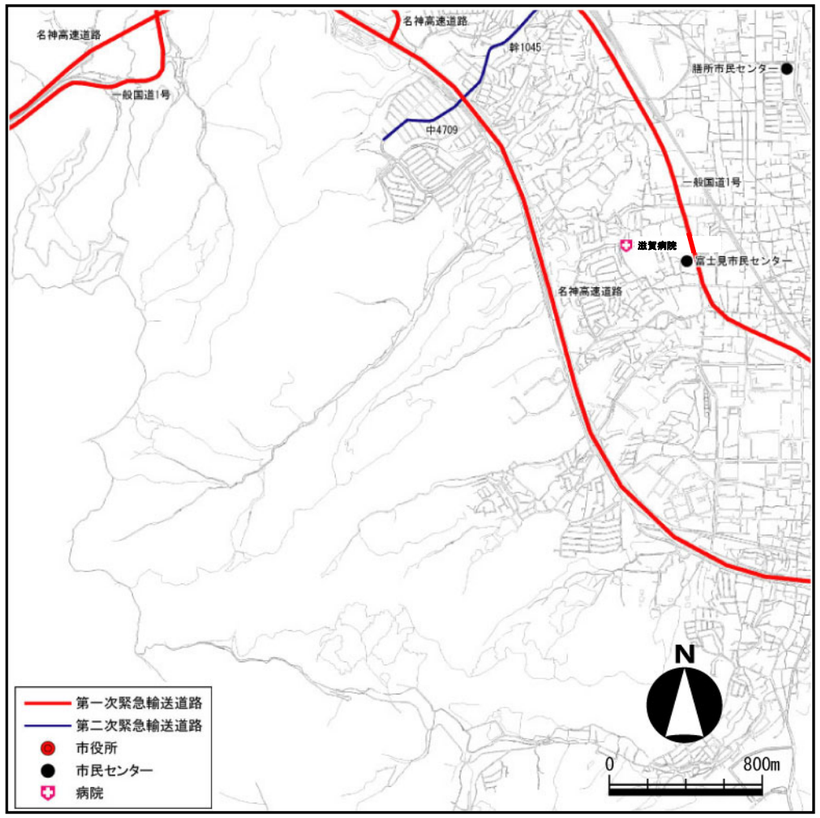
＜警察　110＞

名　称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	**打出浜 1-10**	**522-1231**
大津警察署	**打出浜 12-7**	**522-1234**
富士見交番	秋葉台 13-4	534-2939

＜消防　119＞

名　称	所在地	電話番号
大津市消防局	**御陵町 3-1**	**522-0119**
南消防署	**光が丘町 5-7**	**533-0119**
富士見分団	園山二丁目 15-33	534-4199

＜緊急輸送道路＞



（注）緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

＜医療施設＞

種　別		名　称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35	522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9	522-4607
	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298	594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29	573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1	537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町	548-2111

■ 地震災害危険度予測

＜地震被害想定結果＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース１	2,638	9,359	29	514	286	1	1	1	116	65	74	10	6	6
ケース２	2,638	9,359	129	629	443	2	1	1	166	98	105	10	6	7
ケース３	2,638	9,359	240	657	568	3	2	2	201	121	127	11	6	7

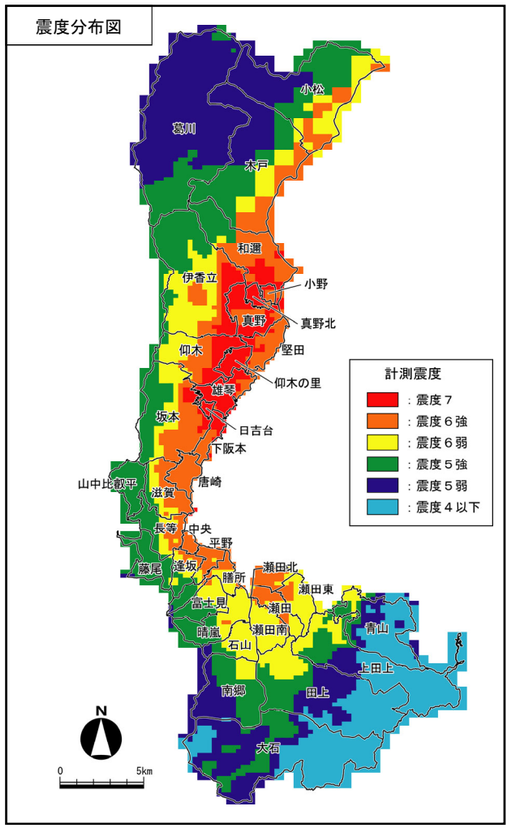
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース１	0	0	0	536
ケース２	0	0	1	755
ケース３	0	1	1	896

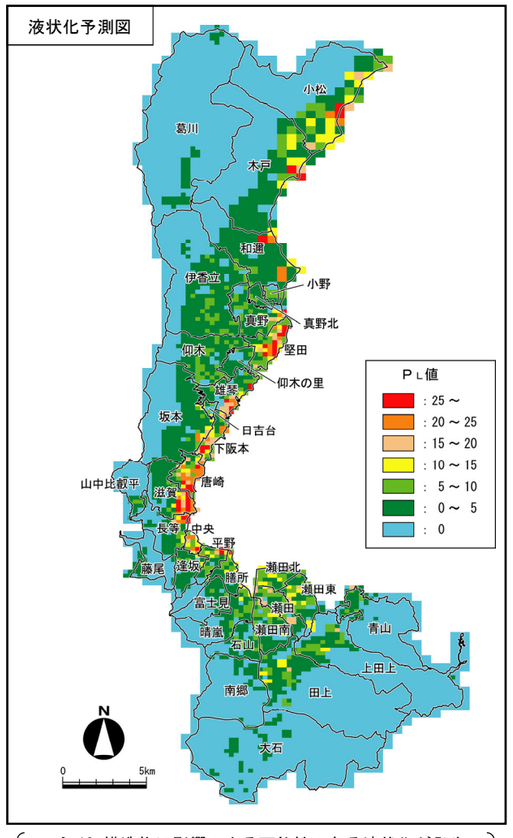
（注）表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜震度分布及び液状化予測図＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震（ケース２）



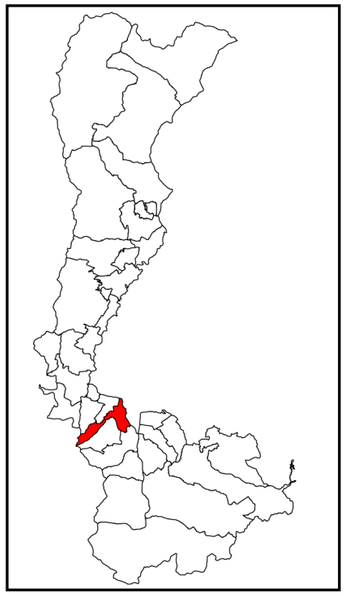


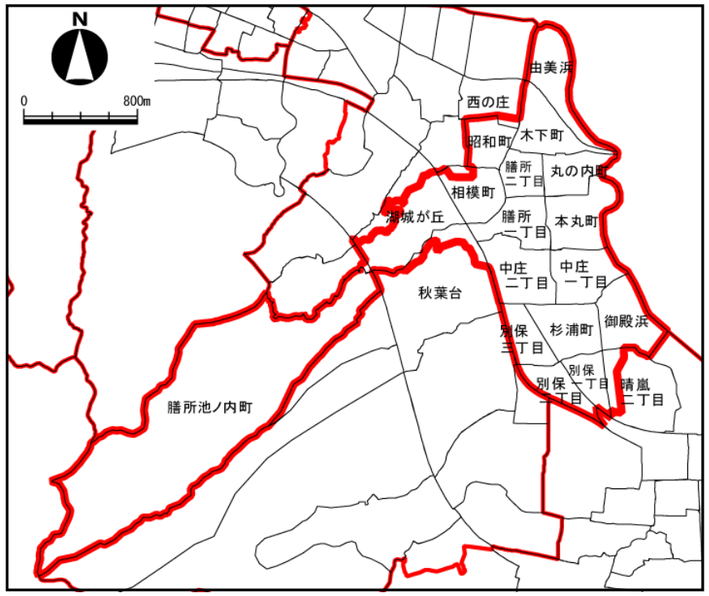
出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）
志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）

（ＰＬ≧10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
ＰＬ≧20 激しい液状化）

◆ 膳所学区

■ 学区の概況





＜町丁名＞

西の庄の一部、木下町、昭和町、相模町の一部、膳所一丁目、膳所二丁目、丸の内町、本丸町、中庄一丁目、中庄二丁目、御殿浜、杉浦町、別保一丁目、別保二丁目、別保三丁目、湖城が丘の一部、秋葉台の一部、膳所池ノ内町、晴嵐二丁目の一部、由美浜

（注）学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

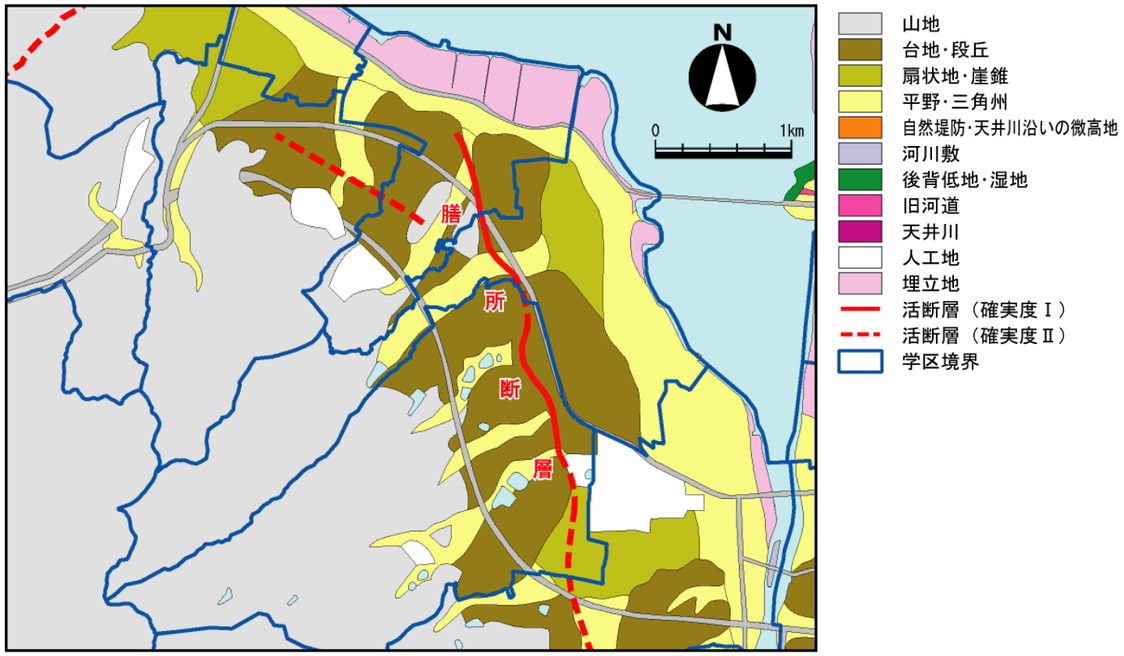
＜学区の特徴＞

東海道の五十三番目の宿であり、京の都への玄関口として栄えてきた。古くから湖上交通が盛んであり、平安京の外港として重要な機能を果たしていた。江戸時代には湖岸に膳所城が築城された。現在も当時の繁栄ぶりを伝える文化財や、町並み、町屋が多く残っている。

琵琶湖岸沿いには、水に親しめる公園としてなぎさ公園が整備され、一年を通じて様々な催しが行われるなど憩いの場となっている。

国道 1 号と名神高速道路に挟まれた区域やそれよりも山側では、昭和 30 年代から宅地開発が進んでおり、湖城が丘などの住宅地域が形成されている。

■ 地形・地質の概要



（注）図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜地形の特徴＞

- 膳所学区の地形は、JR 琵琶湖線付近を境として琵琶湖側には低地が広がり、山手側には丘陵地が広がる。南西から名神高速道路付近までは、主に山地が分布している。
- 古くからの市街地は丘陵・段丘や平野に広がり、中・高位の段丘上に湖城が丘などの新しい町が開発されている。
- 由美浜や膳所城跡公園は埋立地である。

＜地質の特徴＞

- 山地部は、主に丹波帯とよばれる中古生代の地層からなる。丹波帯は海洋性起源の岩石と陸源性の砕屑岩からなる地層で、近畿地方の北部に広く分布している。
- 丘陵地は古琵琶湖層群草津累層からなる。草津累層は約 200 万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。

＜活断層の特徴＞

- 学区北東部には、膳所断層の北部が通過している。膳所断層は、馬場から国分付近まで延びる、長さ約 4.5km の活断層で、断層を挟んで相対的に西側が隆起する、縦ずれ断層である。

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度（戸/ha）(注1)	不燃領域率（%）(注2)	木造率（%）	旧耐震木造建物/木造建物（%）
西の庄	74.3	61.5	78.3	57.7
木下町	75.2	66.4	75.7	53.3
昭和町	75.4	79.3	68.8	48.7
相模町	82.2	91.2	47.9	68.6
膳所一丁目	71.0	46.8	85.7	52.5
膳所二丁目	89.7	69.5	85.3	63.9
丸の内町	71.9	64.0	78.3	50.7
本丸町	45.9	89.2	50.4	64.2
中庄一丁目	63.1	65.2	76.3	59.8
中庄二丁目	66.2	68.5	80.0	47.9
御殿浜	65.1	82.1	72.4	57.7
杉浦町	72.6	50.5	86.9	51.4
別保一丁目	73.0	54.5	83.1	53.1
別保二丁目	62.4	67.3	81.5	49.6
別保三丁目	72.6	66.1	79.2	34.8
湖城が丘	74.7	59.1	79.0	37.9
秋葉台	70.9	73.7	79.7	26.8
膳所池ノ内町	－	－	69.6	46.2
由美浜	－	－	－	－
晴嵐二丁目	－	－	33.0	36.9
学区平均	71.8	80.6	76.9	47.2
出典	1,2	1,2	2	2

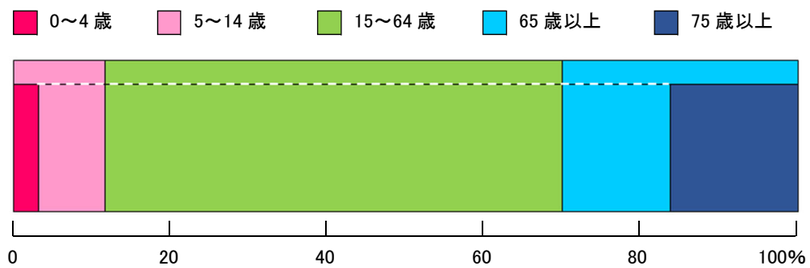
（注）表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
（注1）市街化区域を対象とした。
（注2）算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上，市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。
出典　1：大津湖南都市計画基礎調査（H30.2）土地利用現況
　　2：資産税データ（R4.4）

- 住宅密集度の学区平均は71.8戸/haで市平均（全学区の平均）の59.3戸/haを大きく上回り、市内で５番目に高い。
- 不燃領域率の学区平均は80.6%で市平均の93.9%より低い。
- 木造率は、杉浦町が86.9%で最も高く、晴嵐二丁目が33.0%で最も低い。学区平均は76.9%で市平均72.7%より高い。
- 旧耐震木造建物割合は、相模町が68.6%で最も高く、秋葉台が26.8%で最も低い。学区平均は47.2%で市平均40.3%より高い。

■ 人口の状況

項　　目	人口等	単位	備　　考	割合（%）	出典
学区人口	15,437	人		－	1
年齢別（0～4歳）	489	人	学区人口に対する割合	3.2	1
年齢別（5～14歳）	1,309	人	学区人口に対する割合	8.5	1
年齢別（15～64歳）	9,014	人	学区人口に対する割合	58.3	1
年齢別（65歳以上）	4,661	人	学区人口に対する割合	30.1	1
年齢別（75歳以上）	2,529	人	学区人口に対する割合	16.3	1
世帯数	7,574	世帯		－	2
１世帯当たり人口	2.0	人/世帯		－	2
要介護認定者	1,060	人	学区人口に対する割合	6.9	3
身体障害者（要配慮者）	255	人	学区人口に対する割合	1.7	4
知的障害者（要配慮者）	31	人	学区人口に対する割合	0.2	4
外国人居住者	308	人	学区人口に対する割合	2.0	5

（注）１世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
出典　1：年齢別・学区別人口統計表（R4.3.31現在）、2：学区別人口・世帯数の年別推移（R4.3.31現在）
　　3：学区別要介護認定者（R4.4.30現在）、4：大津市データ（R4.3.31現在）
　　5：住民基本台帳情報からの統計（R4.3.31）



＜年齢別人口比率＞

- 学区東部の平野・扇状地・段丘部は人口集中地区（ＤＩＤ地区）である。
- 高齢者（65歳以上）は4661人、乳幼児（0～4歳）は489人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ30.1%、3.2%である。
- 高齢者の学区人口は、市内で２番目に多い。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均（27.2%）より高く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均（3.9%）より低い。
- 要介護認定者は1060人（6.9%）、身体障害者（要配慮者）は255人（1.7%）、知的障害者（要配慮者）は31人（0.2%）である。
- 外国人居住者は308人（2.0%）である。

■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 (注1)	6 箇所	1
土石流危険渓流 (注1)	3 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 (注1)(注2)	7 箇所	2
土砂災害警戒区域 (注1)(注2)	18 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） (注1)	0 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） (注1)	0 箇所	3
雪崩危険箇所 (注1)	0 箇所	4
地すべり防止区域 (注1)	0 箇所	5
地すべり危険箇所 (注1)	0 箇所	1
浸水想定区域 (注3)（0.0m～0.5m）	150,531 ㎡	6
（0.5m～1.0m）	48,060 ㎡	6
（1.0m～2.0m）	39,536 ㎡	6
（2.0m～）	20,503 ㎡	6
特に重要な水防区域 (注1)	0 箇所	7
重要水防区域 (注1)	0 箇所	7
防災重点農業用ため池 (注1)	3 箇所	8

（注 1）危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。
（注 2）複数の区域をまとめて１つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。
（注 3）浸水想定区域は、琵琶湖の水位が B.S.L.＋2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。

出典　1：滋賀県砂防課（R3.7.16）　2：滋賀県砂防課（R3.2）
3：滋賀県森林保全課（R3.11）　4：滋賀県砂防課（H24.12）　5：農林振興課、砂防課（H24.12）
6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）
7：琵琶湖河川事務所（R2.6）　8：大津市産業観光部（R3.12）

＜防災上の特性＞

- 膳所学区は、JR 琵琶湖線付近を境として琵琶湖側には低地が広がり、山手側には丘陵地が広がる。斜面と住宅との距離が近いのが特徴で、学区内では名神高速道路の周辺に土石流危険渓流や急傾斜地崩壊危険箇所に指定されている斜面が存在している。
- 学区内に土砂災害警戒区域に指定されている箇所がある。
- 土石流危険渓流や急傾斜地崩壊危険箇所に指定されている地域には住宅地も含まれており、豪雨時の斜面災害や土砂災害に留意する必要がある。また、地震時には、これらの斜面で崩壊が発生して２次的災害が発生する可能性もある。
- 湖岸沿いの市街地部には、琵琶湖湖面の上昇による浸水想定区域が広がっており、琵琶湖からの浸水に注意が必要である。
- 学区内には、膳所断層が通過している。この断層が直接活動した場合には、断層の周辺部に大きな地表変位が生じる可能性があるが、直接活動しない場合においても、地震動（地震の揺れ）によって、断層通過部付近では、揺れが増幅して周辺より被害が大きくなる可能性がある（このような現象は兵庫県南部地震時にも見られている）。
- 地震時には、特に湖岸沿いの埋立地部で、液状化が発生する可能性がある。

■ 防災関連施設情報

＜指定緊急避難場所・指定避難所＞

種　類	名　称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	膳所小学校グラウンド	○	○	○		中庄二丁目 8-37
	膳所幼稚園グラウンド	○	○	○		中庄二丁目 6-5
	滋賀県立膳所高校グラウンド	○	○	○		膳所二丁目 11-1
	滋賀県立膳所高校第２グラウンド	○	○	○		相模町 4
	膳所城跡公園	○	○	○		本丸町 7
	膳所保育園グラウンド	○	○	○		昭和町 17-32
	滋賀大学教育学部附属学校グラウンド	○	○	○		昭和町 10-3
	湖城が丘街区公園	○	○	○		湖城が丘 33
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	膳所市民センター	○	○	○		本丸町 6-40
	膳所小学校体育館	○	○	○		中庄二丁目 8-37
	膳所幼稚園	○	○	○		中庄二丁目 6-5
	滋賀県立膳所高校体育館	○	○	○		膳所二丁目 11-1
	生涯学習センター	○	○	○		本丸町 6-50
	膳所児童館	○	○			昭和町 15-15
	膳所ふれあいセンター	○	○	○		昭和町 15-25
指定避難所	（福）膳所保育園	―				昭和町 17-32

（注）指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。
指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。
※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

＜市関連機関＞

名　称	所在地	電話番号
大津市役所	**御陵町 3-1**	**523-1234，528-2616**
膳所市民センター	本丸町 6-40	524-2205

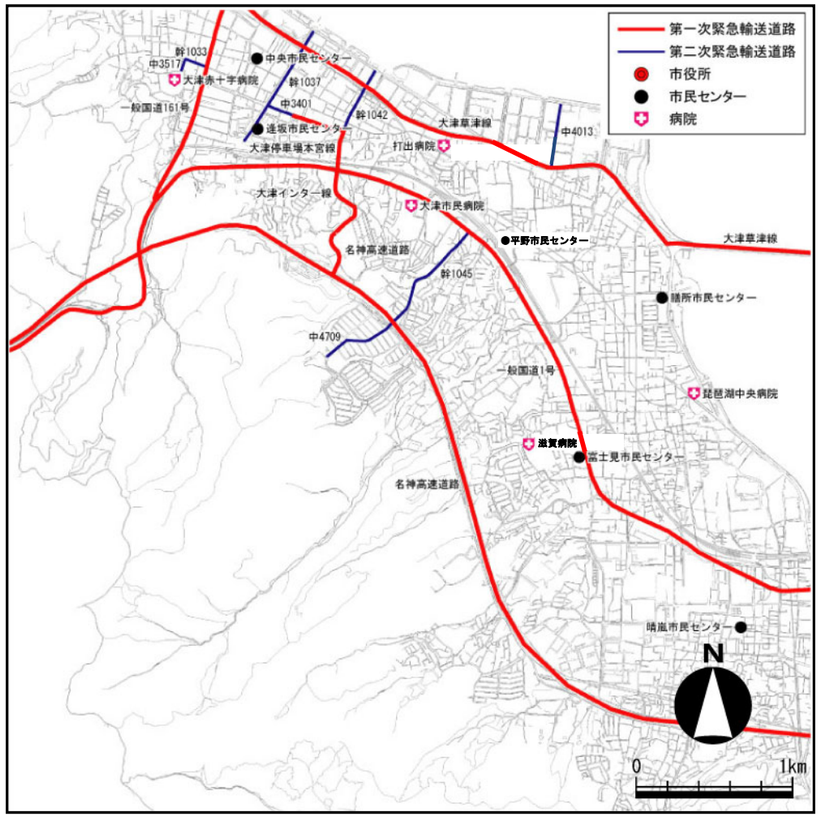
＜警察　110＞

名　称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	**打出浜 1-10**	**522-1231**
大津警察署	**打出浜 12-7**	**522-1234**

＜消防　119＞

名　称	所在地	電話番号
大津市消防局	**御陵町 3-1**	**522-0119**
南消防署	**光が丘町 5-7**	**533-0119**
膳所分団	本丸町 6-40	526-0130

＜緊急輸送道路＞



（注）緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

＜医療施設＞

種　別		名　称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35	522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9	522-4607
	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298	594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29	573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1	537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町	548-2111
病院		琵琶湖中央病院	御殿浜 22-33	526-2131

■ 地震災害危険度予測

＜地震被害想定結果＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース１	5,733	17,401	399	1,460	1,129	6	5	4	353	279	265	22	17	17
ケース２	5,733	17,401	938	1,585	1,730	17	11	12	398	318	305	20	16	15
ケース３	5,733	17,401	1,421	1,463	2,153	30	26	22	218	186	173	12	10	9

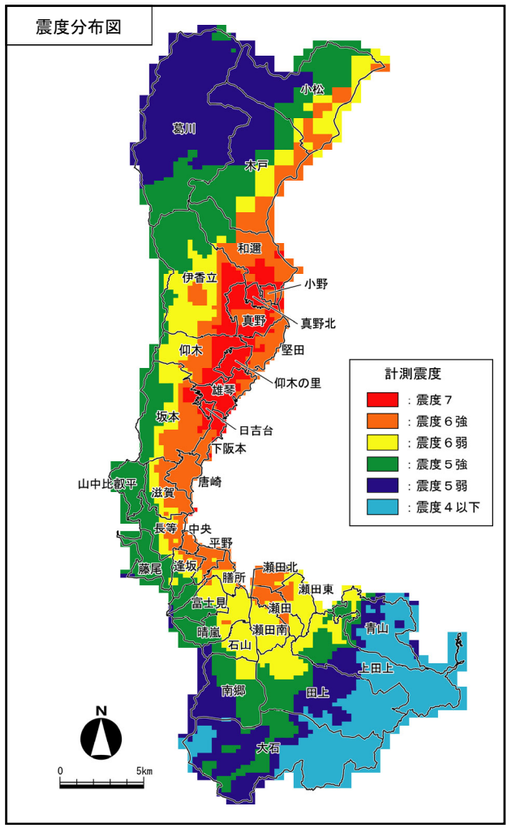
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース１	0	1	1	1,624
ケース２	1	2	3	2,193
ケース３	1	3	3	2,474

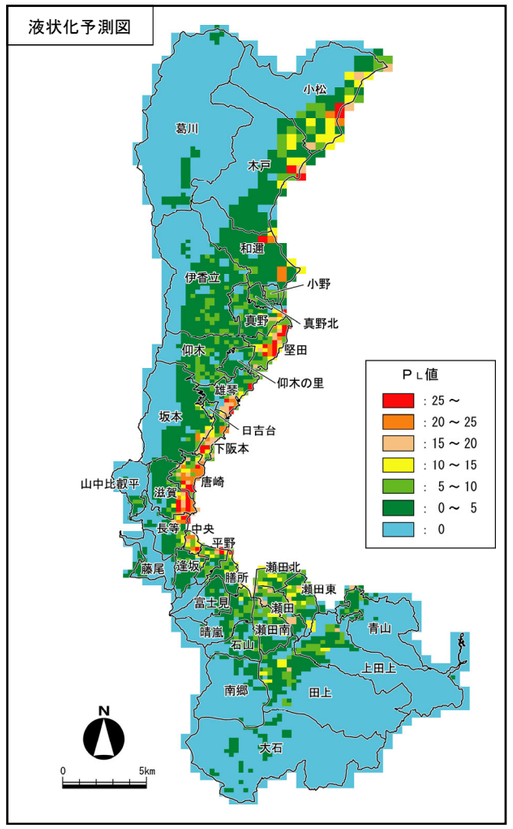
（注）表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜震度分布及び液状化予測図＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震（ケース２）





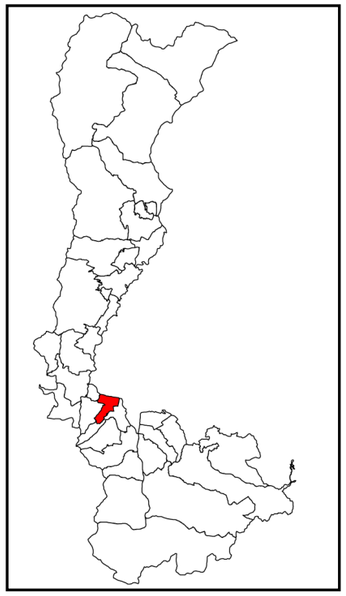
出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

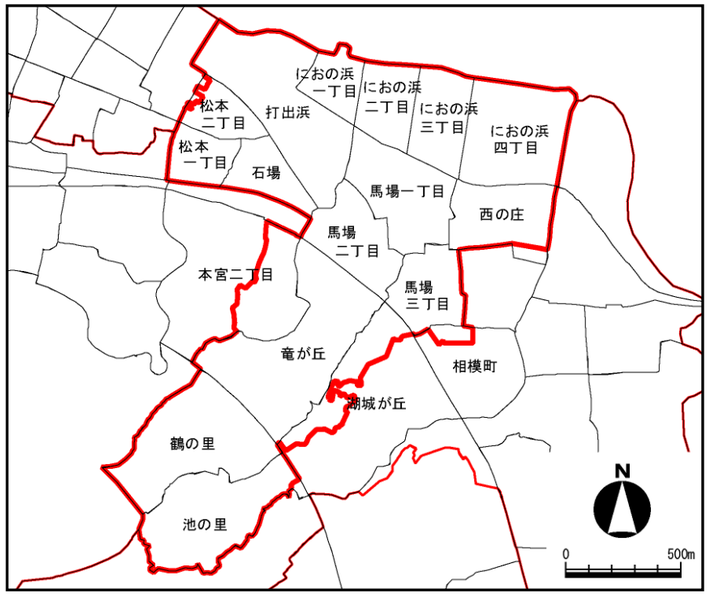
（Ｐｌ≧10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
Ｐｌ≧20 激しい液状化）

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）

◆ 平野学区

■ 学区の概況





＜町丁名＞

本宮二丁目の一部、西の庄の一部、馬場一丁目、馬場二丁目、馬場三丁目、鶴の里、石場、松本一丁目、松本二丁目の一部、打出浜、竜が丘、におの浜一丁目、におの浜二丁目、におの浜三丁目、におの浜四丁目、相模町の一部、湖城が丘の一部、池の里

（注）学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

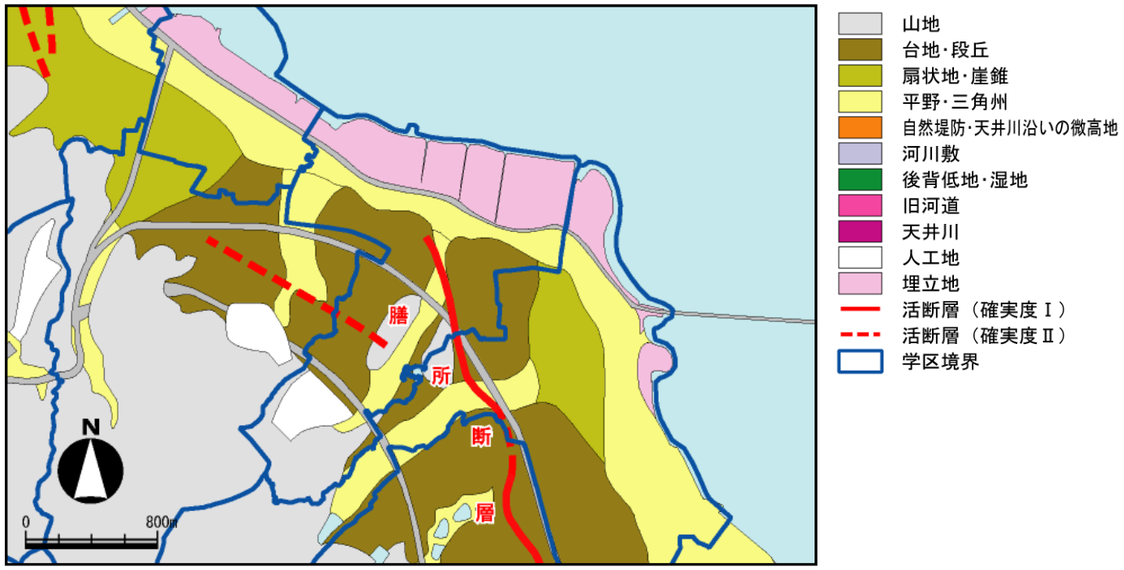
＜学区の特徴＞

平野学区周辺は東海道の五十三番目の宿であり、京の都への玄関口として栄えてきた。古くから湖上交通が盛んであり、平安京の外港として重要な機能を果たしていた。現在でも当時の繁栄ぶりを伝える文化財や町並み、町屋が多く残っている。

琵琶湖岸沿いには、水に親しめる公園としてなぎさ公園が整備され、一年を通じて様々な催しが行われるなど憩いの場となっている。なぎさ公園内の打出の森には県立劇場びわ湖ホールがある。このほか、滋賀県警本部、大津警察署、県立体育館、勤労福祉センター、老人福祉センターなどの公共施設や、大型のショッピングセンターも多く存在し、最もにぎわいのある地区のひとつである。

国道１号と名神高速道路に挟まれた区域やそれよりも山側では、昭和 30 年代から宅地開発が進んでおり、竜が丘、湖城が丘、鶴の里、池の里などの住宅地域が形成されている。

■ 地形・地質の概要



（注）図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜地形の特徴＞

- 平野地域の地形は、JR 琵琶湖線付近を境として琵琶湖側には低地が広がり、山手側には丘陵地が広がる。南西部から名神高速道路付近までは、主に山地が分布している。
- 鶴の里付近は、人工地に区分されている。
- 大津草津線よりも湖岸側のにおの浜地区は埋立地であり、近年整備が進められている。

＜地質の特徴＞

- 山地部は、主に丹波帯とよばれる中古生代の地層からなる。丹波帯は海洋性起源の岩石と陸源性の砕屑岩からなる地層で、近畿地方の北部に広く分布している。
- 丘陵地は古琵琶湖層群草津累層からなる。草津累層は約 200 万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。

＜活断層の特徴＞

- 学区の北東部には、膳所断層の北部が通過している。膳所断層の主要部分は、馬場から国分付近まで延びる、長さ約 4.5km の活断層で、断層を挟んで相対的に西側が隆起する、縦ずれ断層である。

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度（戸/ha）(注1)	不燃領域率（%）(注2)	木造率（%）	旧耐震木造建物/木造建物（%）
本宮二丁目	74.6	79.3	64.9	48.0
西の庄	74.3	61.5	78.3	57.7
馬場一丁目	84.5	90.3	54.2	60.4
馬場二丁目	96.9	88.5	54.4	52.6
馬場三丁目	75.5	68.8	74.6	58.0
鶴の里	54.5	76.9	60.5	38.5
石場	95.8	57.4	73.9	46.5
松本一丁目	68.0	70.2	79.9	60.0
松本二丁目	101.1	60.1	79.5	66.7
打出浜	54.0	95.1	47.0	60.3
竜が丘	77.3	72.7	66.9	41.9
におの浜一丁目	－	－	0.0	0.0
におの浜二丁目	－	－	5.6	－
におの浜三丁目	42.2	96.4	9.7	28.6
におの浜四丁目	53.4	97.2	18.1	6.7
相模町	82.2	91.2	47.9	68.6
湖城が丘	74.7	59.1	79.0	37.9
池の里	65.4	71.8	59.9	0.0
学区平均	70.9	78.9	66.9	44.4
出典	1,2	1,2	2	2

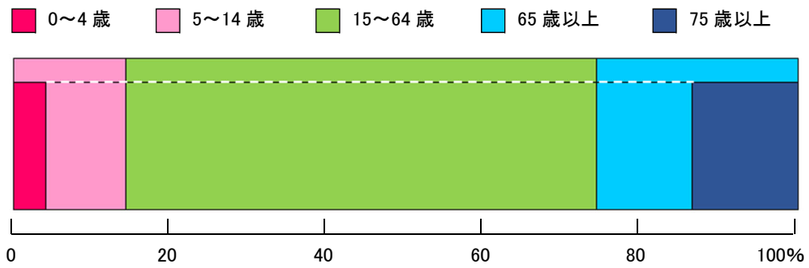
（注）表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
（注1）市街化区域を対象とした。
（注2）算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上，市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。
出典　1：大津湖南都市計画基礎調査（H30.2）土地利用現況
　　2：資産税データ（R4.4）

- 住宅密集度の学区平均は 70.9 戸/ha で市平均（全学区の平均）の 59.3 戸/ha より高い。
- 不燃領域率の学区平均は 78.9%で市平均の 93.9%より低い。
- 木造率は、松本一丁目が 79.9%で最も高く、におの浜一丁目が 0.0%で最も低い。学区平均は 66.9%で市平均 72.7%より低い。
- 旧耐震木造建物割合は、相模町が 68.6%で最も高く、におの浜一丁目、池の里が 0.0%で最も低い。学区平均は 44.4%で市平均 40.3%より高い。

■ 人口の状況

項　　目	人口等	単位	備　　考	割合（%）	出典
学区人口	18,810	人		－	1
年齢別（0～4 歳）	768	人	学区人口に対する割合	4.1	1
年齢別（5～14 歳）	1,905	人	学区人口に対する割合	10.1	1
年齢別（15～64 歳）	11,286	人	学区人口に対する割合	60.0	1
年齢別（65 歳以上）	4,851	人	学区人口に対する割合	25.8	1
年齢別（75 歳以上）	2,547	人	学区人口に対する割合	13.5	1
世帯数	8,099	世帯		－	2
１世帯当たり人口	2.3	人/世帯		－	2
要介護認定者	827	人	学区人口に対する割合	4.4	3
身体障害者（要配慮者）	230	人	学区人口に対する割合	1.2	4
知的障害者（要配慮者）	32	人	学区人口に対する割合	0.2	4
外国人居住者	215	人	学区人口に対する割合	1.1	5

（注）１世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
出典　1：年齢別・学区別人口統計表（R4.3.31 現在）、2：学区別人口・世帯数の年別推移（R4.3.31 現在）
　　3：学区別要介護認定者（R4.4.30 現在）、4：大津市データ（R4.3.31 現在）
　　5：住民基本台帳情報からの統計（R4.3.31）



＜年齢別人口比率＞

- 山地部を除く範囲は人口集中地区（ＤＩＤ地区）である。
- 学区人口は、市内で２番目に多い。
- 高齢者（65 歳以上）は 4851 人、乳幼児（0～4 歳）は 768 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 25.8%、4.1%である。
- 高齢者の学区人口は、市内で最も多い。
- 乳幼児の学区人口は、市内で３番目に多い。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均（27.2%）より低く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均（3.9%）より高い。
- 要介護認定者は 827 人（4.4%）、身体障害者（要配慮者）は 230 人（1.2%）、知的障害者（要配慮者）は 32 人（0.2%）である。
- 外国人居住者は 215 人（1.1%）である。

■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 (注1)	3 箇所	1
土石流危険渓流 (注1)	2 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 (注1)(注2)	14 箇所	2
土砂災害警戒区域 (注1)(注2)	24 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） (注1)	0 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） (注1)	0 箇所	3
雪崩危険箇所 (注1)	0 箇所	4
地すべり防止区域 (注1)	0 箇所	5
地すべり危険箇所 (注1)	0 箇所	1
浸水想定区域 (注3)（0.0m～0.5m）	150,386 ㎡	6
（0.5m～1.0m）	265,417 ㎡	6
（1.0m～2.0m）	216,275 ㎡	6
（2.0m～）	9,742 ㎡	6
特に重要な水防区域 (注1)	0 箇所	7
重要水防区域 (注1)	0 箇所	7
防災重点農業用ため池 (注1)	0 箇所	8

（注 1）危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。
（注 2）複数の区域をまとめて１つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。
（注 3）浸水想定区域は、琵琶湖の水位が B.S.L.＋2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。
出典　1：滋賀県砂防課（R3.7.16）　2：滋賀県砂防課（R3.2）
3：滋賀県森林保全課（R3.11）　4：滋賀県砂防課（H24.12）　5：農林振興課、砂防課（H24.12）
6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）
7：琵琶湖河川事務所（R2.6）　8：大津市産業観光部（R3.12）

＜防災上の特性＞

- 平野学区のほとんどは湖岸沿いの埋立地および平野・台地・段丘という地形地質環境であるため、市内の中でも自然災害危険地に指定されているエリアが少ない学区であるが、学区南西部の人工地を挟む形で土石流危険渓流の影響範囲に指定されている。また、急傾斜地崩壊危険箇所も点在する。
- 豪雨などの場合には、土石流危険渓流、山地災害危険箇所および急傾斜地崩壊危険場所部分に警戒が必要であり、内水氾濫にも注意が必要である。
- 湖岸沿いの市街地部には、琵琶湖湖面の上昇による浸水想定区域が広がっており、琵琶湖からの浸水に注意が必要である。
- 学区中央部には膳所断層が通過している。地震発生について、膳所断層が直接活動した場合は断層の周辺部に大きな地表変位が生じる可能性があるが、直接活動しない場合においても、地震動（地震の揺れ）によって、断層通過部付近では、揺れが増幅して周辺より被害が大きくなる可能性がある（このような現象は兵庫県南部地震時にも見られている）。
- 地震時には、土石流危険渓流の影響範囲や急傾斜地崩壊危険箇所において、２次的に災害が発生する可能性があることにも留意する必要がある。
- 湖岸沿いの埋立地部では、液状化が発生する可能性がある。

■ 防災関連施設情報

＜指定緊急避難場所・指定避難所＞

種　類	名　称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	平野小学校グラウンド	○	○	○		馬場一丁目 2-1
	平野幼稚園グラウンド	○	○	○		馬場一丁目 5-28
	滋賀県立大津高校グラウンド	○	○	○		馬場一丁目 1-1
	滋賀短期大学グラウンド	○	○	○		竜が丘 24-4
	大津湖岸なぎさ公園打出の森	○		○		打出浜 15
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	平野市民センター	○	○	○		馬場三丁目 15-45
	平野小学校体育館	○	○	○		馬場一丁目 2-1
	平野幼稚園	○	○			馬場一丁目 5-28
	滋賀県立大津高校体育館	○	○	○		馬場一丁目 1-1
	滋賀短期大学	○	○	○		竜が丘 24-4
	旧市立大津市民病院 付属看護専門学校	○	○	○		石場 10-53
	勤労福祉センター	○		○		打出浜 1-6
	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール	○		○		打出浜 15-1
	滋賀県立県民交流センター（ピアザ淡海）	○		○		におの浜一丁目 1-20
	県立武道館	○		○		におの浜四丁目 2-15
	県立体育館	○		○		におの浜四丁目 2-12
指定避難所	（福）中老人福祉センター	―				打出浜 1-5
	（福）障害者福祉センター	―				におの浜四丁目 2-33
	（福）やまびこ総合支援センター	―				馬場二丁目 13-50
	（福）におの浜ふれあいスポーツセンター	―				におの浜四丁目 2-40

（注）指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。
指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。
※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

＜市関連機関＞

名　称	所在地	電話番号
大津市役所	**御陵町 3-1**	**523-1234，528-2616**
平野市民センター	馬場三丁目 15-45	522-6276

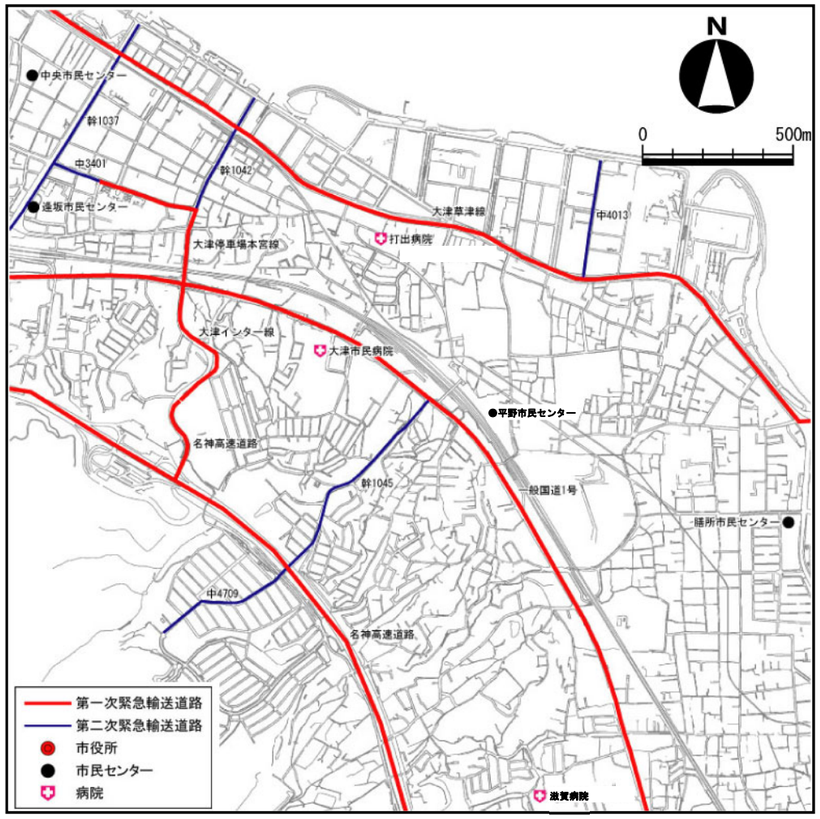
＜警察　110＞

名　称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	**打出浜 1-10**	**522-1231**
大津警察署	**打出浜 12-7**	**522-1234**
膳所駅前交番	馬場二丁目 11-9	521-1020

＜消防　119＞

名　称	所在地	電話番号
大津市消防局	**御陵町 3-1**	**522-0119**
中消防署	**御陵町 3-1**	**525-0119**
平野分団	打出浜 12-41	525-7614

＜緊急輸送道路＞



（注）緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

＜医療施設＞

種　別		名　称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35	522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9	522-4607
	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298	594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29	573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1	537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町	548-2111
病院		打出病院	打出浜 10-41	521-0005

■ 地震災害危険度予測

＜地震被害想定結果＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース１	3,957	14,777	465	1,150	1,040	7	9	7	363	438	341	19	24	19
ケース２	3,957	14,777	1,526	995	2,023	47	56	43	194	259	194	10	13	10
ケース３	3,957	14,777	1,408	1,012	1,914	50	67	50	176	231	170	9	12	9

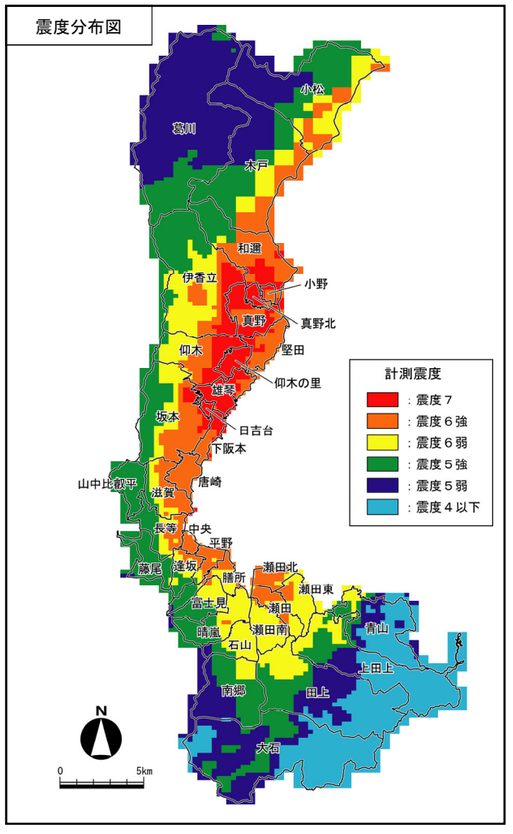
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース１	1	1	2	1,632
ケース２	1	3	4	2,580
ケース３	2	3	5	2,606

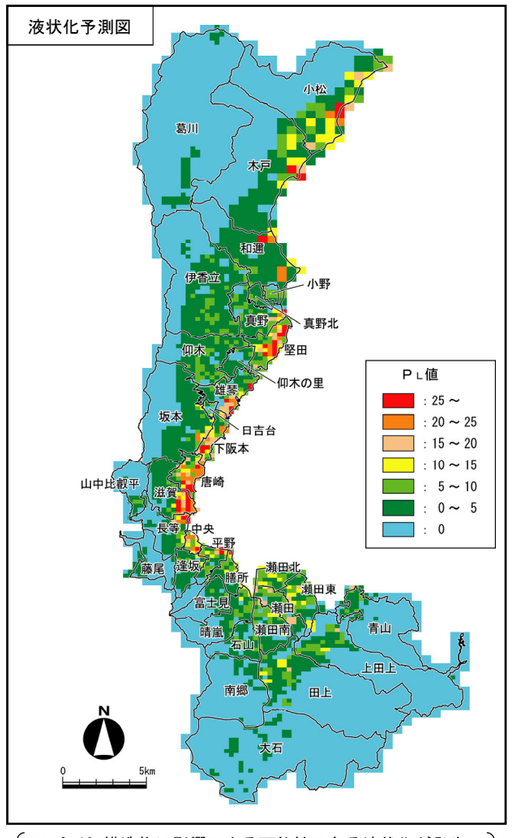
（注）表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜震度分布及び液状化予測図＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震（ケース２）





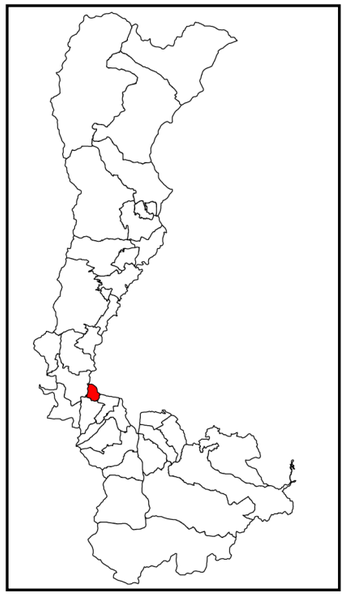
出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

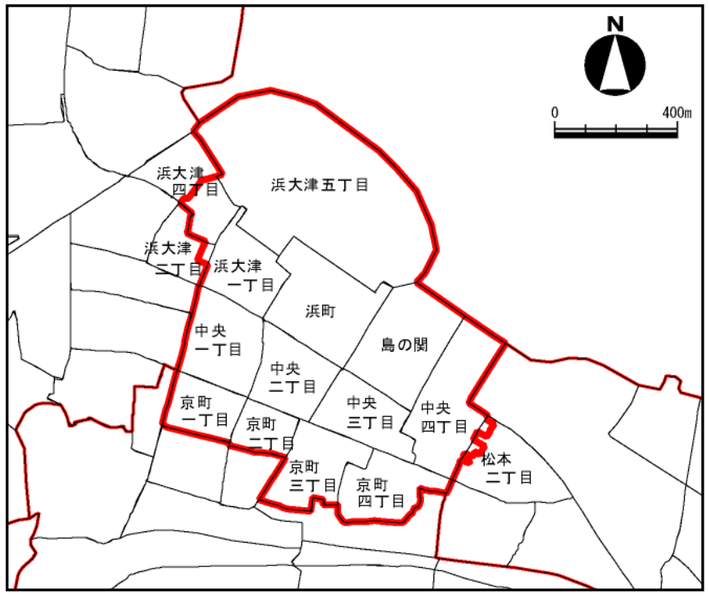
（ＰＬ≧10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
ＰＬ≧20 激しい液状化）

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）

◆ 中央学区

■ 学区の概況





＜町丁名＞

浜大津二丁目の一部、浜大津四丁目の一部、浜大津五丁目、中央一丁目、中央二丁目、中央三丁目、中央四丁目、京町一丁目、京町二丁目、京町三丁目、京町四丁目、島の関、浜町、浜大津一丁目、松本二丁目の一部

（注）学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

＜学区の特徴＞

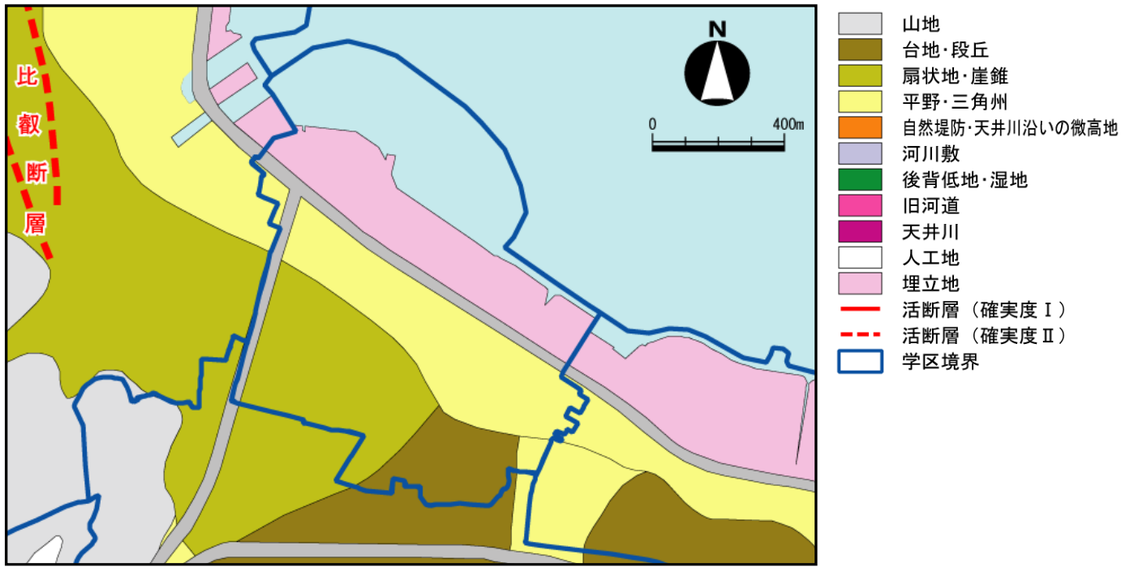
東海道の五十三番目の宿であり、京の都への玄関口として栄えてきた。古くから湖上交通が盛んであり、平安京の外港として重要な機能を果たしていた。船荷が集結する大津港を中心に他地域との交易も盛況で、経済面で先進的な発展を築いてきた。また、軍事面の要衝でもあり、16 世紀末に大津城が築城された。

現在では、滋賀県庁など、県の行政の主要施設が存在する。

当時の繁栄ぶりを伝える文化財や、町並み、町屋が多く残っており、町衆の心意気は今に引き継がれて、湖国三大祭の一つである大津祭は地域を挙げての伝統ある祭となっている。

琵琶湖岸は浜大津港が琵琶湖観光の拠点として整備され多くの観光客が訪れている。また、水に親しめる公園としてなぎさ公園が整備され、一年を通じて様々な催しが行われるなど憩いの場となっている。

■ 地形・地質の概要



（注）図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜地形の特徴＞

- 中央地域の地形は全域が低地からなる。南西部より京町付近までは扇状地または台地、大津草津線までは平野、大津草津線より湖岸側は埋立地に区分される。

＜地質の特徴＞

- この地域を含め、坂本地域より石山地域まで扇状地が連続的に分布し複合扇状地になっている。これは 40 万年前頃から地殻変動の活発化に伴って、比良、比叡の両山地が上昇し、多量の砂礫が供給されたことや、流域面積の小さい河川が多数分布することなどに起因する。
- 平野・三角州の部分は砂礫が堆積した地質であり、地震によるゆれが大きくなると考えられる。

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度（戸/ha）(注1)	不燃領域率（%）(注2)	木造率（%）	旧耐震木造建物/木造建物（%）
浜大津一丁目	－	－	15.1	72.7
浜大津二丁目	109.7	80.4	56.9	70.3
浜大津四丁目	31.1	94.1	52.9	59.3
浜大津五丁目	－	－	12.5	0.0
中央一丁目	107.0	69.4	71.3	74.8
中央二丁目	106.0	64.2	71.2	75.3
中央三丁目	109.8	72.3	67.2	78.2
中央四丁目	94.0	82.6	70.8	73.0
京町一丁目	77.2	77.5	65.6	73.8
京町二丁目	106.2	80.3	65.1	74.6
京町三丁目	129.2	95.8	50.5	68.8
京町四丁目	120.1	95.4	56.2	70.7
島の関	88.8	88.2	64.0	50.0
浜町	118.3	94.1	69.4	79.8
松本二丁目	101.1	60.1	79.5	66.7
学区平均	99.5	83.6	66.8	71.5
出典	1,2	1,2	2	2

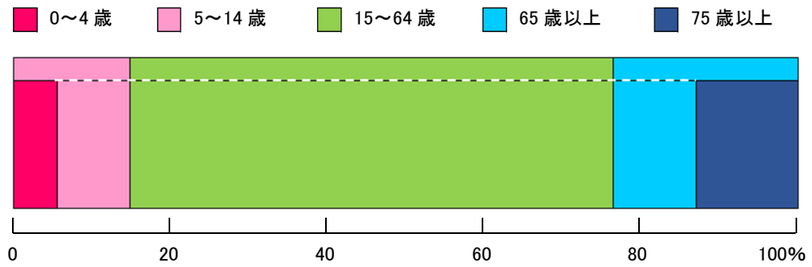
（注）表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
（注1）市街化区域を対象とした。
（注2）算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上，市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。
出典　1：大津湖南都市計画基礎調査（H30.2）土地利用現況
　　2：資産税データ（R4.4）

- 住宅密集度の学区平均は 99.5 戸/ha で市平均（全学区の平均）の 59.3 戸/ha を大きく上回り、市内で最も高い。
- 不燃領域率の学区平均は 83.6%で市平均の 93.9%より低い。
- 木造率は、松本二丁目が 79.5%で最も高く、浜大津五丁目が 12.5%で最も低い。学区平均は 66.8%で市平均 72.7%を下回り、市内で５番目に低い。
- 旧耐震木造建物割合は、浜町が 79.8%で最も高く、浜大津五丁目が 0.0%で最も低い。学区平均は 71.5%で市平均 40.3%を大きく上回り、市内で３番目に高い。

■ 人口の状況

項　　目	人口等	単位	備　　考	割合（%）	出典
学区人口	6,728	人		－	1
年齢別（0～4 歳）	372	人	学区人口に対する割合	5.5	1
年齢別（5～14 歳）	624	人	学区人口に対する割合	9.3	1
年齢別（15～64 歳）	4,140	人	学区人口に対する割合	61.5	1
年齢別（65 歳以上）	1,592	人	学区人口に対する割合	23.7	1
年齢別（75 歳以上）	874	人	学区人口に対する割合	13.0	1
世帯数	3,332	世帯		－	2
１世帯当たり人口	2.0	人/世帯		－	2
要介護認定者	330	人	学区人口に対する割合	4.9	3
身体障害者（要配慮者）	72	人	学区人口に対する割合	1.1	4
知的障害者（要配慮者）	8	人	学区人口に対する割合	0.1	4
外国人居住者	58	人	学区人口に対する割合	0.9	5

（注）１世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
出典　1：年齢別・学区別人口統計表（R4.3.31 現在）、2：学区別人口・世帯数の年別推移（R4.3.31 現在）
　　3：学区別要介護認定者（R4.4.30 現在）、4：大津市データ（R4.3.31 現在）
　　5：住民基本台帳情報からの統計（R4.3.31）



＜年齢別人口比率＞

- 学区全域が人口集中地区（ＤＩＤ地区）であるが、とくに京阪電鉄より南側の平野・扇状地部に人口が集中している。
- 高齢者（65 歳以上）は 1592 人、乳幼児（0～4 歳）は 372 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 23.7%、5.5%である。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均（27.2%）より低く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均（3.9%）より高い。
- 要介護認定者は 330 人（4.9%）、身体障害者（要配慮者）は 72 人（1.1%）、知的障害者（要配慮者）は 8 人（0.1%）である。
- 外国人居住者は 58 人（0.9%）である。

■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 (注1)	0 箇所	1
土石流危険渓流 (注1)	0 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 (注1)(注2)	0 箇所	2
土砂災害警戒区域 (注1)(注2)	0 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） (注1)	0 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） (注1)	0 箇所	3
雪崩危険箇所 (注1)	0 箇所	4
地すべり防止区域 (注1)	0 箇所	5
地すべり危険箇所 (注1)	0 箇所	1
浸水想定区域 (注3)（0.0m～0.5m）	43,189 ㎡	6
（0.5m～1.0m）	98,900 ㎡	6
（1.0m～2.0m）	80,663 ㎡	6
（2.0m～）	16,631 ㎡	6
特に重要な水防区域 (注1)	0 箇所	7
重要水防区域 (注1)	0 箇所	7
防災重点農業用ため池 (注1)	0 箇所	8

（注 1）危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。
（注 2）複数の区域をまとめて 1 つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。
（注 3）浸水想定区域は、琵琶湖の水位が B.S.L.＋2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。
出典　1：滋賀県砂防課（R3.7.16）　2：滋賀県砂防課（R3.2）
3：滋賀県森林保全課（R3.11）　4：滋賀県砂防課（H24.12）　5：農林振興課、砂防課（H24.12）
6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）
7：琵琶湖河川事務所（R2.6）　8：大津市産業観光部（R3.12）

＜防災上の特性＞

- 中央学区のほとんどが湖岸沿いの埋立地および平野・台地・段丘という地形地質環境であるため、市内の中でも自然災害危険地に指定されているエリアが少ない。
- 湖岸沿いの市街地部には、琵琶湖湖面の上昇による浸水想定区域が広がっており、琵琶湖からの浸水に注意が必要である。
- 地震時には、特に湖岸沿いの埋立地部で、液状化が発生する可能性がある。
- 広域避難場所に指定されている大津港や、避難所に指定されている大津湖岸なぎさ公園おまつり広場、市民会館などは埋立地に区分されている地域に相当するため、液状化対策も視野に入れる必要がある。

■ 防災関連施設情報

＜指定緊急避難場所・指定避難所＞

種　類	名　称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	中央小学校グラウンド	○	○	○		島の関 1-60
	大津幼稚園グラウンド	○	○	○		島の関 1-50
	大津湖岸なぎさ公園おまつり広場	○		○		島の関 13 地先
	大津港	○		○	○	浜大津五丁目 5
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	中央市民センター	○	○	○		中央二丁目 2-5
	中央小学校体育館	○	○	○		島の関 1-60
	大津幼稚園	○	○	○		島の関 1-50
	市民会館	○		○		島の関 14-1
指定避難所	（福）旧大津公会堂	―				浜大津一丁目 4-1

（注）指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。
指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。
※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

＜市関連機関＞

名　称	所在地	電話番号
大津市役所	**御陵町 3-1**	**523-1234，528-2616**
中央市民センター	中央二丁目 2-5	526-4835

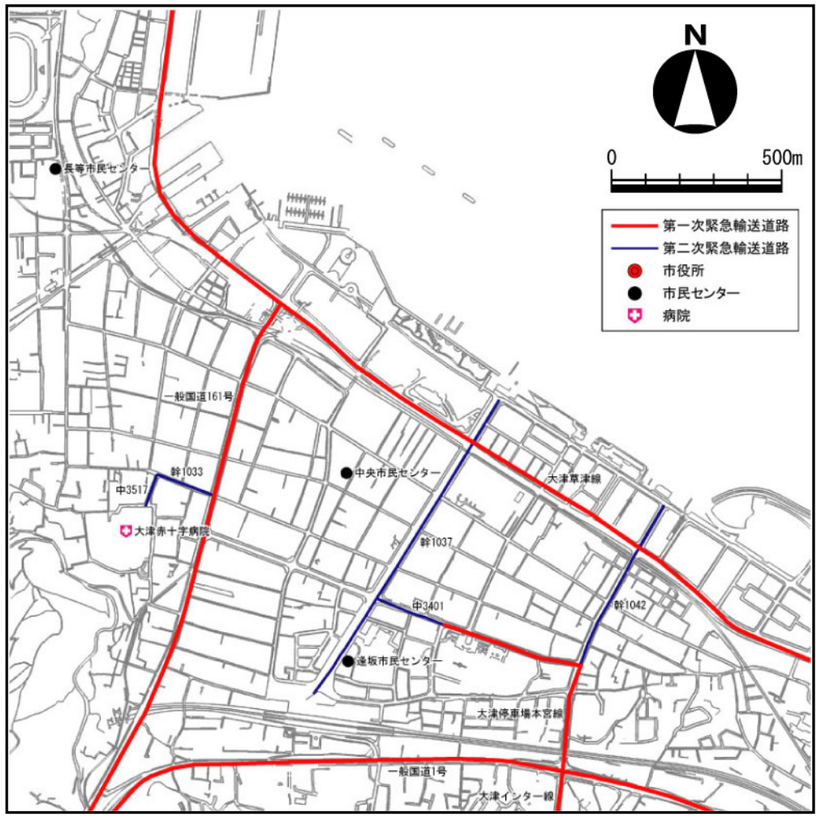
＜警察　110＞

名　称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	**打出浜 1-10**	**522-1231**
大津警察署	**打出浜 12-7**	**522-1234**
浜大津交番	浜大津四丁目 1-39	522-2900

＜消防　119＞

名　称	所在地	電話番号
大津市消防局	**御陵町 3-1**	**522-0119**
中消防署	**御陵町 3-1**	**525-0119**
水上出張所	浜大津五丁目 1	522-2203
中央分団	島の関 1-10	523-2723

＜緊急輸送道路＞



（注）緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

＜医療施設＞

種　別		名　称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35	522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9	522-4607
	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298	594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29	573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1	537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町	548-2111

■ 地震災害危険度予測

＜地震被害想定結果＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース１	1,912	4,749	413	478	652	6	14	10	74	169	106	4	8	5
ケース２	1,912	4,749	740	405	943	17	39	24	47	107	69	2	5	3
ケース３	1,912	4,749	514	455	742	10	21	15	59	135	85	3	7	4

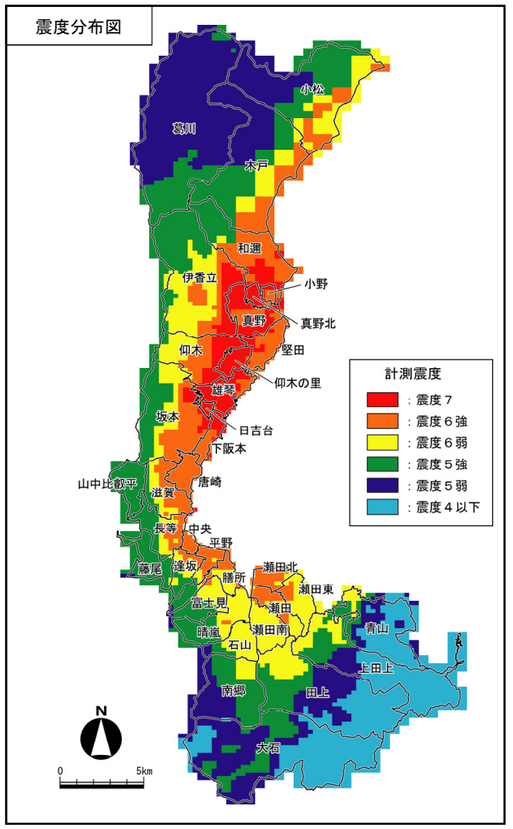
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース１	0	1	1	644
ケース２	1	1	2	814
ケース３	0	1	1	699

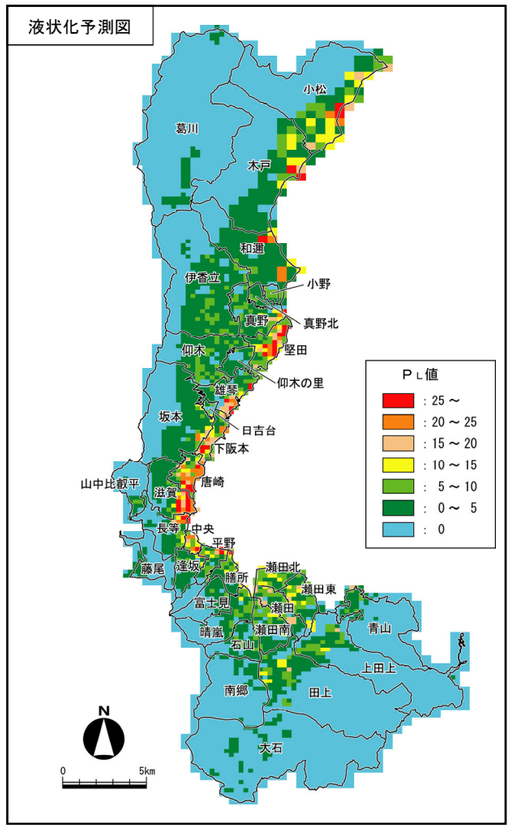
（注）表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜震度分布及び液状化予測図＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震（ケース２）





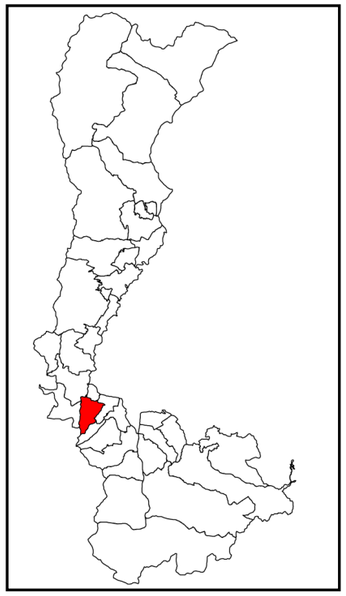
出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

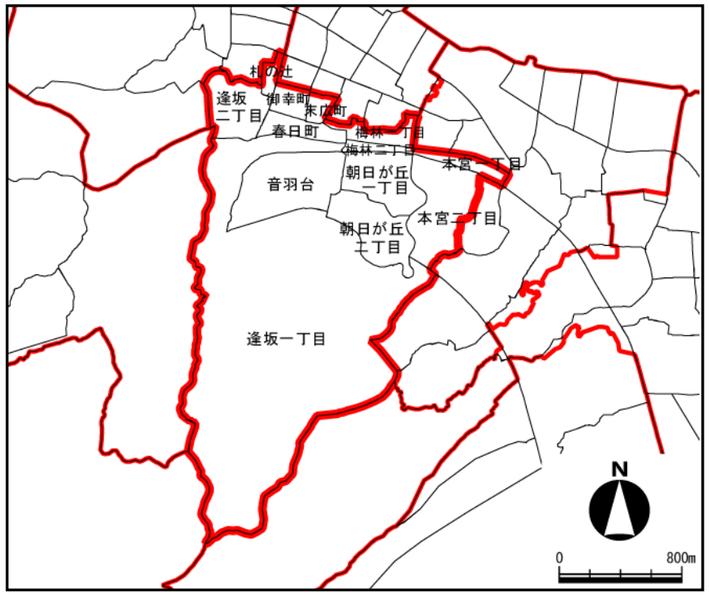
（ＰＬ≧10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
ＰＬ≧20 激しい液状化）

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）

◆ 逢坂学区

■ 学区の概況





＜町丁名＞

梅林一丁目、梅林二丁目、末広町、春日町、御幸町、逢坂一丁目、逢坂二丁目、札の辻、音羽台、朝日が丘一丁目、朝日が丘二丁目、本宮一丁目、本宮二丁目の一部

（注）学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

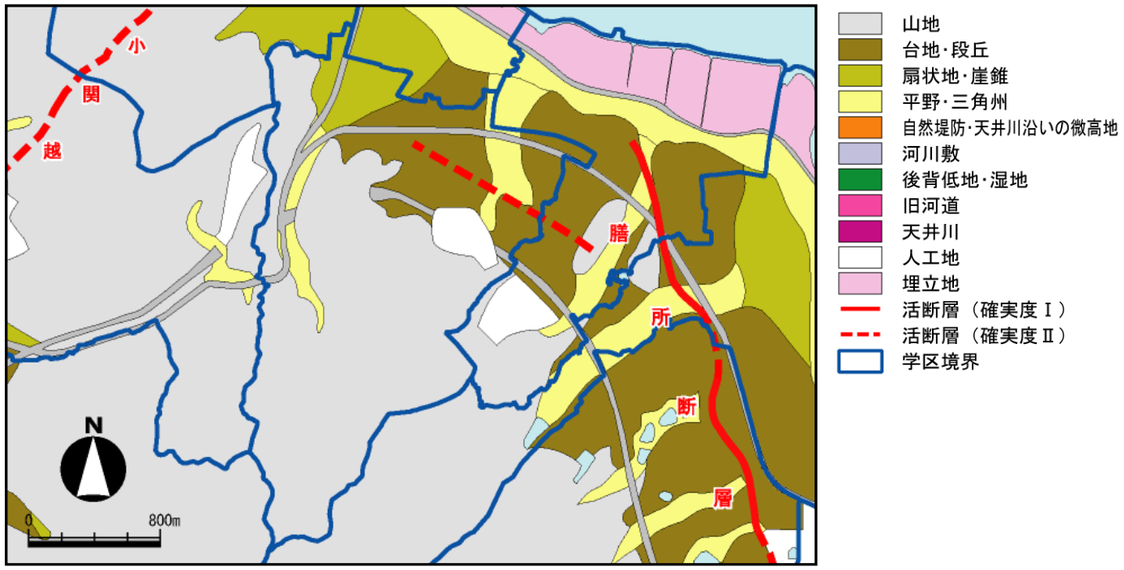
＜学区の特徴＞

逢坂山の北麓一帯に広がり、琵琶湖を見渡せる位置にある。８世紀になると、和歌の中にしきりに詠み込まれるようになり、安養寺や関寺、蝉丸神社、近松別院などへの参詣の人々で賑わった。

近年に入り東海道が整備されると街道筋として栄え、交通の要衝となった。逢坂山の常夜灯はそのシンボルである。今日もJR大津駅や国道１号、名神高速道路大津インターチェンジなど、名実ともに大津の玄関口となっている。

逢坂山、長等山、東海自然歩道などには豊かな自然が残っており、ハイキングを楽しむ人たちが多い。

■ 地形・地質の概要



（注）図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜地形の特徴＞

- 逢坂学区の地形の大部分は山地であり、南東端には音羽山がある。
- JR琵琶湖線の周辺は扇状地や丘陵に区分されている。扇状地の幅は本宮二丁目付近を境に西側と東側で異なる。これは、山地の前面に丘陵・台地が存在する場合、山地から供給された土砂は丘陵間で堆積してしまい、低地に扇状地を作る土砂の量が少なくなるためである。

＜地質の特徴＞

- 山地部は、主に丹波帯とよばれる中古生代の地層からなる。丹波帯は海洋性起源の岩石と陸源性の砕屑岩からなる地層で、近畿地方の北部に広く分布している。
- 丘陵地は古琵琶湖層群草津累層からなる。草津累層は約200万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。

＜活断層の特徴＞

- 学区の北東側には、膳所断層の一部が通過している。膳所断層の主要部分は、馬場から国分付近までのびる、長さ約4.5kmの活断層で、断層を挟んで相対的に西側が隆起する、縦ずれ断層である。
- 膳所断層のうち学区を通過する部分は、朝日が丘から竜が丘付近まで分布する確実度Ⅱの活断層で、断層を挟んで相対的に北東側が隆起する、縦ずれ断層である。

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度（戸/ha）(注1)	不燃領域率（%）(注2)	木造率（%）	旧耐震木造建物/木造建物（%）
梅林一丁目	82.2	75.8	67.1	66.9
梅林二丁目	89.2	84.3	70.8	61.8
末広町	140.2	82.3	61.4	90.2
春日町	81.7	97.6	33.9	9.5
御幸町	121.1	72.3	76.3	68.9
逢坂一丁目	80.4	98.3	81.1	74.1
逢坂二丁目	114.2	87.1	93.4	86.7
札の辻	119.3	74.0	71.3	61.2
音羽台	62.0	92.4	73.6	52.8
朝日が丘一丁目	83.8	72.9	76.0	55.9
朝日が丘二丁目	72.2	82.4	59.3	33.1
本宮一丁目	138.6	81.4	55.2	56.3
本宮二丁目	74.6	79.3	64.9	48.0
学区平均	84.6	92.7	70.8	60.1
出典	1,2	1,2	2	2

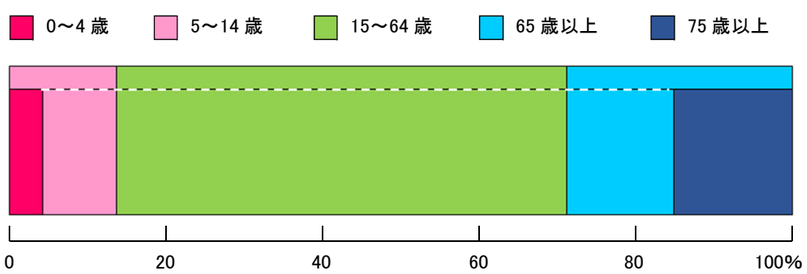
（注）表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
（注1）市街化区域を対象とした。
（注2）算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上，市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。
出典　1：大津湖南都市計画基礎調査（H30.2）土地利用現況
　　2：資産税データ（R4.4）

- 住宅密集度の学区平均は 84.6 戸/ha で市平均（全学区の平均）の 59.3 戸/ha を大きく上回り、市内で２番目の高さである。
- 不燃領域率の学区平均は 92.7%で市平均の 93.9%より低い。
- 木造率は、逢坂二丁目が 93.4%で最も高く、春日町が 33.9%で最も低い。学区平均は 70.8%で市平均 72.7%より低い。
- 旧耐震木造建物割合は、末広町が 90.2%で最も高く、春日町が 9.5%で最も低い。学区平均は 60.1%で市平均 40.3%より高い。

■ 人口の状況

項　　目	人口等	単位	備　　考	割合（%）	出典
学区人口	8,452	人		－	1
年齢別（0～4 歳）	357	人	学区人口に対する割合	4.2	1
年齢別（5～14 歳）	797	人	学区人口に対する割合	9.4	1
年齢別（15～64 歳）	4,856	人	学区人口に対する割合	57.5	1
年齢別（65 歳以上）	2,442	人	学区人口に対する割合	28.9	1
年齢別（75 歳以上）	1,288	人	学区人口に対する割合	15.2	1
世帯数	4,038	世帯		－	2
１世帯当たり人口	2.1	人/世帯		－	2
要介護認定者	568	人	学区人口に対する割合	6.7	3
身体障害者（要配慮者）	93	人	学区人口に対する割合	1.1	4
知的障害者（要配慮者）	24	人	学区人口に対する割合	0.3	4
外国人居住者	110	人	学区人口に対する割合	1.3	5

（注）１世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
出典　1：年齢別・学区別人口統計表（R4.3.31 現在）、2：学区別人口・世帯数の年別推移（R4.3.31 現在）
　　3：学区別要介護認定者（R4.4.30 現在）、4：大津市データ（R4.3.31 現在）
　　5：住民基本台帳情報からの統計（R4.3.31）



＜年齢別人口比率＞

- 学区北部の平野・扇状地・段丘部は人口集中地区（ＤＩＤ地区）である。
- 高齢者（65 歳以上）は 2442 人、乳幼児（0～4 歳）は 357 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 28.9%、4.2%である。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均（27.2%）より高く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均（3.9%）より高い。
- 要介護認定者は 568 人（6.7%）、身体障害者（要配慮者）は 93 人（1.1%）、知的障害者（要配慮者）は 24 人（0.3%）である。
- 外国人居住者は 110 人（1.3%）である。

■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 (注1)	25 箇所	1
土石流危険渓流 (注1)	3 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 (注1)(注2)	26 箇所	2
土砂災害警戒区域 (注1)(注2)	30 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） (注1)	0 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） (注1)	0 箇所	3
雪崩危険箇所 (注1)	0 箇所	4
地すべり防止区域 (注1)	0 箇所	5
地すべり危険箇所 (注1)	0 箇所	1
浸水想定区域 (注3)（0.0m～0.5m）	0 ㎡	6
（0.5m～1.0m）	0 ㎡	6
（1.0m～2.0m）	0 ㎡	6
（2.0m～）	0 ㎡	6
特に重要な水防区域 (注1)	1 箇所	7
重要水防区域 (注1)	1 箇所	7
防災重点農業用ため池 (注1)	0 箇所	8

（注 1）危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。
（注 2）複数の区域をまとめて１つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。
（注 3）浸水想定区域は、琵琶湖の水位が B.S.L.＋2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。
出典　1：滋賀県砂防課（R3.7.16）　2：滋賀県砂防課（R3.2）
3：滋賀県森林保全課（R3.11）　4：滋賀県砂防課（H24.12）　5：農林振興課、砂防課（H24.12）
6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）
7：琵琶湖河川事務所（R2.6）　8：大津市産業観光部（R3.12）

＜防災上の特性＞

- 逢坂学区の大部分は山地もしくは丘陵であり、北東部に人口が集中しているが、斜面と住宅との距離が近いのが特徴である。
- 学区内には、土石流危険渓流や急傾斜地崩壊危険箇所に指定されている斜面が多く存在している。土石流危険渓流や急傾斜地崩壊危険箇所に指定されている地域には住宅地も含まれており、避難場所がこれに近接している箇所も存在するため、豪雨時の斜面災害や土砂災害に留意する必要がある。地震時には、これらの斜面で崩壊が発生して２次的災害が発生する可能性もある。
- 学区北西部を流れる吾妻川沿いの地域は、重要水防箇所に指定されており、豪雨などの場合には注意が必要である。
- 学区内には、膳所断層が通過している。この断層が直接活動した場合には、断層の周辺部に大きな地表変位が生じる可能性があるが、直接活動しない場合においても、地震動（地震の揺れ）によって、断層通過部付近では、揺れが増幅して周辺より被害が大きくなる可能性がある（このような現象は兵庫県南部地震時にも見られている）。

■ 防災関連施設情報

＜指定緊急避難場所・指定避難所＞

種　類	名　称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	逢坂小学校グラウンド	○	○	○		音羽台 6-1
	逢坂幼稚園グラウンド	○	○	○		音羽台 6-2
	逢坂保育園グラウンド	○	○	○		音羽台 6-20
	打出中学校グラウンド	○	○	○		本宮二丁目 46-1
	滋賀短期大学附属高校グラウンド	○	○	○		朝日が丘一丁目 18-1
	朝日が丘保育園グラウンド	○	○	○		朝日が丘一丁目 23-33
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	逢坂市民センター	○	○	○		京町三丁目 1-3
	逢坂小学校体育館	○	○	○		音羽台 6-1
	逢坂幼稚園	○	○	○		音羽台 6-2
	打出中学校体育館	○	○	○		本宮二丁目 46-1
	滋賀短期大学附属高校体育館	○	○	○		朝日が丘一丁目 18-1
指定避難所	打出中学校武道場	—				本宮二丁目 46-1
	（福）朝日が丘保育園	—				朝日が丘一丁目 23-33
	（福）逢坂保育園	—				音羽台 6-20
	（福）滋賀保護院	—				本宮二丁目 6-45

（注）指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。
指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。
※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

＜市関連機関＞

名　称	所在地	電話番号
大津市役所	**御陵町 3-1**	**523-1234，528-2616**
逢坂市民センター	京町三丁目 1-3	524-7827

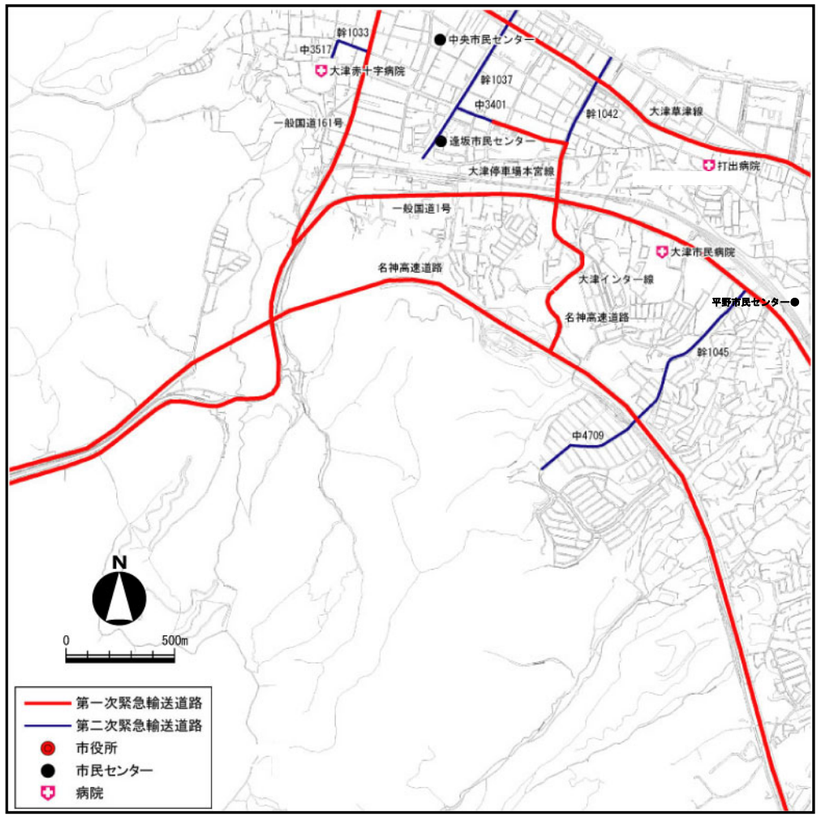
＜警察　110＞

名　称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	**打出浜 1-10**	**522-1231**
大津警察署	**打出浜 12-7**	**522-1234**
大津駅前交番	梅林一丁目 3-15	524-8710

＜消防　119＞

名　称	所在地	電話番号
大津市消防局	**御陵町 3-1**	**522-0119**
中消防署	**御陵町 3-1**	**525-0119**
逢坂分団	音羽台 5-1	524-4190

＜緊急輸送道路＞



（注）緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

＜医療施設＞

種　別		名　称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35	522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9	522-4607
	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298	594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29	573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1	537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町	548-2111

■ 地震災害危険度予測

＜地震被害想定結果＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース１	2,915	7,966	417	798	816	6	7	5	161	180	130	9	9	7
ケース２	2,915	7,966	992	713	1,349	26	32	22	93	96	75	5	5	4
ケース３	2,915	7,966	414	764	796	8	10	7	131	150	108	8	9	7

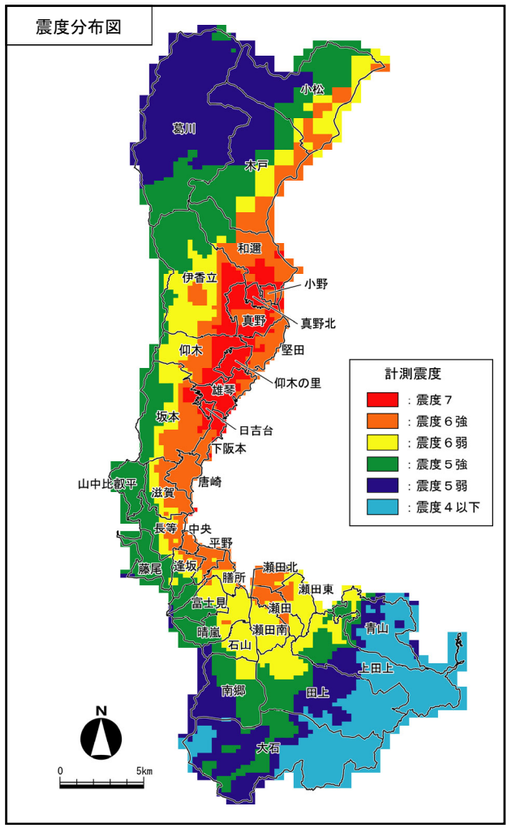
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース１	0	1	1	939
ケース２	1	2	2	1,335
ケース３	0	1	1	901

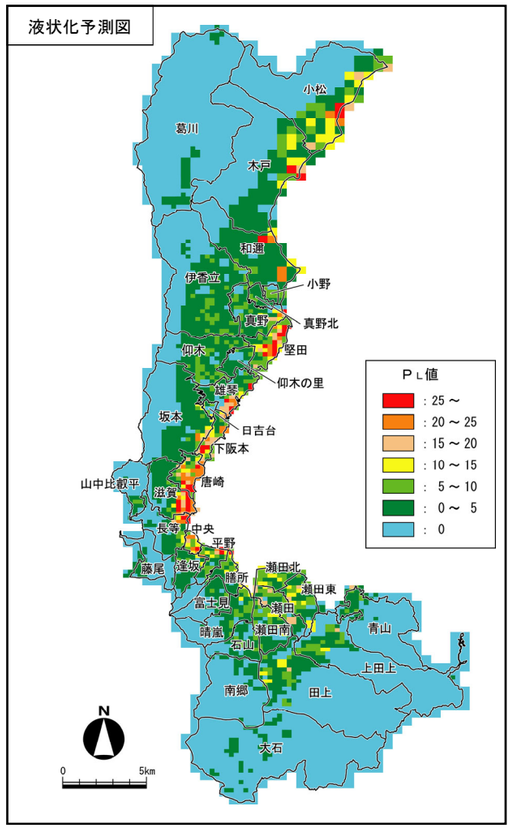
（注）表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜震度分布及び液状化予測図＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震（ケース２）





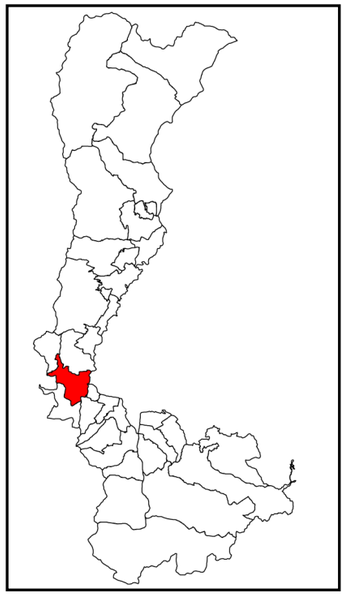
出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

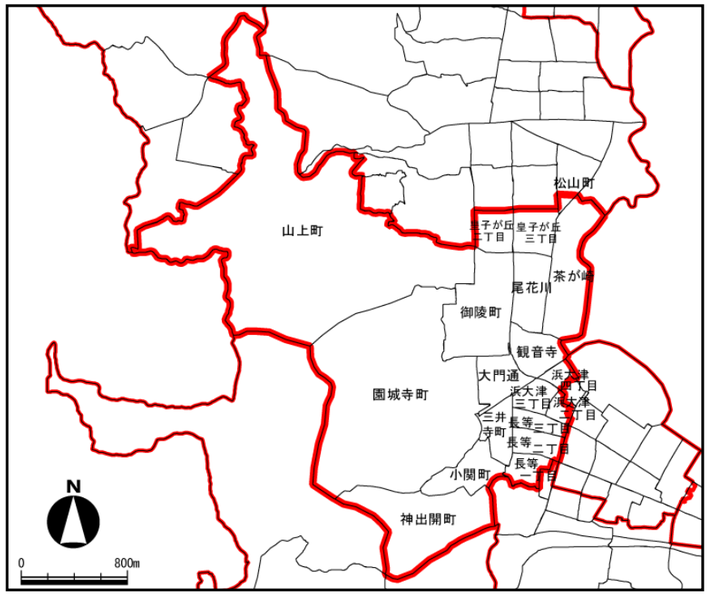
（ＰＬ≧10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
ＰＬ≧20 激しい液状化）

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）

◆ 長等学区

■ 学区の概況





＜町丁名＞

皇子が丘二丁目、皇子が丘三丁目、松山町の一部、大門通、園城寺町、山上町、観音寺、尾花川、茶が崎、御陵町、浜大津二丁目の一部、浜大津三丁目、浜大津四丁目の一部、長等一丁目、長等二丁目、長等三丁目、小関町、三井寺町、神出開町

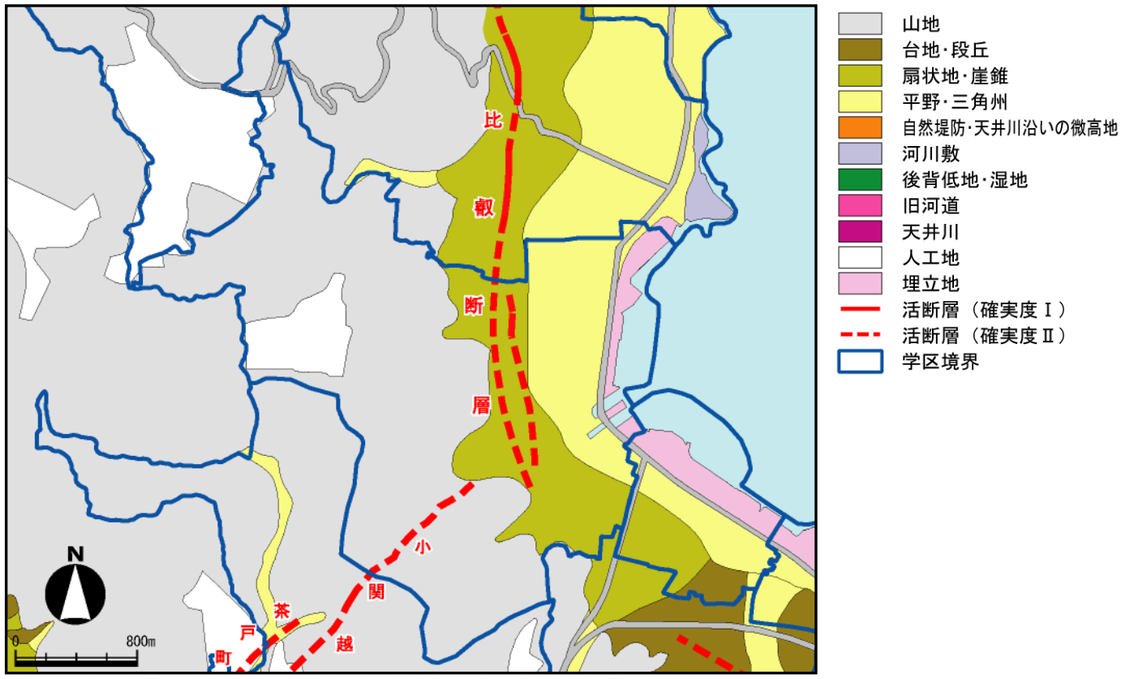
（注）学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

＜学区の特徴＞

大津市のほぼ中央に位置する長等学区は大津市役所など行政の主要施設が存在する。長等山の山麓から湖岸に広がり、長等山を通る東海道自然歩道や自然観察の森一帯は、市街地に隣接しながら四季折々の自然を楽しめる身近な森として親しまれている。

また、このあたりは平安時代以降に建立された園城寺（三井寺）とともに栄え、今も多くの参拝者が訪れるなど、歴史深い観光地としての特性がある。

■ 地形・地質の概要



（注）図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜地形の特徴＞

- 長等学区の地形は東部の低地と西部の山地からなる。低地は低平な氾濫原性低地とやや傾斜を持った扇状地性低地に細分される。
- 茶が崎、尾花川、観音寺、浜大津付近は氾濫原となり、御陵町、大門通、三井寺町、長等付近が扇状地となる。扇状地は坂本学区より石山学区まで連続的に分布し複合扇状地となっている。
- 湖岸には埋立地が造成されているほか、扇状地や山地にも人工改変が進んでいる。山地部の大規模な人工地にはゴルフ場があり、湖岸部には埋立地が広がっている。

＜地質の特徴＞

- 40 万年前頃から地殻変動の活発化に伴う比良、比叡の両山地の上昇により、多量の砂礫が供給されたことや、流域面積の小さい河川が多数分布することなどに起因する。低地と山地の境界部には比叡断層が南北に通過する。
- 扇状地の幅は地質の違いを反映し、背後の山地が花崗岩である北部の方が、中古生層の山地を背後に持つ南部よりも幅が広い。

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度（戸/ha）(注1)	不燃領域率（%）(注2)	木造率（%）	旧耐震木造建物/木造建物（%）
皇子が丘二丁目	51.1	95.1	26.9	60.0
皇子が丘三丁目	111.1	95.8	40.8	64.2
松山町	44.3	87.8	47.1	10.5
大門通	78.5	69.9	78.6	53.5
園城寺町	－	－	50.0	50.0
山上町	49.9	98.1	71.1	57.5
観音寺	94.1	70.7	82.5	65.8
尾花川	66.4	71.1	79.7	75.2
茶が崎	－	－	－	－
御陵町	45.0	97.9	52.2	57.1
浜大津二丁目	109.7	80.4	56.9	70.3
浜大津三丁目	73.7	68.1	70.7	64.1
浜大津四丁目	31.1	94.1	52.9	59.3
長等一丁目	89.5	87.2	75.0	63.7
長等二丁目	114.4	65.4	78.0	80.8
長等三丁目	100.5	61.0	81.1	78.7
小関町	76.2	86.4	77.2	66.2
三井寺町	76.6	57.7	82.9	62.3
神出開町	－	－	83.3	53.3
学区平均	71.3	94.5	71.7	65.9
出典	1,2	1,2	2	2

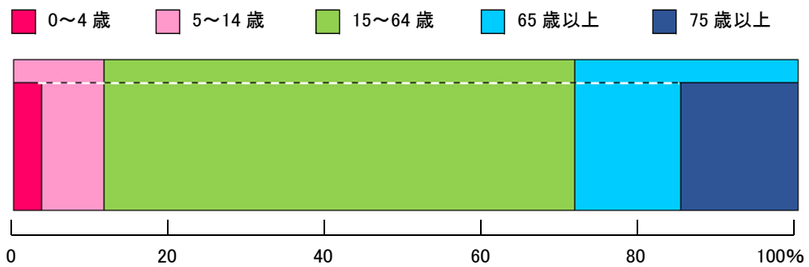
（注）表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
（注 1）市街化区域を対象とした。
（注 2）算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上，市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。
出典　1：大津湖南都市計画基礎調査（H30.2）土地利用現況
　　2：資産税データ（R4.4）

- 住宅密集度の学区平均は 71.3 戸/ha で市平均（全学区の平均）の 59.3 戸/ha より高い。
- 不燃領域率の学区平均は 94.5%で市平均の 93.9%より高い。
- 木造率は、神出開町が 83.3%で最も高く、皇子が丘二丁目が 26.9%で最も低い。学区平均は 71.7%で市平均 72.7%より低い。
- 旧耐震木造建物割合は、長等二丁目が 80.8%で最も高く、松山町が 10.5%で最も低い。学区平均は 65.9%と市平均 40.3%を上回り、市内で４番目に高い。

■ 人口の状況

項　　目	人口等	単位	備　　考	割合（%）	出典
学区人口	12,399	人		－	1
年齢別（0～4 歳）	436	人	学区人口に対する割合	3.5	1
年齢別（5～14 歳）	978	人	学区人口に対する割合	7.9	1
年齢別（15～64 歳）	7,442	人	学区人口に対する割合	60.0	1
年齢別（65 歳以上）	3,543	人	学区人口に対する割合	28.6	1
年齢別（75 歳以上）	1,870	人	学区人口に対する割合	15.1	1
世帯数	6,116	世帯		－	2
１世帯当たり人口	2.0	人/世帯		－	2
要介護認定者	782	人	学区人口に対する割合	6.3	3
身体障害者（要配慮者）	177	人	学区人口に対する割合	1.4	4
知的障害者（要配慮者）	20	人	学区人口に対する割合	0.2	4
外国人居住者	145	人	学区人口に対する割合	1.2	5

（注）１世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
出典　1：年齢別・学区別人口統計表（R4.3.31 現在）、2：学区別人口・世帯数の年別推移（R4.3.31 現在）
　　3：学区別要介護認定者（R4.4.30 現在）、4：大津市データ（R4.3.31 現在）
　　5：住民基本台帳情報からの統計（R4.3.31）



＜年齢別人口比率＞

- 学区人口のほとんどが集中する東側の低地～扇状地の地域は人口集中地区（ＤＩＤ地区）である。
- 高齢者（65 歳以上）は 3543 人、乳幼児（0～4 歳）は 436 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 28.6%、3.5%である。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均（27.2%）より高く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均（3.9%）より低い。
- 要介護認定者は 782 人（6.3%）、身体障害者（要配慮者）は 177 人（1.4%）、知的障害者（要配慮者）は 20 人（0.2%）である。
- 外国人居住者は 145 人（1.2%）である。

◆ 長等学区

■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 (注1)	25 箇所	1
土石流危険渓流 (注1)	11 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 (注1)(注2)	28 箇所	2
土砂災害警戒区域 (注1)(注2)	43 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） (注1)	6 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） (注1)	3 箇所	3
雪崩危険箇所 (注1)	0 箇所	4
地すべり防止区域 (注1)	0 箇所	5
地すべり危険箇所 (注1)	0 箇所	1
浸水想定区域 (注3)（0.0m～0.5m）	185,164 ㎡	6
（0.5m～1.0m）	153,639 ㎡	6
（1.0m～2.0m）	119,374 ㎡	6
（2.0m～）	16,823 ㎡	6
特に重要な水防区域 (注1)	0 箇所	7
重要水防区域 (注1)	1 箇所	7
防災重点農業用ため池 (注1)	0 箇所	8

（注 1）危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。
（注 2）複数の区域をまとめて１つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。
（注 3）浸水想定区域は、琵琶湖の水位が B.S.L.＋2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。

出典　1：滋賀県砂防課（R3.7.16）　2：滋賀県砂防課（R3.2）
3：滋賀県森林保全課（R3.11）　4：滋賀県砂防課（H24.12）　5：農林振興課、砂防課（H24.12）
6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）
7：琵琶湖河川事務所（R2.6）　8：大津市産業観光部（R3.12）

＜防災上の特性＞

- 学区西部地域の山地部には防災上注意の必要な危険箇所の指定部は少ないが、東部丘陵～低地部は市街化しており人口が集中すること、あわせて山地との境界部に比叡断層が南北に通過し、その周辺が土石流危険渓流に指定されていることが特徴である。
- 豪雨などの場合には、この土石流危険渓流及び急傾斜地崩壊危険場所部分に警戒が必要であるが、市街地部の内水氾濫にも注意が必要である。
- 湖岸沿いの市街地部には、琵琶湖湖面の上昇による浸水想定区域が広がっており、琵琶湖からの浸水にも注意が必要である。
- 地震時には、山地部で崩壊が生じ、２次的に災害が発生する可能性がある。また、地震発生について、比叡断層が直接活動した場合は断層の周辺部に大きな地表変位が生じる可能性があるが、直接活動しない場合においても、地震動（地震の揺れ）によって、断層通過部付近では、揺れが増幅して周辺より被害が大きくなる可能性がある（このような現象は兵庫県南部地震時にも見られている）。
- 湖岸域では、液状化の可能性もある。

■ 防災関連施設情報

＜指定緊急避難場所・指定避難所＞

種　類	名　称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	長等小学校グラウンド	○	○	○		大門通 5-1
	皇子山中学校グラウンド	○		○		尾花川 12-1
	長等幼稚園グラウンド	○	○	○		三井寺町 10-30
	滋賀県立大津商業高校グラウンド		○	○		御陵町 2-1
	尾花川公園	○		○		尾花川 1
	皇子山総合運動公園	○		○	○	御陵町 4
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	長等市民センター	○	○	○		大門通 16-40
	長等小学校体育館	○	○	○		大門通 5-1
	皇子山中学校体育館	○		○		尾花川 12-1
	長等幼稚園	○	○	○		三井寺町 10-30
	滋賀県立大津商業高校体育館	○	○	○		御陵町 2-1
	市民文化会館	○	○	○		御陵町 2-3
	県立スポーツ会館	○	○	○		御陵町 4-1
指定避難所	皇子山中学校武道場	―				尾花川 12-1

（注）指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。
指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。
※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

＜市関連機関＞

名　称	所在地	電話番号
大津市役所	**御陵町 3-1**	**523-1234，528-2616**
長等市民センター	大門通 16-40	525-0854

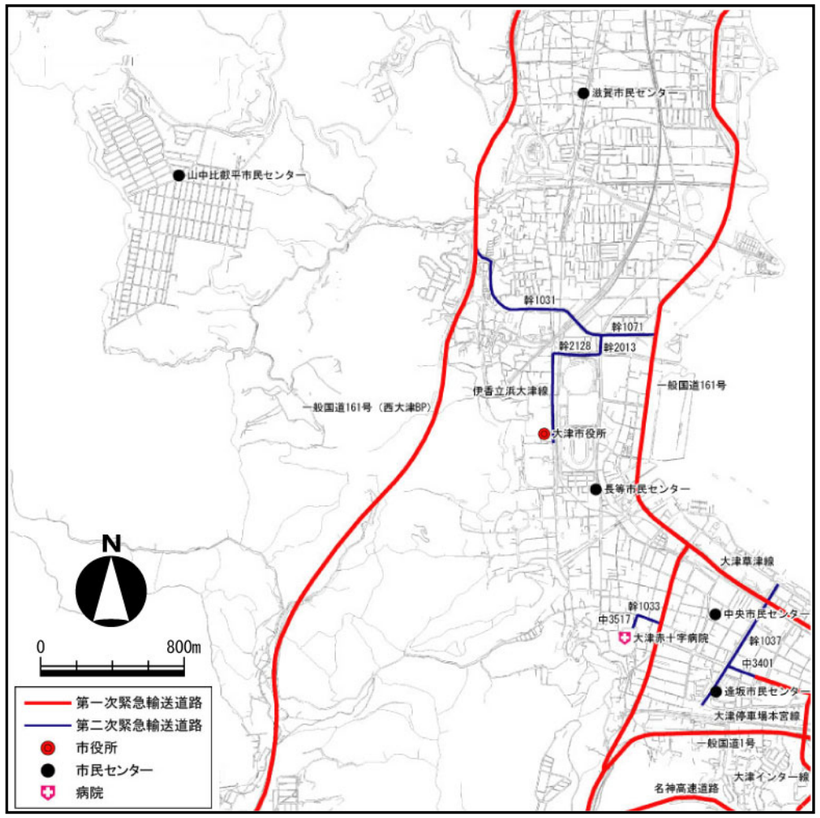
＜警察　110＞

名　称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	**打出浜 1-10**	**522-1231**
大津警察署	**打出浜 12-7**	**522-1234**
皇子山交番	皇子が丘三丁目 3-19	525-1417

＜消防　119＞

名　称	所在地	電話番号
大津市消防局	**御陵町 3-1**	**522-0119**
中消防署	**御陵町 3-1**	**525-0119**
長等分団	大門通 16-39	525-3425

＜緊急輸送道路＞



（注）緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

＜医療施設＞

種　別		名　称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35	522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9	522-4607
	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298	594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29	573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1	537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町	548-2111

■ 地震災害危険度予測

＜地震被害想定結果＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース１	3,243	11,024	808	832	1,224	17	27	18	179	205	163	9	10	8
ケース２	3,243	11,024	943	808	1,348	22	35	22	164	188	152	8	9	8
ケース３	3,243	11,024	600	843	1,021	14	22	16	192	234	176	11	12	10

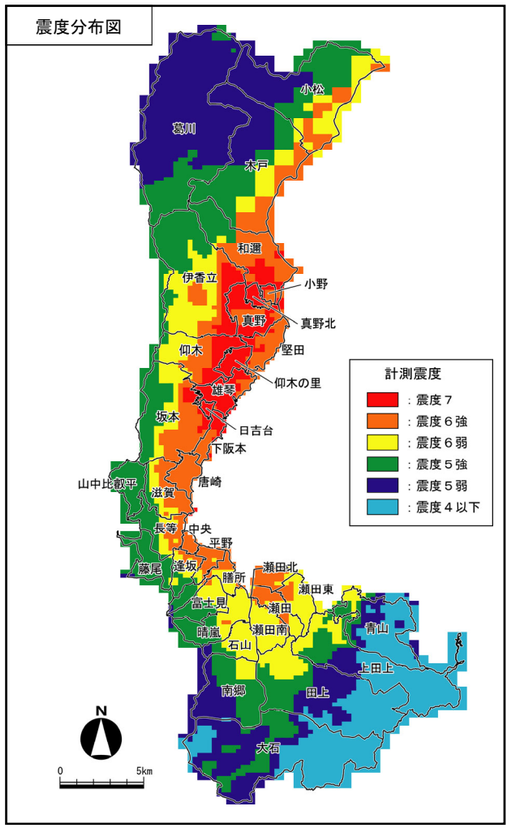
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース１	1	2	2	1,520
ケース２	1	2	3	1,609
ケース３	1	1	2	1,362

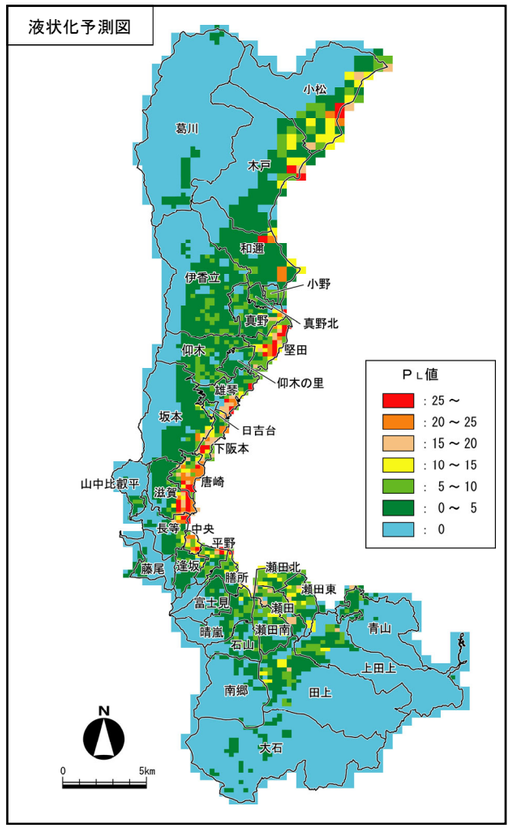
（注）表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜震度分布及び液状化予測図＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震（ケース２）





出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

（P L≧10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
P L≧20 激しい液状化）

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）